

RSELユニット
RCON-PC / PCF / AC / DC / SC (PS)
RCON接続仕様 SCON
PIO/SIO/SCON拡張ユニット

R-unit
RSEL

クイックスタートガイド

EtherNet/IP™

仕様

第1版



RSEL システム

STEP
1

配線する

p 8

- 1. コントローラーの配線 p 9
- 2. アクチュエーターの配線 p20
- 3. ネットワーク・PIOの配線 p27

STEP
2

初期設定をする

p31

- 1. パソコン対応ソフトの設定 p32
- 2. SELユニットの設定 p38
- 3. PLCの設定 p60
- 4. ネットワークの通信状態確認 p98

STEP
3

動作させる

p101

- 1. パソコン専用ティーチングソフトから動作させる p102

はじめに

本書は、EtherNet/IP仕様のRSEL立上げ作業を、より早く・簡単に行うために作られた資料です。
取扱いの詳細内容に関しては、別途弊社RSEL取扱説明書（MJ0392）をご覧くださいませよう
お願いします。

また、RSELの各ユニットが連結したものを『RSELシステム』という表記で説明をしています。

【本書対応の内容】

RSELユニット
RCON-PC / PCF / AC / DC / SC (PS)
RCON接続仕様 SCON
PIO/SIO/SCON拡張ユニット



本書では、RユニットのRSEL・EtherNet/IP仕様に共通した内容に関して、RCP6/RCS4
アクチュエーター+RSELシステムを例に説明いたします。
また、ツール操作は、XSEL用パソコン対応ソフト、パソコンOS環境はWindows 10 にて説明します。

SELユニットの型式確認

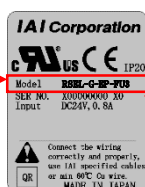
SELユニット本体右側面部分に張付けられた型式銘版の Model 部分に型式が記載してあります。

この項目★部記載内容（I/O種類を表示）が“EP”（EtherNet/IP接続）であることをご確認ください。

SELユニット



型式銘版



Model RSEL - G - **EP** - FU3

EP（EtherNet/IP仕様）
であることを確認



1 必要な機器の確認

以下の機器を用意してください。



注意

RSELシステムは各ユニットを連結せず、個々のユニットを包装し出荷をしています。開梱時、まずお客様で注文された各ユニットが必要数あることをご確認ください。以下に同梱されている製品の例を掲載します。

- SELユニット（型式例：RSEL-G-EP-TRN） 数量：1

SELユニット

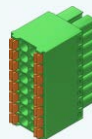


- ダミープラグ
数量：1
型式：DP-4S



※SELユニットに付属

- システムI/Oコネクタ
数量：1
型式：DFMC1.5/8-ST-3.5



※SELユニットに付属

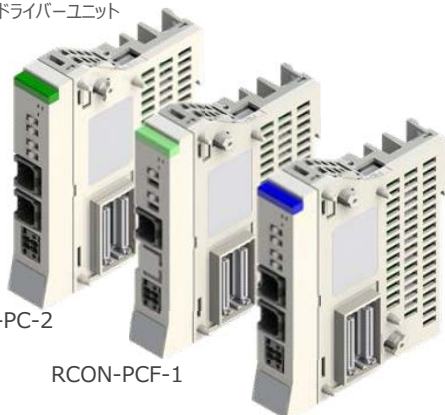
- ファンユニット
数量：SELユニット型式による
型式：RCON-FU



オプション

- 24Vドライバーユニット（型式例：RCON-PC/PCF/AC/DC） 数量：お客様の仕様による

24Vドライバーユニット



RCON-PC-2

RCON-PCF-1

RCON-AC-2

- 駆動源遮断コネクタ
数量：1（ユニット毎）
型式：DFMC1.5/2-STF-3.5



※RCONドライバーユニットに付属



● 200V電源ユニット 数量：1台（型式：RCON-PS2-3）



- 電源用コネクター
数量1
型式：SPC 5_4-STF-7,62



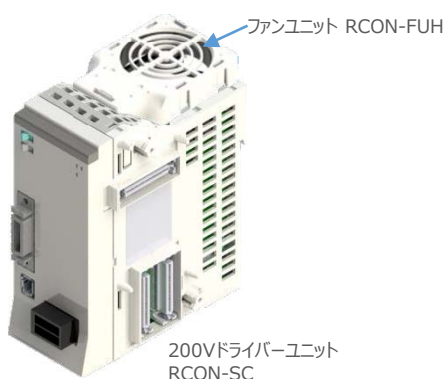
※RCONゲートウェイユニットに付属

- ファンユニット
数量：1
型式：RCON-FU



※200V電源ユニットに付属

● 200Vドライバーユニット（型式：RCON-SC） 数量：お客様の仕様による



- ファンユニット
数量：1（ユニット毎）
型式：RCON-FUH



※200Vドライバーユニットに付属

- ダミープラグ
数量：1（ユニット毎）
型式：DP-6

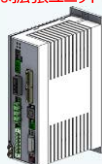


※200Vドライバーユニットに付属

● PIO/SIO/SCON拡張ユニット（型式：RCON-NP-EXT） 数量：お客様の仕様による



- SCON RCON接続仕様
数量：お客様の仕様による
型式：SCON-CB-***RC0-*
※ -RC は拡張ユニットオプション



- ターミナルユニット（終端抵抗）
数量：お客様の仕様による
型式：RCON-EXT-TR



※ SCON-CB-RC に付属

- 接続ケーブル
数量：お客様の仕様による
型式：CB-RE-CTL002



※ SCON-CB-RC に付属

- PIOフラットケーブル
数量：1
型式：CB-PAC-PIO***



※ PIO/SIO/SCON
拡張ユニットに付属

- SIO コネクター
数量：1
型式：FMC1,5/3-STF-3,5



※ PIO/SIO/SCON
拡張ユニットに付属



- 24V電源ユニット（型式例：PSA-24(L)） 数量：お客様の仕様による

PSA-24(L)



※市販のDC24V電源でも可

- 通信用コネクター
数量：2（ユニット毎）
型式：0221-2403



※PSA-24(L)に付属

- ティーチングツール

- ティーチングボックス
型式：TB-02/03-*



- パソコン専用ティーチングソフト
XSEL/パソコン対応ソフト
型式：IA-101-X-*



どちらか一方

※ティーチングボックスとパソコン専用ティーチングソフトはどちらか一方が必要



- アクチュエーター（型式例：RCP6-** / RCS4-**） 数量：お客様の仕様による



● モーターエンコーダーケーブル

数量1

型式：CB-ADPC-MPA***/
CB-ADPC-MPA***-RB



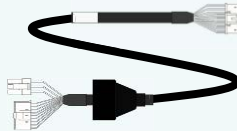
※アクチュエーターに付属



● モーターエンコーダーケーブル

数量：1

型式：CB-PSEP-MPA***



※アクチュエーターに付属

● コネクター変換ユニット

数量：1

型式：RCM-CV-APCS



※ RCONDライバーユニットへ接続する為に必要です。
当製品は別途準備が必要です。

● モーターエンコーダーケーブル

数量：1

型式：CB-ADPC-MPA***



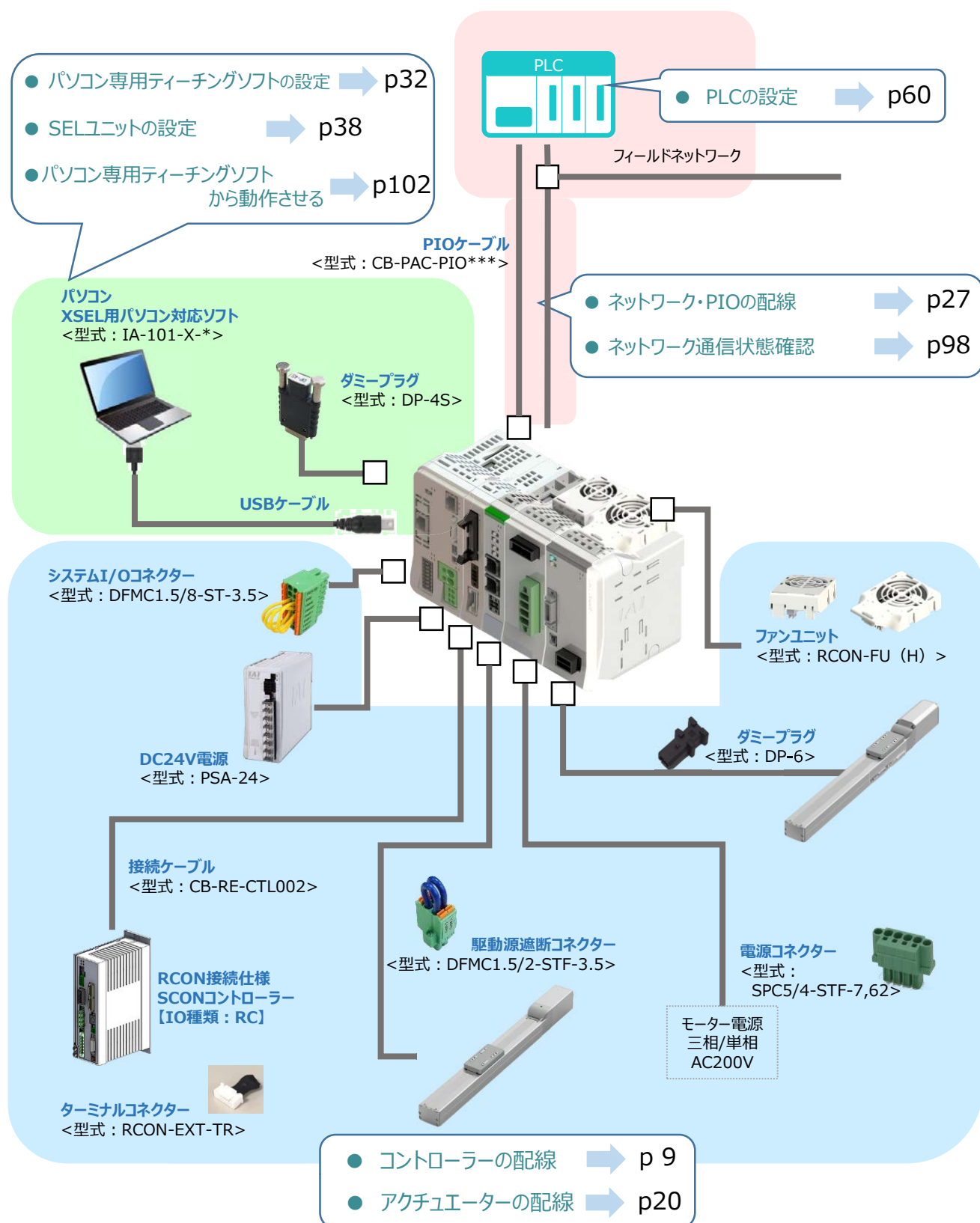
● モーターケーブル / エンコーダーケーブル 数量 各1

型式：CB-***-MA*** / CB-***-P(L)A***



※アクチュエーターに付属

2 接続図から探す



STEP 1

配線する

- | | |
|-------------------------|-----|
| 1. <u>コントローラーの配線</u> | P 9 |
| 2. <u>アクチュエーターの配線</u> | p20 |
| 3. <u>ネットワーク・PIOの配線</u> | p27 |

1 コントローラの配線

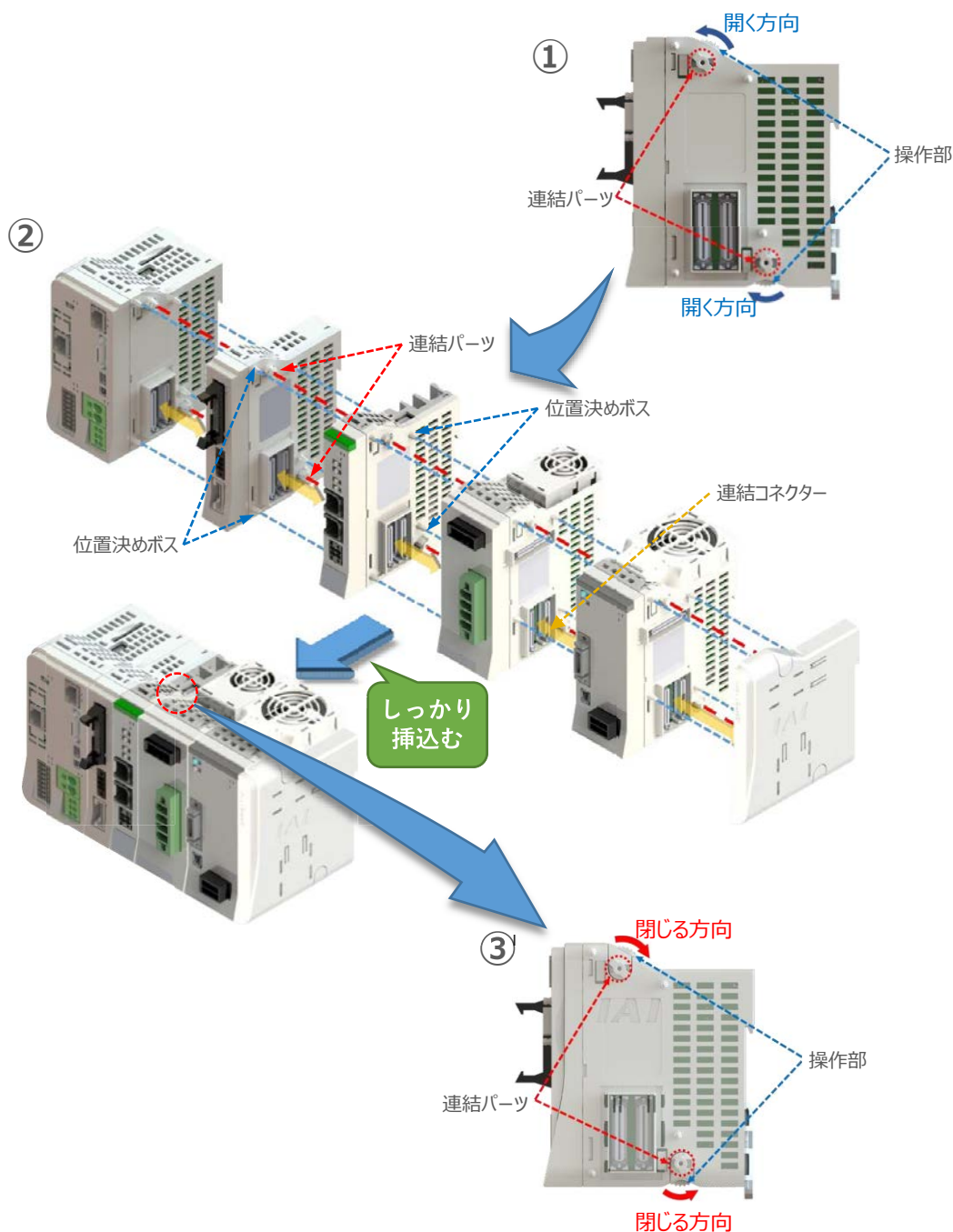
RSELシステムの組立て

1 各ユニットの連結

用意する物

SELユニット/ドライバーユニット/
PIO・SIO・SCON拡張ユニット
ターミナルユニット/SCON-CB-*・RC/
200V電源ユニット

- ① “連結パーツ”の“操作部”を開く方向に回して止めます。
- ② “連結パーツ”、“位置決めボス”、“連結コネクター”がはめ合う様に合わせ、しっかりと挿込みます。
- ③ ユニット間の“連結パーツ”の操作部を閉じる方向に回して止めます。

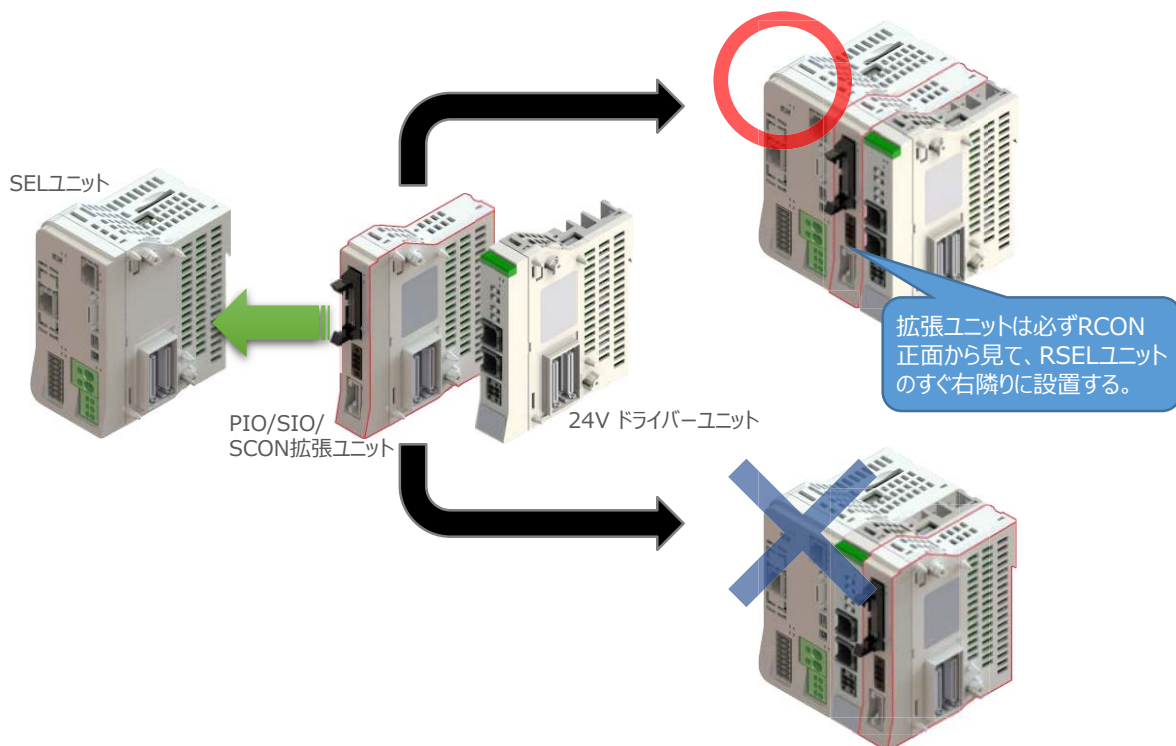




注意

SCON拡張ユニットを連結する場合の注意点

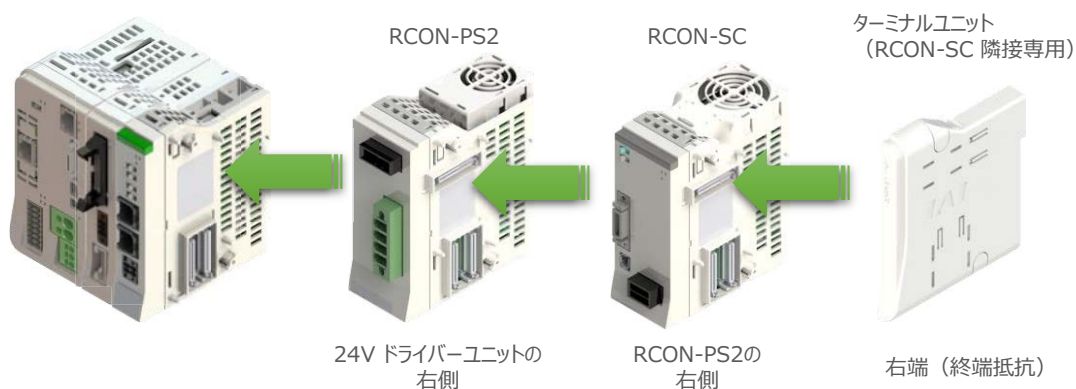
SCON拡張ユニットについては、SELユニットに隣接するよう設置願います。
接続順番が異なる場合、通信に不具合が生じる可能性があります。



注意

RCON-PS/RCON-SC をつなげる場合の注意点

- RCON-PSは、24Vドライバーユニットの右隣（24Vドライバーユニットがない場合はSELユニットの右隣）に配置します。
- RCON-SCは、RCON-PSの右隣に配置します。RCON-SCの右端にはターミナルユニットを配置します。
- ターミナルユニットは24V用と200V用のもので異なります。必ずRCON-PS2に付属のものを使用してください。



補足 1

ファンユニット取付け

オプションのファンユニットを取付ける手順について説明します。

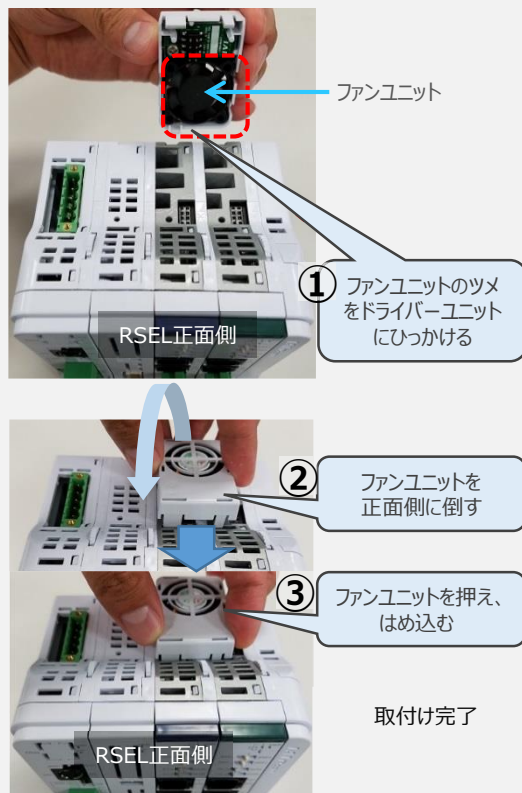
※ RCON-PS2-3には出荷時に取付けて出荷しています。

- ① RSELシステムとファンユニットの取付け向きを合わせます。

ファンユニットのツメを、ドライバーユニットへ右図のようにひっかけます。

- ② ファンユニットをRSELシステム正面側に倒します。

- ③ ファンユニットを上から押え、はめ込みます。



補足 2

200Vドライバーユニットへのファンユニット取付け

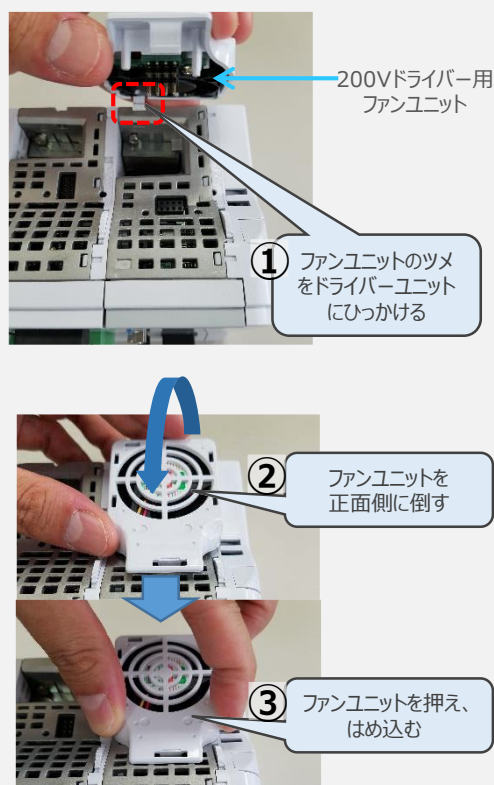
200Vドライバー用のファンユニットは、RCON-SCに取付けて出荷されます。本補足は、メンテナンスなどの際にご活用ください。

- ① RCON-SCとファンユニットの取付け向きを合わせます。

ファンユニットのツメを、RCON-SCへ右図のようにひっかけます。

- ② ファンユニットを正面側に倒します。

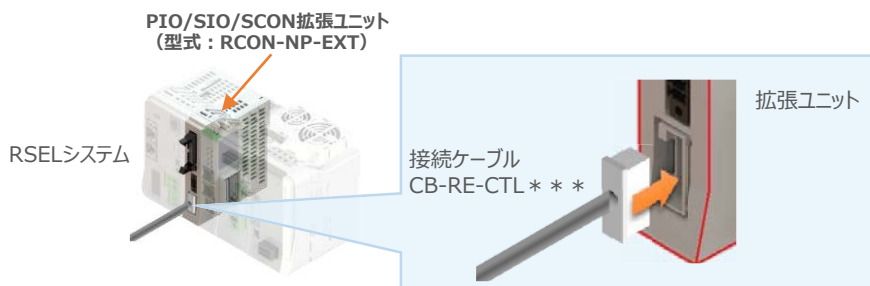
- ③ ファンユニットを上から押え、はめ込みます。



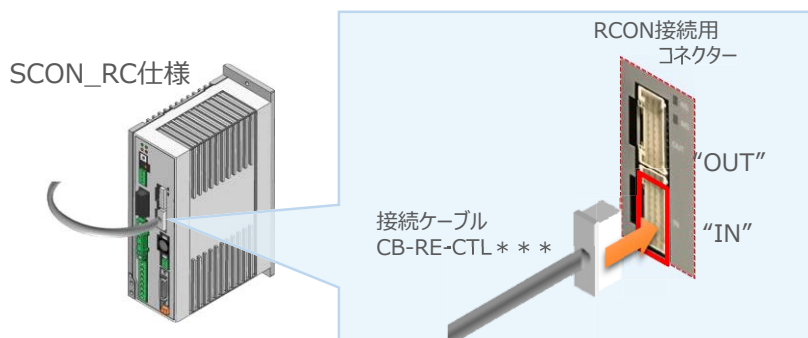
2 SCON と 拡張ユニットの接続

RSELシステムの仕様に**SCON拡張ユニットを含む場合**、以下の手順で組立てを行ってください。

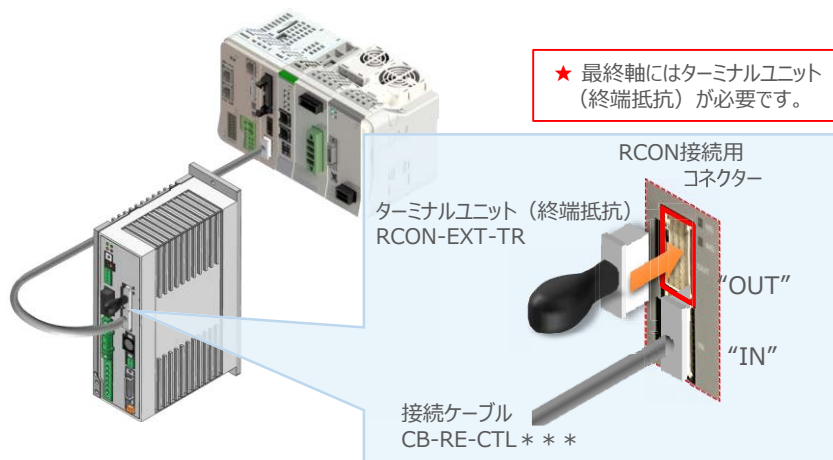
- ① SCON拡張ユニットの接続コネクタにケーブルのコネクタを挿入します。



- ② SCON拡張ユニット（もしくは、PIO/SIO/SCON拡張ユニット）に接続したケーブル端のもう一方をSCON_RC仕様にある、RCON接続用コネクタの“IN”側に挿入します。



- ③ SCONの“OUT”側RCON接続用コネクタにターミナルユニット（終端抵抗）を挿入します。



SCON本体の配線につきましては、クイックスタートガイド SCON（MJ0369）を参照願います。

SELユニットへの電源配線

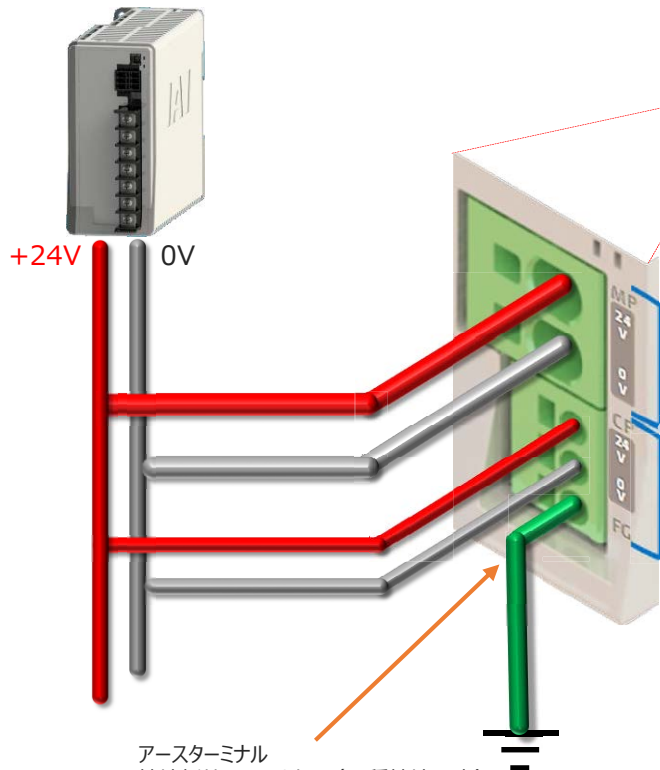
用意する物

SELユニット／DC24V電源

3 電源コネクタへの配線

コントローラーに電源を供給するため、各コネクタの各端子へ配線をします。
以下の接続例を見ながら、配線作業を行ってください。

DC24V電源（型式：PSA-24(L)）



アースターミナル
接地抵抗100Ω以下（D 種接地工事）

※ 軟銅線：直径1.6mm（2mm²：AWG14）以上の
アース線で接続してください。

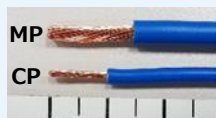
SELユニット
（型式：RSEL-G-EP）

RSELシステム

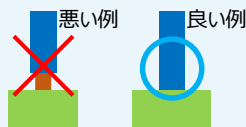
電源コネクタへの配線方法

① 各コネクタの配線線径は、下記表を参照ください。

② 配線のストリップ部長さは、
・ MP：15mm
・ CP：10mm
・ FG：10mm
とします。



③ マイナスドライバーを
電線挿込口隣の穴に
押込んだまま、端子口
へ電線を入れ、奥まで
挿入します。



④ マイナスドライバーを抜きます。

コネクタ	名 称	適合電線 線径 AWG (UL) (SQ (JIS))
	MP (モーター電源)	AWG 20～8 (0.5 ～ 8 sq)
 CP	CP (制御電源)	AWG 24～12 (0.2 ～ 3.5 sq)



注意

MP (モーター電源)、CP (制御電源) の電線は、コントローラーの電源供給部（コネクタ部）で電流値を許容できる太さのものを使用してください。
また、絶縁被覆の温度定格が60℃以上の電線を使用してください。



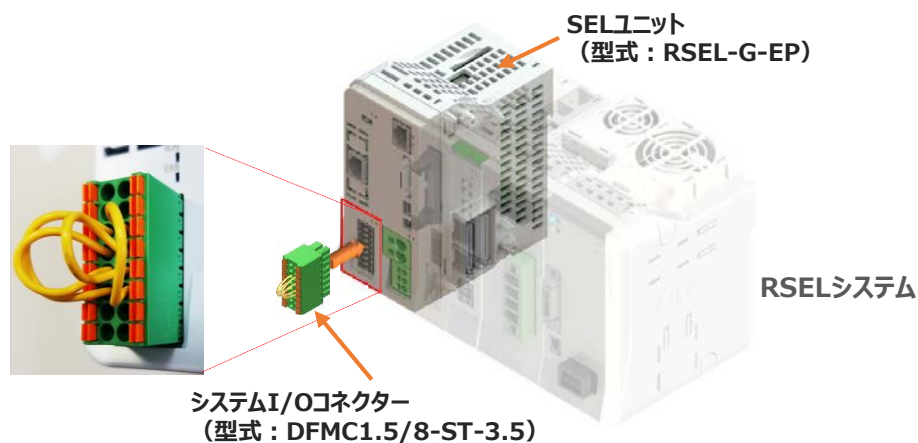
接続するアクチュエーター型式、ドライバーユニットにより、コントローラーの消費電流は異なります。
詳しくは、RSEL取扱説明書（MJ0392）の「仕様編 第2章 2.2 電源容量」を参照してください。

4

システムI/O コネクターへの配線

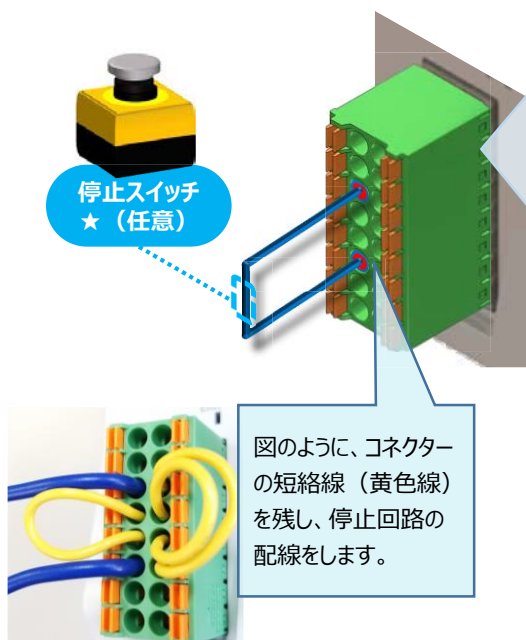
非常停止回路やイネーブル入力回路構築のためにはシステムI/Oコネクターの配線が必要です。
以下、配線方法を説明します。

- ① RSELマスターユニットのシステムI/O部に、システムI/O配線コネクターを差込みます。



- ② システムI/Oコネクターの各端子へ配線をします。

ここでは、停止回路に停止スイッチをつなげる例を示します。以下の接続例を見ながら、配線作業を行ってください。



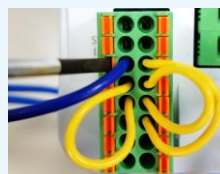
システムI/Oコネクターへの配線方法

- ① 線径 AWG20～16 の配線を用意します。

- ② 配線のストリップ部長さは、10mmとします。



- ③ 橙色の突起部にマイナスドライバーを押込んだまま端子口に電線を入れ、奥まで挿入します。



- ④ マイナスドライバーを放します。

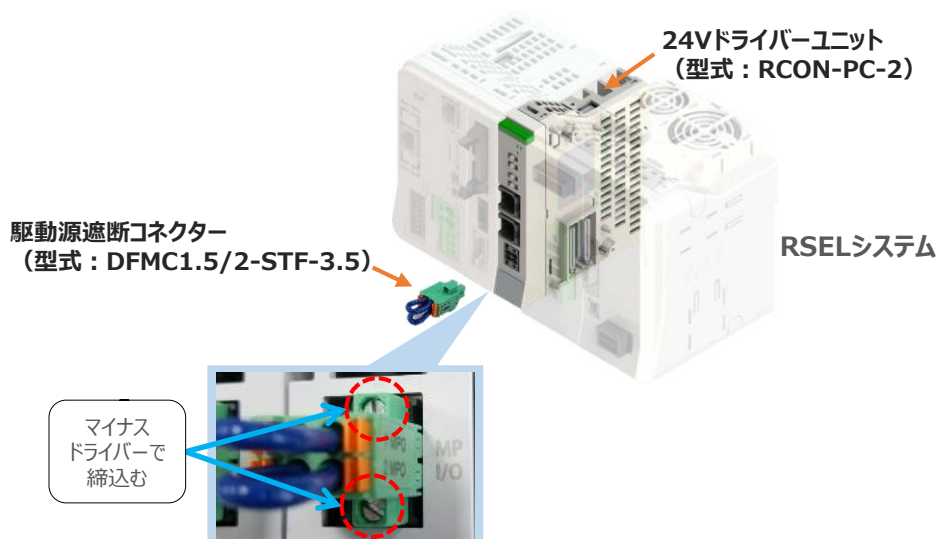
24Vドライバーユニット 駆動源遮断回路の配線

用意する物

24Vドライバーユニット/
駆動源遮断コネクタ

5 24Vドライバーユニットの駆動源遮断コネクタへの配線

- ① 24Vドライバーユニットの駆動源遮断入出力部にコネクタを差込みます。



- ② 24Vドライバーユニットに駆動源遮断回路を設けない場合は、納品時から配線してある短絡線をそのままにします。

駆動源遮断回路を設ける場合には、以下の要領で配線を行います。

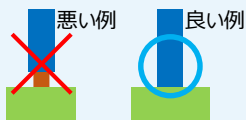
駆動源遮断コネクタへの配線方法

- ① 線径 AWG20～16 の配線を用意します。

- ② 配線のストリップ部長さは、
・ 10mm
とします。



- ③ 電線挿込口隣の穴に
マイナスドライバーを
押し込んだまま端子口
へ電線を入れ、奥まで
挿入します。



- ④ マイナスドライバーを抜きます。

200V電源ユニットへの電源配線

用意する物

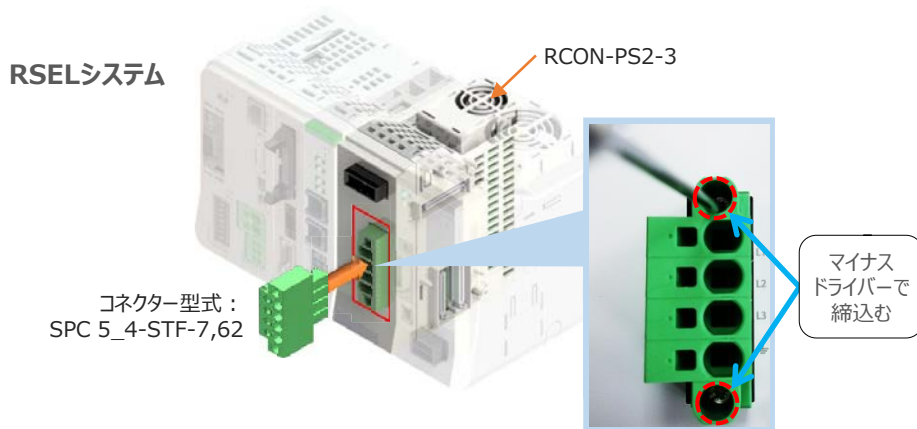
RCON-PS2 / 電源コネクター

6

RCON-PS2 電源コネクターへの配線

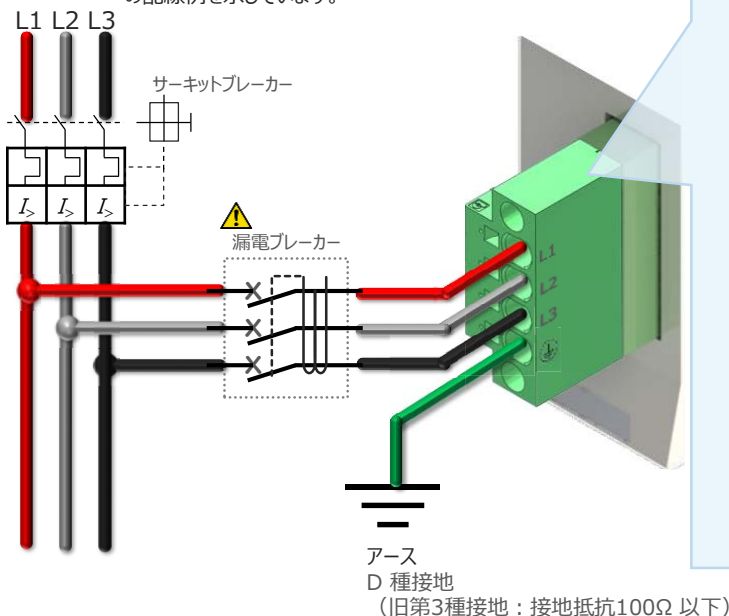
200VサーボドライバーRCON-SCを駆動用電源を供給するために、RCON-PS2の電源コネクターへ配線をします。

- ① 200Vモーター電源ユニット（RCON-PS2）に電源コネクターを挿入します。



- ② 各端子へ配線をします。以下の接続例を見ながら、配線作業を行ってください。

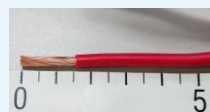
※ 事例では、3相200V電源の配線例を示しています。



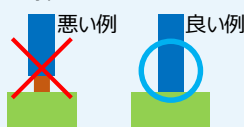
電源コネクターへの配線方法

- ① 線径 AWG14～8 の配線を準備します。

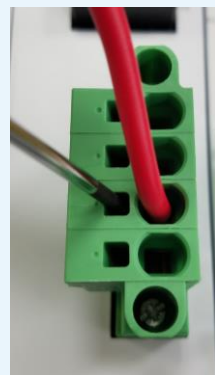
- ② 配線のストリップ部長さは、15mm とします。



- ③ 電線挿入口隣の穴にマイナスドライバーを押し込んだまま端子口へ電線を入れ、奥まで挿入します。



- ④ マイナスドライバーを抜きます。



注意

漏れ電流は、接続されるモーター容量、ケーブル長および周囲環境によって変化しますので、漏電保護を行う場合は、漏電ブレーカーの設置個所で漏れ電流の測定を行ってください。漏電ブレーカーに関しては、火災の保護、人間の保護などの目的を明確にして選定する必要があります。漏電ブレーカーは、高調波対応型(インバーター用)を使用してください。

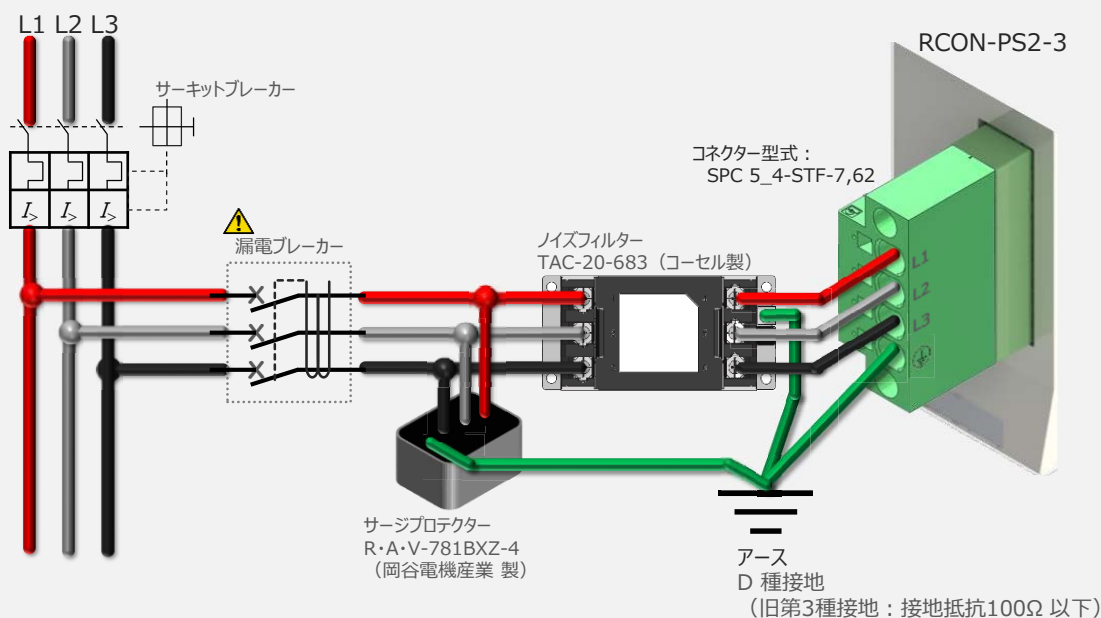
補足

ノイズフィルターを使用する場合の RCON-PS2 電源コネクタ配線

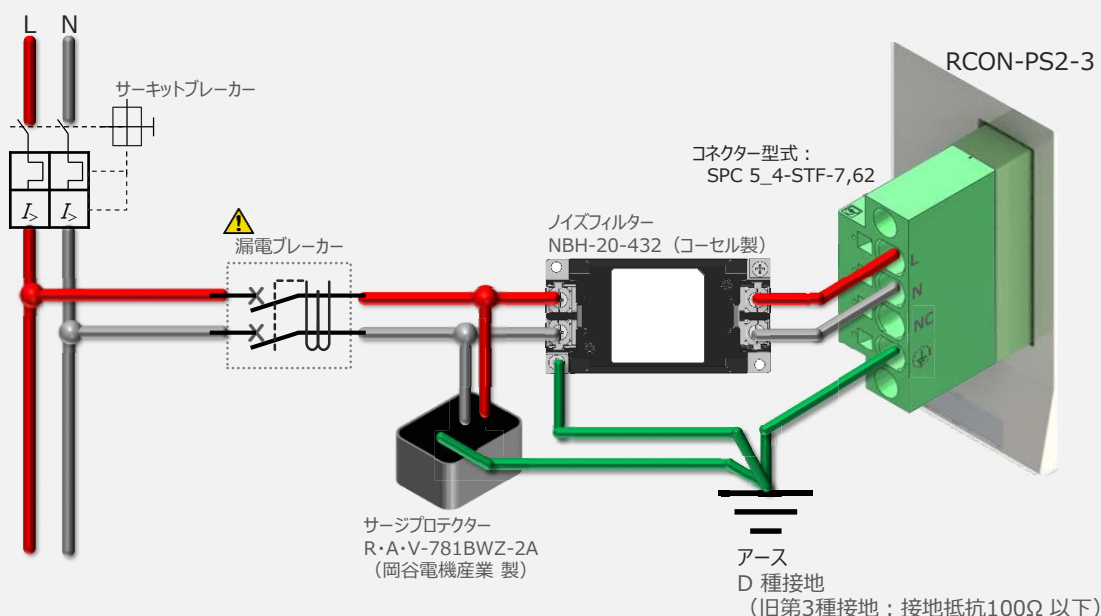
RCON-PS2にノイズフィルターの設置は不要です。しかし、装置をCEマーキング相当にする場合には、ノイズフィルターの設置が必要です。

以下に、ノイズフィルターを使用する場合の配線例を示します。

① 3相200V 電源供給時の配線例



② 単相200V 電源供給時の配線例



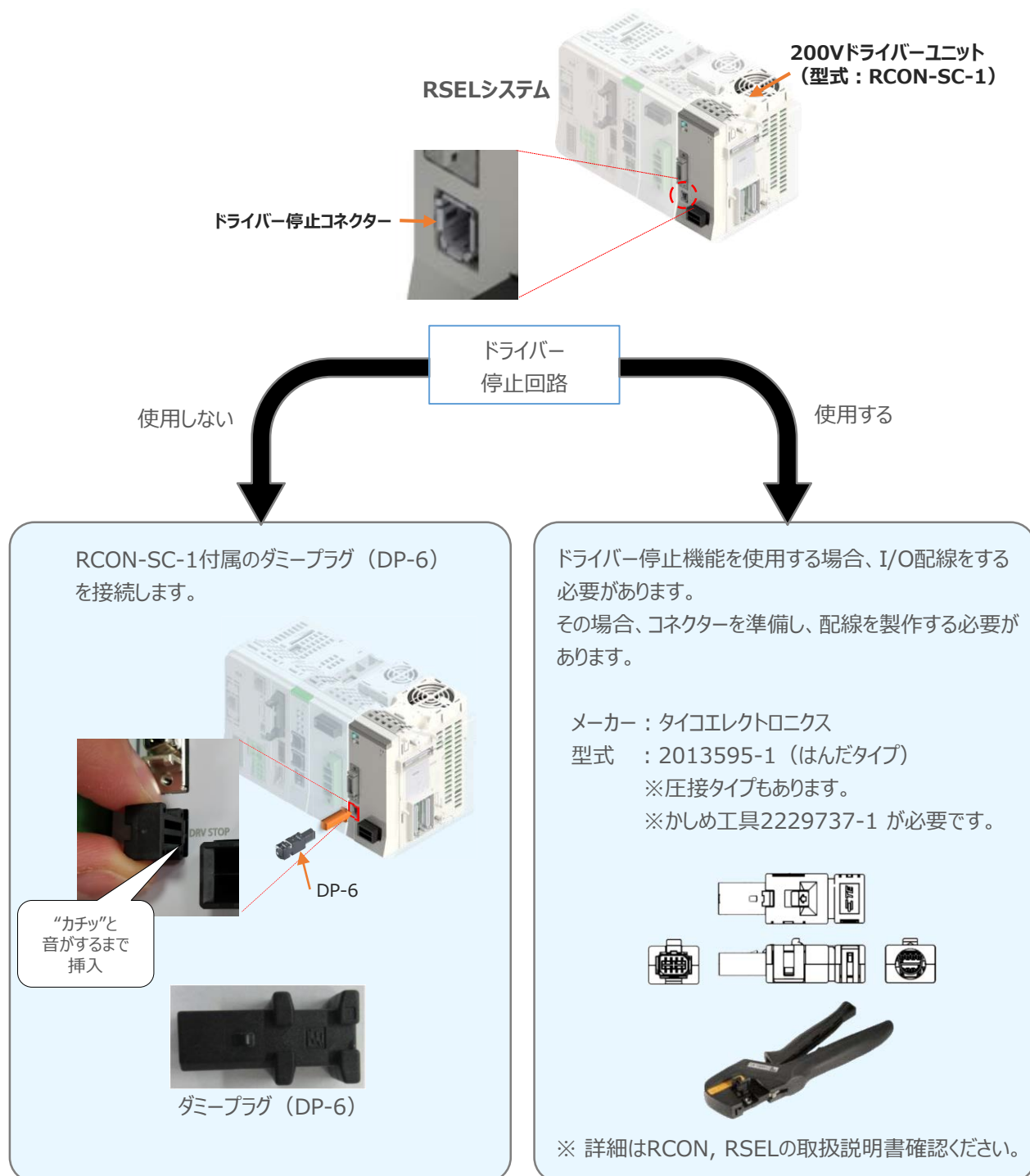
注意

漏れ電流は、接続されるモーター容量、ケーブル長および周囲環境によって変化します。そのため、漏電保護を行う場合は、漏電ブレーカの設置個所で漏れ電流の測定を行ってください。漏電ブレーカーに関しては、火災の保護、人間の保護などの目的を明確にして選定する必要があります。漏電ブレーカーは、高調波対応型(インバーター用)を使用してください。

RCON-SC “DRV STOP” について

200Vドライバーユニットは、外部駆動源遮断用コネクタの代わりに、内部の半導体による駆動源遮断回路とドライバー停止回路（DRV STOP）をもっています。

ドライバー停止回路（DRV STOP）は、入力信号の状態に応じて、リアクションタイム（8ms 以下）後にコントローラー内部の遮断回路にてモーターへのエネルギー供給を遮断します。



補 足

RSELシステムに使用する電源配線の適合電線径

RSELに配線する電線は、下記の適合電線を使用してください。

ユニット	コネクター	名 称	適合電線 線径 AWG (UL) (SQ (JIS))
SELユニット		システムI/O	AWG 24～16 (0.2 ～ 1.25 sq)
SELユニット		MP (24Vモーター電源)	AWG 20～8 (0.5 ～ 8 sq)
SELユニット	 CP	CP (制御電源)	AWG 24～12 (0.2 ～ 3.5 sq)
24Vドライ バーユニット		駆動源遮断 コネクター	AWG 24～16 (0.2 ～ 1.25 sq)
200V 電源ユニット		AC200V 入力コネクター	AWG14～8 (銅線) (2 ～ 8 sq)

※ 絶縁被覆の温度定格が60℃以上の電線を使用してください。



注 意

- MP (モーター電源)、CP (制御電源) の電線は、コントローラーの電源供給部 (コネクター部) で電流値を許容できるものを使用してください。
適合電線線径よりも細い電線を使用したり、配線距離が長い場合、電圧降下によりエラーが発生したり、アクチュエーターの能力が低下する場合があります。
- 使用する電流量よりも許容電流の大きな電線径の電線を使用してください。
適合電線線径よりも細い電線を使用した場合、電流を流す事で異常発熱します。
これにより、ケーブル被服の溶融や発火などを生じる恐れがあります。



接続するアクチュエーター型式、ドライバーユニットにより、コントローラーの消費電流は異なります。
詳しくは、RSEL取扱説明書 (MJ0392) の「仕様編 第2章 2.2 電源容量」を参照してください。

2 アクチュエーターの配線

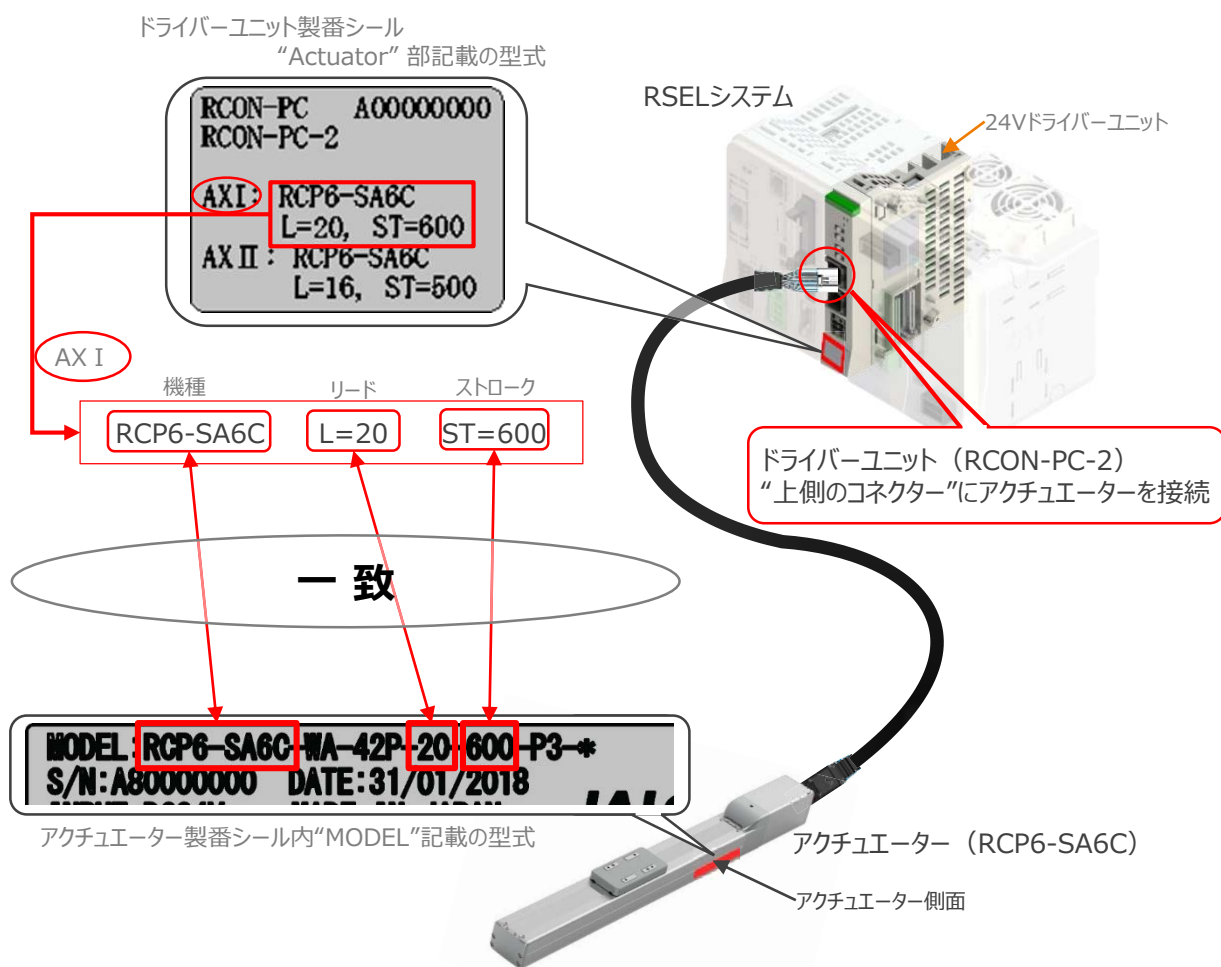
用意する物

RSELシステム／アクチュエーター／
モーターエンコーダケーブル

○ アクチュエーター型式と24V系ドライバーユニット型式の確認

アクチュエーターを接続する前に、ドライバーユニットとアクチュエーターの組合せが一致しているかどうか必ずご確認ください。

接続可能なアクチュエーター型式は各ドライバーユニット左側面の製番シールもしくは正面パネルに記載されています。



24Vドライバーユニットとモーター・エンコーダーケーブルの接続

RSELドライバーユニットとアクチュエーターの接続は、アクチュエーターのタイプにより4種類あります。

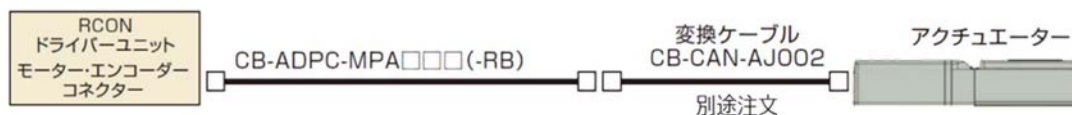
配線図 A

- ① RCP6/RCP6CR/RCP6W/RCP5/RCP5CR/RCP5W (高推力タイプ ⚠ 以外)
- ③ RCP4 グリッパ (GR*)、ST4525E、SA3/RA3
- ⑧ RCP2CR/RCP2Wの□-タリ (RT*) およびGRS/GRM/GR3SS/GR3SM
- ⑬ RCA2/RCA2CR/RCA2W (CNSオプション)
- ⑯ RCD-RA1DA、RCD-GRSNA



配線図 B

- ② RCP6/RCP6CR/RCP6W/RCP5/RCP5W 高推力タイプ ⚠
- ④ RCP4/RCP4W 高推力タイプ ⚠
- ⑤ RCP4/RCP4CR/RCP4W (GR*、ST4525E、SA3/RA3、高推力タイプ ⚠ 以外)



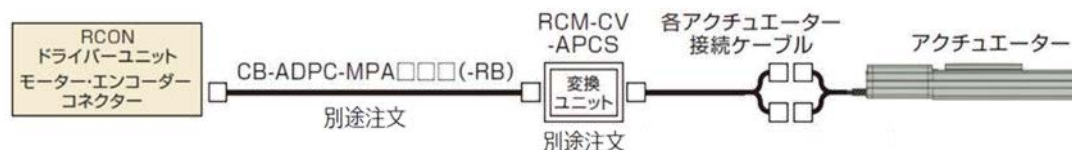
配線図 C

- ⑥ RCP3
- ⑨ RCP2/RCP2CR/RCP2W-GRSS/GRLS/GRST/GRHM/GRHB、RCP2-SRA4R/SRGS4R/SRGD4R
- ⑫ RCA2/RCA2CR/RCA2W、RCL
- ⑭ RCA 全長ショートタイプ (RCA-SRA4R/SRGS4R/SRGD4R)



配線図 D

- ⑦ RCP2-RTBS/RTBSL/RTCS/RTCSL
- ⑩ RCP2/RCP2CR/RCP2W 高推力タイプ ⚠
- ⑪ RCP2/RCP2CR/RCP2W一部除く(詳細は、前ページ一覧表参照)
- ⑮ RCA/RCACR/CAW (RCA-SRA4R/SRGS4R/SRGD4R以外)



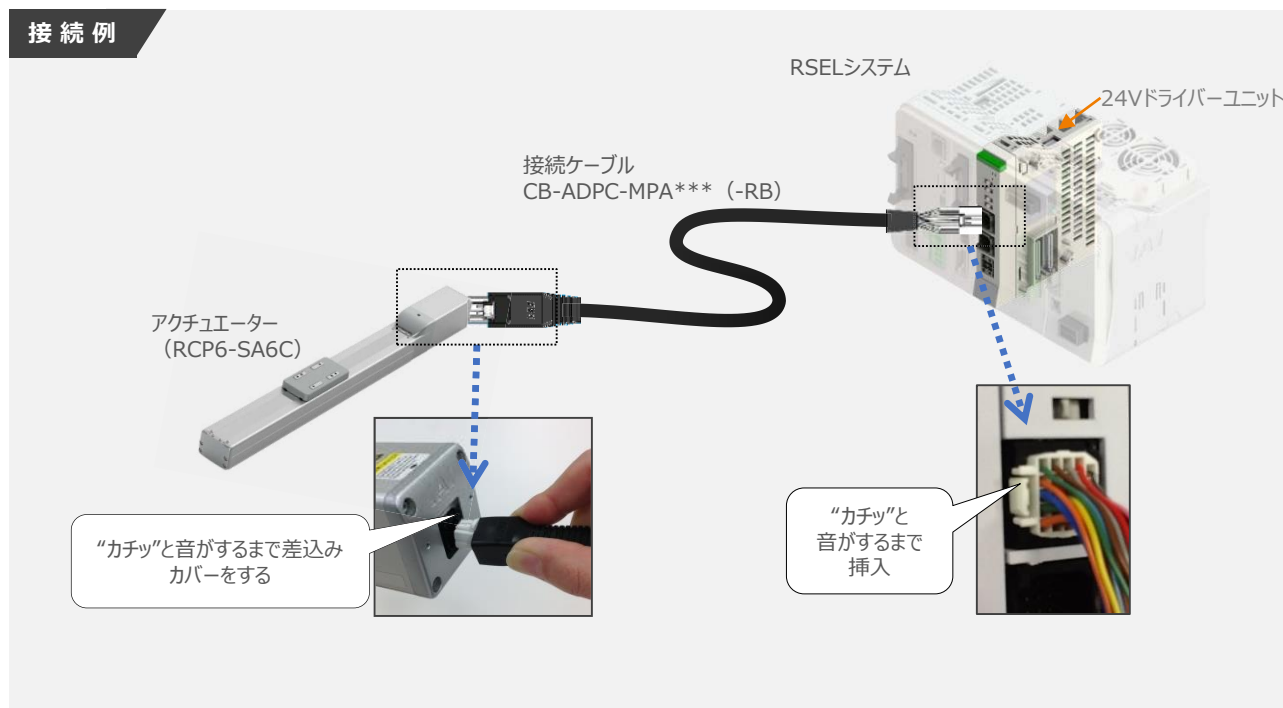
注意

高推力用パルスモーター (56SP、60P、86P) を使用しているアクチュエーターを指します。

事例では、配線図A（RCP6-SA6C）と配線図D（RCP2-RTBL）の接続例について示します。

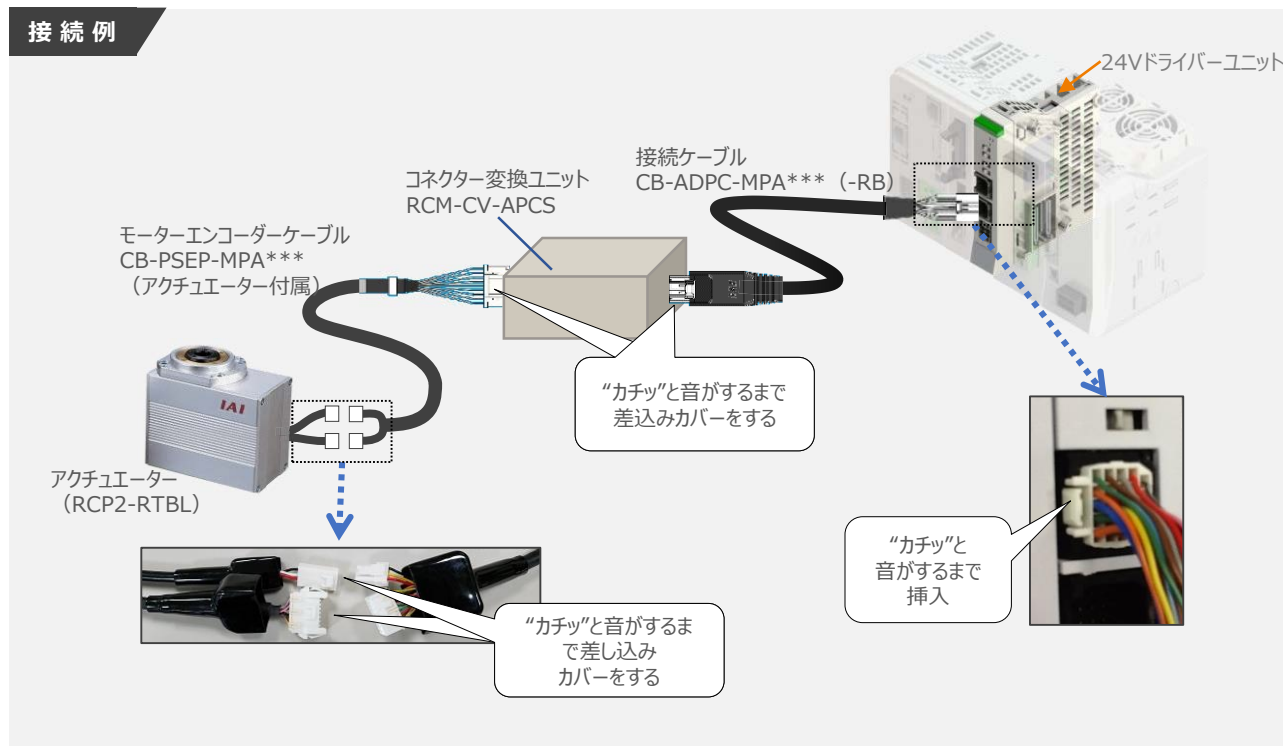
● “配線図 A” と RCONの接続方法

接続例



● “配線図 D” と RCONの接続方法

接続例



注意

コネクター変換ユニット、接続ケーブル、コネクター変換ケーブルが必要な機種は、購入時に型式を指定ください。型式にて指定されていない場合は、別途購入が必要です。

補 足

アクチュエーター接続ケーブル 一覧表

RSELシステムのドライバーユニットとアクチュエーターを接続するケーブルの型式は、以下の表を参照ください。



注 意

アクチュエーターケーブル長さオプションを利用している場合、アクチュエーターからコントローラーまでのケーブル長さを20m以内になるよう調整ください。

No.	アクチュエーター		適用 コントローラー 記号	接続ケーブル※2	変換 ユニット	配線図
	シリーズ	タイプ		モーターエンコーダー一体型ケーブル (-RB : ロボットケーブル) [各種アクチュエーター接続ケーブル]		
①	RCP6 RCP6CR RCP6W	高推力タイプ(※1)以外	P5	CB-ADPC-MPA□□□ (-RB)	—	A
②	RCP5 RCP5CR RCP5W	高推力タイプ(※1)	P6	CB-ADPC-MPA□□□ (-RB) CB-CAN-AJ002 (変換ケーブル)	—	B
③		グリッパ- (GR*), ST4525E, SA3/RA3	P5	CB-ADPC-MPA□□□ (-RB)	—	A
④	RCP4 RCP4CR RCP4W	高推力タイプ(※1)	P6	CB-ADPC-MPA□□□ (-RB) CB-CAN-AJ002 (変換ケーブル)	—	B
⑤		③、④以外	P5	CB-ADPC-MPA□□□ (-RB) CB-CAN-AJ002 (変換ケーブル)	—	B
⑥	RCP3		P5	CB-RCAPC-MPA□□□ (-RB)	—	C
⑦		RCP2(標準タイプ)のロータリー小型タイプ RCP2-RTBS/RTBSL/RTCS/RTCSL	P5	CB-ADPC-MPA□□□ (-RB) CB-RPSEP-MPA□□□	要	D
⑧		RCP2CR(グリーンタイプ)、 RCP2W(防塵防滴タイプ) 上記タイプのロータリー(RT*) 上記タイプのGRS/GRM/GR3SS/GR3SM	P5	CB-ADPC-MPA□□□ (-RB)	—	A
⑨	RCP2 RCP2CR RCP2W	全(標準/グリーン/防塵防滴)タイプの GRSS/GRLS/GRST/GRHM/GRHB 全長ショートタイプ(RCP2のみ) RCP2-SRA4R/SRGS4R/SRGD4R	P5	CB-RCAPC-MPA□□□ (-RB)	—	C
⑩		高推力タイプ(※1)	P6	CB-ADPC-MPA□□□ (-RB) CB-CFA-MPA□□□ (-RB)	要	D
⑪		⑦～⑩以外	P5	CB-ADPC-MPA□□□ (-RB) CB-PSEP-MPA□□□	要	D
⑫	RCA2/RCA2CR/RCA2W, RCL		A6	CB-RCAPC-MPA□□□ (-RB)	—	C
⑬	RCA RCACR	全長ショートタイプ(RCAのみ) RCA-SRA4R/SRGS4R/SRGD4R	A6	CB-RCAPC-MPA□□□ (-RB)	—	C
⑭	RCAW	⑬以外	A6	CB-ADPC-MPA□□□ (-RB) CB-ASEP2-MPA□□□	要	D
⑮	RCD	RCD-RA1DA, RCD-GRSNA	D6	CB-ADPC-MPA□□□ (-RB)	—	A
⑯	WU		PM2	CB-ADPC-MPA□□□ (-RB)	—	A



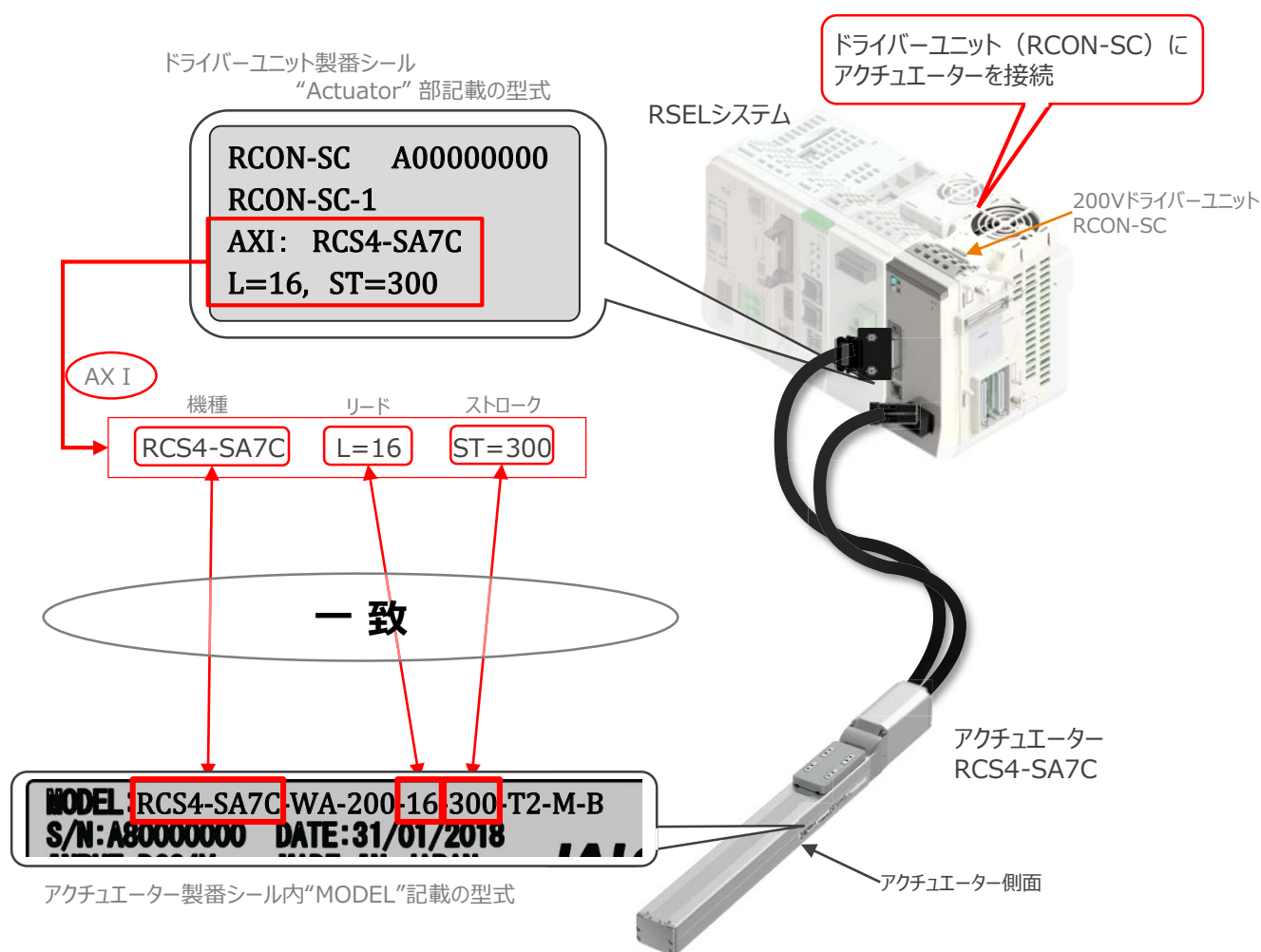
注 意

※1 高推力用パルスモーター (56SP、60P、86P) を使用しているアクチュエーターを指します。
 ※2 RCON接続ケーブルの長さは、変換ユニットの有無に関わらず最大で 20m です。
 但し、DCドライバーユニットから RCD アクチュエーターまでの最大長さは 10m です。

200Vドライバーユニット型式とアクチュエーター型式の確認

アクチュエーターを接続する前に、ドライバーユニットとアクチュエーターの組合せが一致しているかどうか必ずご確認ください。

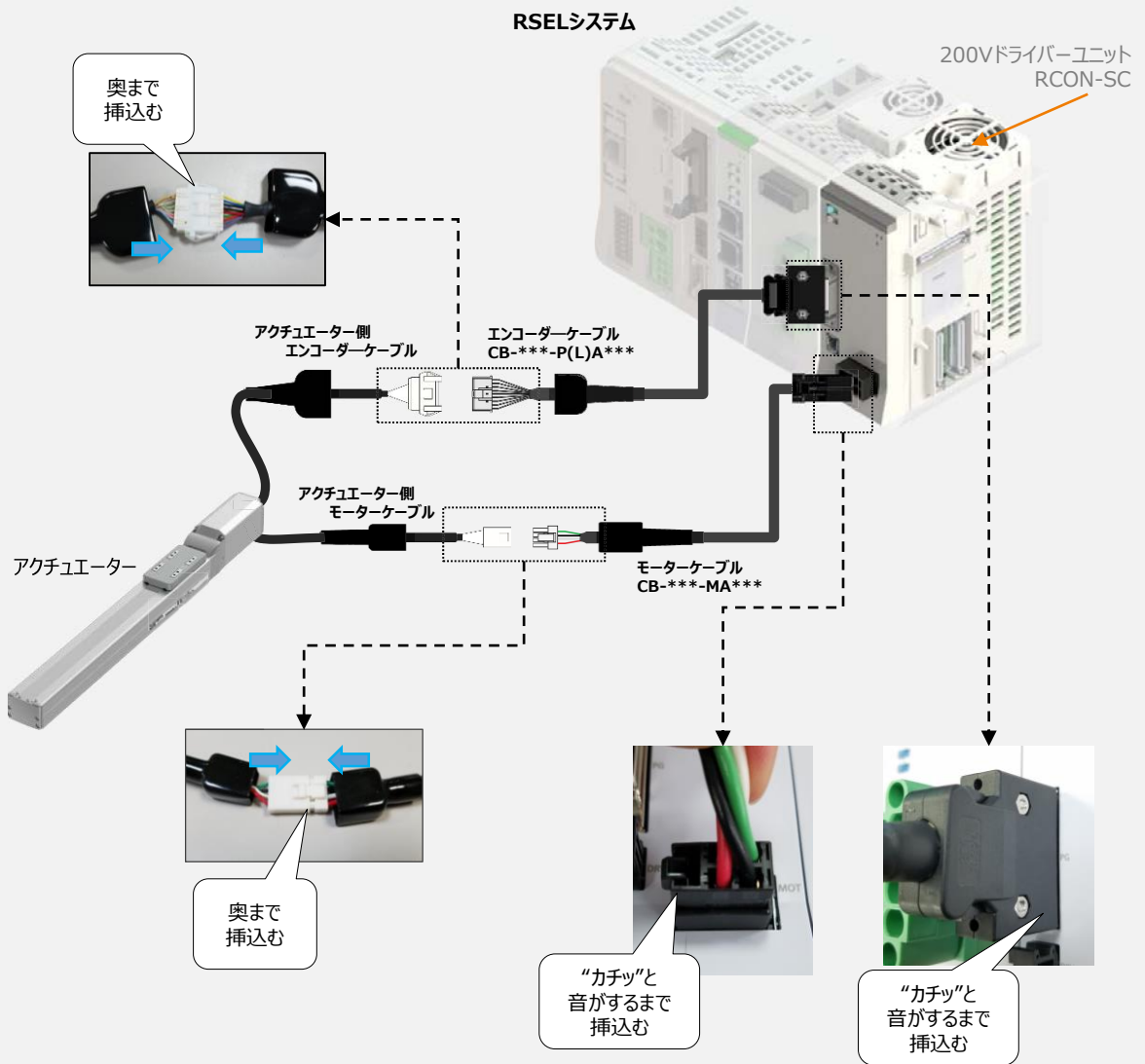
接続可能なアクチュエーター型式は各ドライバーユニット左側面の製番シールもしくは正面パネルに記載されています。



200Vドライバーユニットとアクチュエーターのケーブル接続

接続例

RCON-SC モーターケーブル、エンコーダーケーブルの接続



補 足

アクチュエーター接続ケーブル 一覧表

RSELシステムの200Vドライバーユニットとアクチュエーターを接続するケーブルの型式は、以下の表を参照ください。

No.	アクチュエーター		適用 コントローラー 記号	RCON接続ケーブル					
	シリーズ	対象タイプ		最大 ケーブル長 (m)	モーターケーブル	モーター ロボットケーブル	エンコーダー ケーブル	エンコーダー ロボットケーブル	
①	RCS4 RCS4CR		T4	20	CB-RCC1-MA□□□	CB-X2-MA□□□	—	CB-X1-PA□□□	
②	RCS3(P)	CTZ5C	T4	20	CB-RCC1-MA□□□	CB-X2-MA□□□	—	CB-X1-PA□□□	
	RCS3(P)CR	CT8C 上記以外					CB-RCS2-PA□□□	CB-X3-PA□□□	
③	RCS2 RCS2CR RCS2W	RTC□L RT6 上記以外	T4	20	CB-RCC1-MA□□□	CB-X2-MA□□□	CB-RCS2-PLA□□□	CB-X2-PLA□□□	
							CB-RCS2-PA□□□	CB-X3-PA□□□	
④	RCS2	ロ ー ド セ ル 無	T4	20	CB-RCC1-MA□□□	CB-X2-MA□□□	CB-RCS2-PLA□□□	CB-X2-PLA□□□	
							RA13R ブレーキ付 (ブレーキボックス付)	【アクチュエーター～ブレーキボックス】 CB-RCS2-PLA□□□ 【ブレーキボックス～コントローラー】 CB-RCS2-PLA□□□	【アクチュエーター～ブレーキボックス】 CB-X2-PLA□□□ 【ブレーキボックス～コントローラー】 CB-X2-PLA□□□
							RA13R ブレーキ付 (ブレーキボックス無)	【アクチュエーター～ブレーキボックス】 CB-RCS2-PLA□□□	【アクチュエーター～ブレーキボックス】 CB-X2-PLA□□□
⑤	IS(P)B IS(P)DB IS(P)DBCR		T4	30	—	CB-X2-MA□□□	—	CB-X1-PA□□□ ※バッテリーレスアプン仕様で ケーブル長が 21m以上30m以下の場合は CB-X1-PA□□□-AWG24	
	オプション： リミットスイッチ付仕様 ^(注)							CB-X1-PLA□□□ ※バッテリーレスアプン仕様で ケーブル長が 21m以上30m以下の場合は CB-X1-PLA□□□-AWG24	
⑥	IS(P)A IS(P)DA IS(P)DACR SSPA SSPDACR IF FS RS		T4	30	—	CB-X2-MA□□□	—	CB-X1-PA□□□	
	オプション： リミットスイッチ付仕様 ^(注)							CB-X1-PLA□□□	
⑦	NSA		T4	30	—	CB-X2-MA□□□	—	CB-X1-PA□□□	
⑧	NS		T4	30	—	CB-X2-MA□□□	—	CB-X3-PA□□□	
	オプション： リミットスイッチ付仕様 ^(注)							CB-X2-PLA□□□	
⑨	DD(A) DD(A)CR DDW	T18□ LT18□ H18□ LH18□	T4	30	—	CB-X2-MA□□□	—	CB-X3-PA□□□	
		CB-XMC1-MA□□□							
⑩	LSA	W□□□ 上記以外	T4	20	—	CB-XMC1-MA□□□	—	CB-X2-PLA□□□	
		CB-X2-MA□□□				CB-X3-PA□□□			
⑪	LSAS		T4	20	—	CB-X2-MA□□□	—	CB-X1-PA□□□	
⑫	IS(P)WA		T4	30	—	CB-XEU1-MA□□□	—	CB-X1-PA□□□-WC	



注 意

リミットスイッチ付のアクチュエーターを動作する場合は、リミットスイッチ付仕様のケーブルになります。
(リミットスイッチの配線を内蔵しています。)

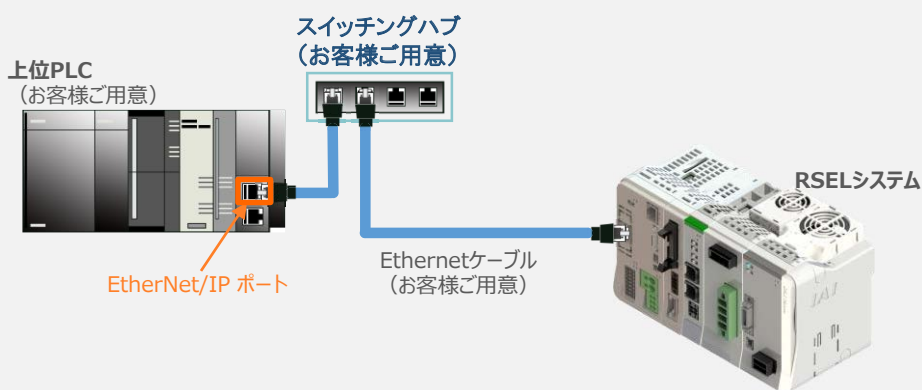
3 ネットワーク・PIOの配線

フィールドネットワークの配線

本書ではオムロン製PLC NJシリーズとRSELシステムを接続する場合の例をご紹介します。

接続例

PLC と RSELシステムの接続



Point !



Ethernetケーブルは、カテゴリ5以上のストレートケーブルをご使用ください。
(ケーブル長：100m 以内、アルミテープと編組の二重遮へいシールドケーブル推奨)

1

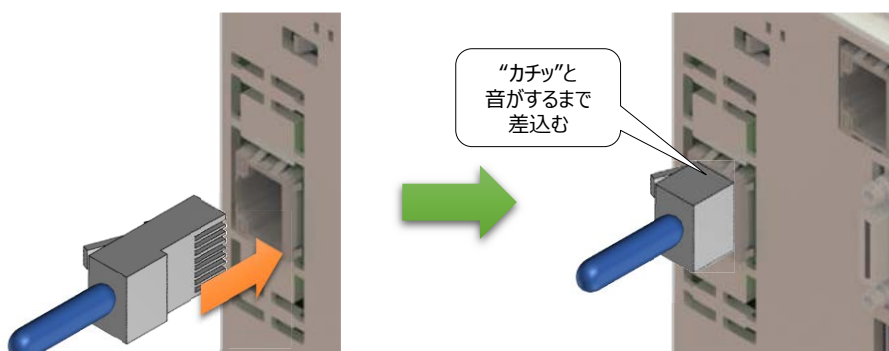
EtherNet/IP ネットワークコネクタへの配線



注意

配線する際には、PLC ならびに RSELシステムの電源をOFF にした状態で作業してください。

コネクタの向きに注意して、Ethernetケーブルのコネクターを「カチッ」と音がするまで差込みます。

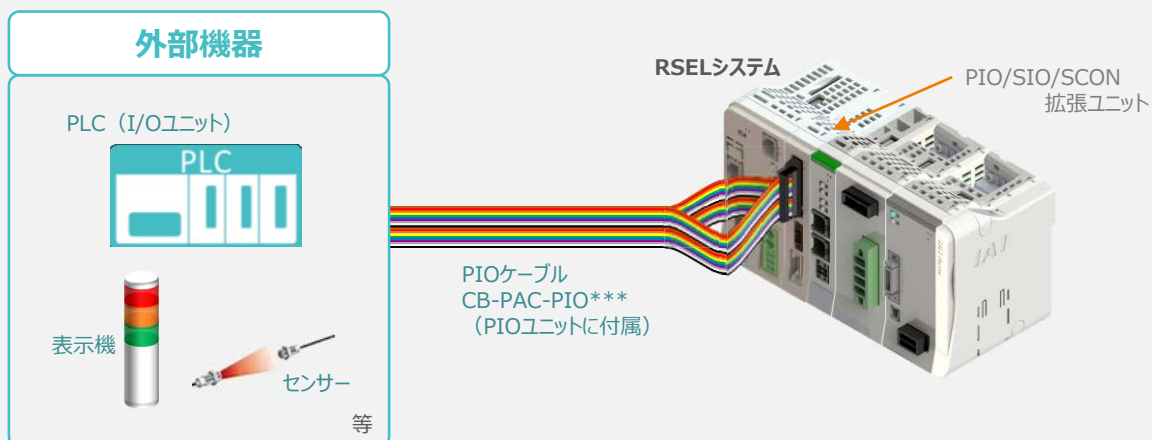


PIOの配線

RSELシステムの PIOユニット（PIO/SIO/SCON拡張ユニット）へのPIOケーブル配線について以下説明します。

接続例

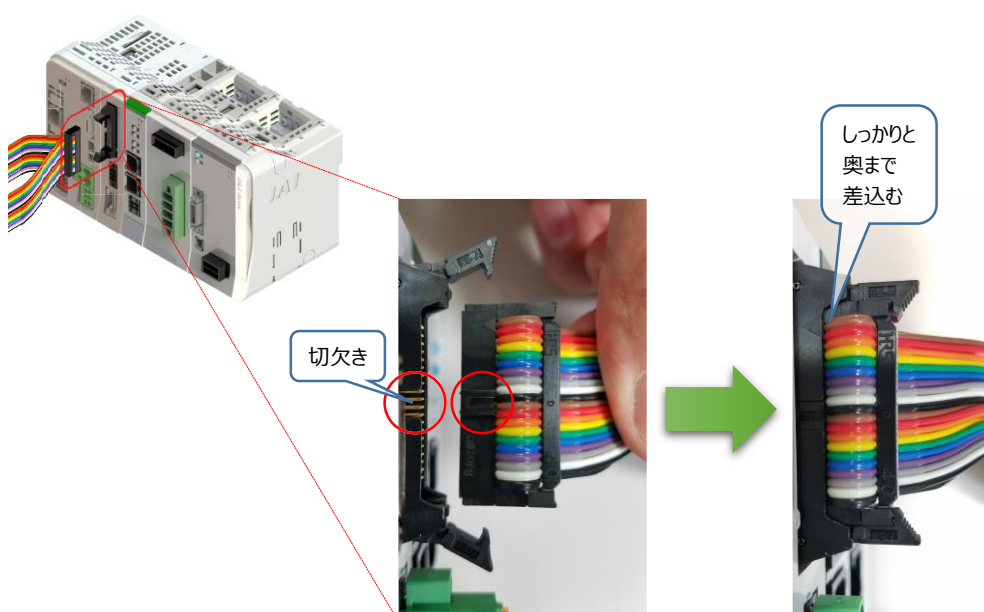
PIO拡張ユニットと外部機器の接続



1

PIOコネクターへの配線

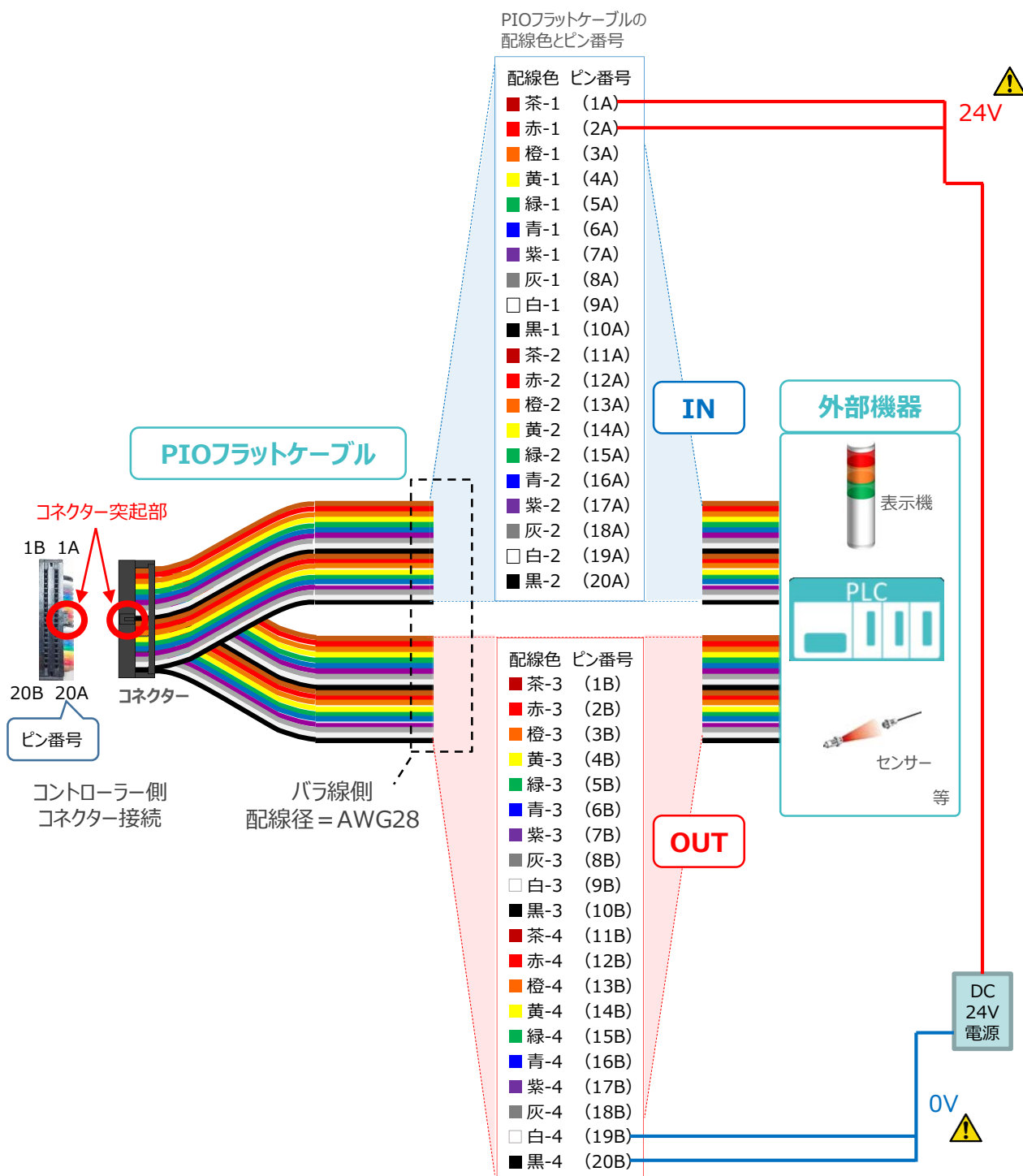
PIOフラットケーブルのコネクター側を RSELシステムのPIOユニットもしくは、PIO/SIO/SCON 拡張ユニットに接続します。



2

PIOフラットケーブルと 外部機器への接続

PIOフラットケーブルのバラ線側を外部機器に接続します。



注意

配線の際、0Vと24Vは共に2本ずつ配線してください。
配線をしない場合、I/Oの電源容量が不足し、信号の入出力が正しく出来なくなります。

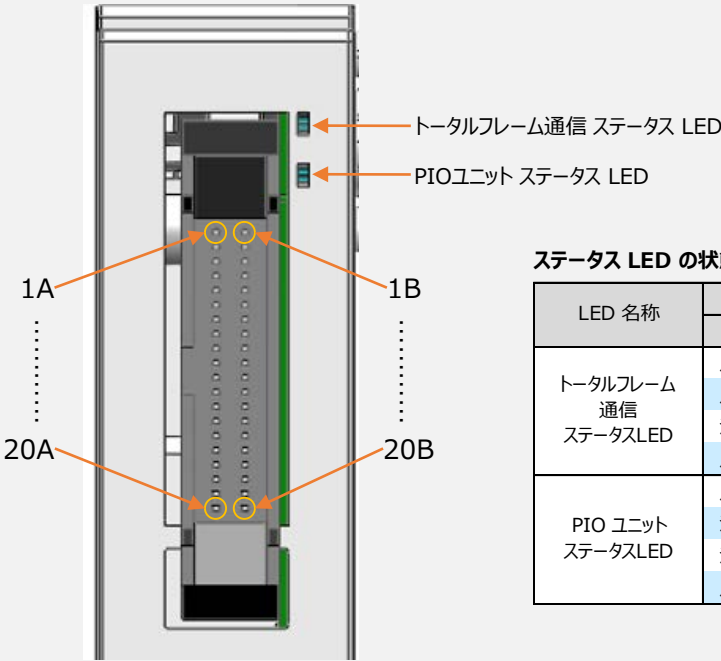
補 足

PIOユニット、PIO/SIO拡張ユニットの割付

固定割付にて、入力開始ポートNo.を 0、出力開始ポートNo.を 300 に設定した場合、
下表のポートNo.になります。

ピン番号	区分	信号名	ポートNo.	ピン番号	区分	信号名	ポートNo.
1A	24	P24	-	1B	出力	OUT0	300
2A	24	P24	-	2B		OUT1	301
3A	-	-	-	3B		OUT2	302
4A	-	-	-	4B		OUT3	303
5A	入力	IN0	0	5B		OUT4	304
6A		IN1	1	6B		OUT5	305
7A		IN2	2	7B		OUT6	306
8A		IN3	3	8B		OUT7	307
9A		IN4	4	9B		OUT8	308
10A		IN5	5	10B		OUT9	309
11A		IN6	6	11B		OUT10	310
12A		IN7	7	12B		OUT11	311
13A		IN8	8	13B		OUT12	312
14A		IN9	9	14B		OUT13	313
15A		IN10	10	15B		OUT14	314
16A		IN11	11	16B		OUT15	315
17A		IN12	12	17B	-	-	-
18A		IN13	13	18B	-	-	-
19A		IN14	14	19B	0	N	-
20A		IN15	15	20B	0	N	-

PIOピン暗号



ステータス LED の状態

LED 名称	色		状態
	緑	赤	
トータルフレーム 通信 ステータスLED	点滅	消灯	コンフィグレーション通信中
	点灯	消灯	正常通信中
	消灯	点灯	トータルフレーム通信エラー
	点灯	消灯	アップデート中
PIO ユニット ステータスLED	点灯	消灯	正常動作中
	消灯	点灯	制御電源電圧低下
	消灯	点灯	I/O電源電圧低下
	点滅	消灯	アップデート中

STEP 2

初期設定をする

- | | |
|-----------------------|-----|
| 1. パソコン専用ティーチングソフトの設定 | p32 |
| 2. SELユニットの設定 | p38 |
| 3. PLCの設定 | p60 |
| 4. ネットワークの通信状態確認 | p98 |

1 パソコン専用ティーチングソフトの設定

XSEL用パソコン対応ソフトとUSBドライバーのインストール

操作は、IAI製 XSEL用パソコン対応ソフト（パソコンOS環境は Windows10）にて説明します。

用意するもの

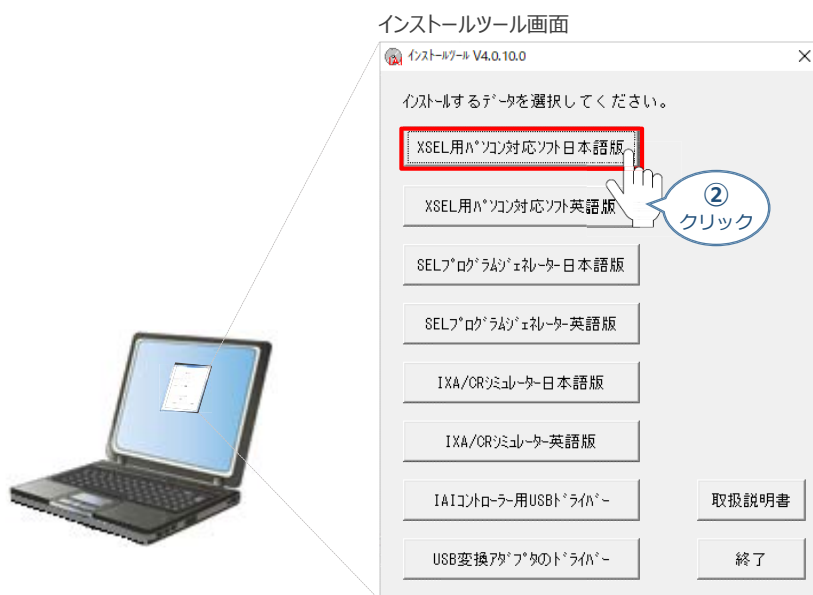
RSELシステム／パソコン／
XSEL用パソコン対応ソフト-CDROM／
通信ケーブル

1 XSEL用パソコン対応ソフトのインストール

- ① パソコンの光学ドライブにIA-OS-USB付属のDVDを挿入します。



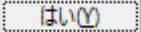
- ② XSEL用パソコン対応ソフト日本語版 をクリックします。



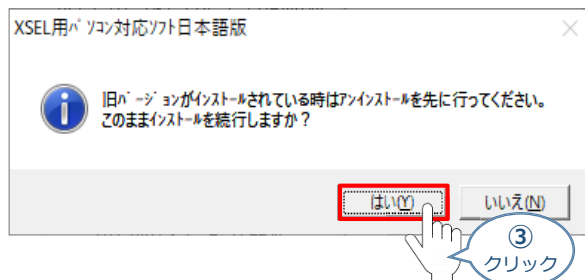
Point !



DVDを挿入した際に起動方法の確認ウィンドウが表示される場合は、「自動再生」を選択します。フォルダーの中身が表示された場合は、IAI_Install をダブルクリックして実行します。

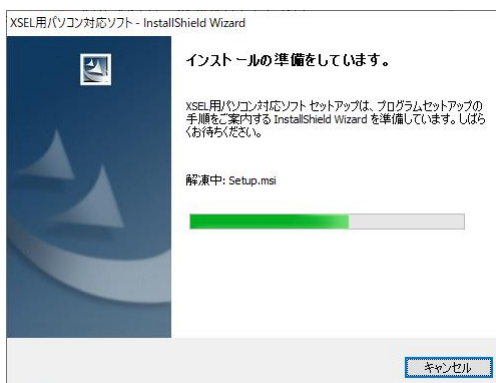
- ③ インストールを行います。 をクリックします。

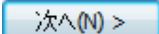
インストール続行の確認画面



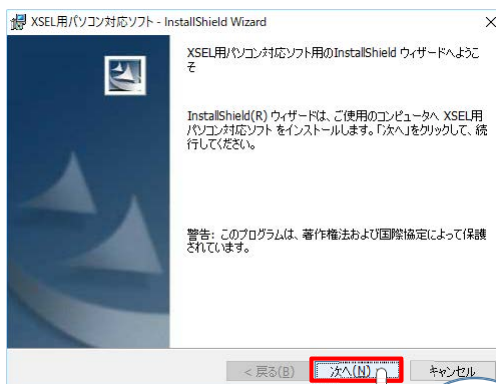
- ④ インストールの準備がはじまります。

インストールの準備画面



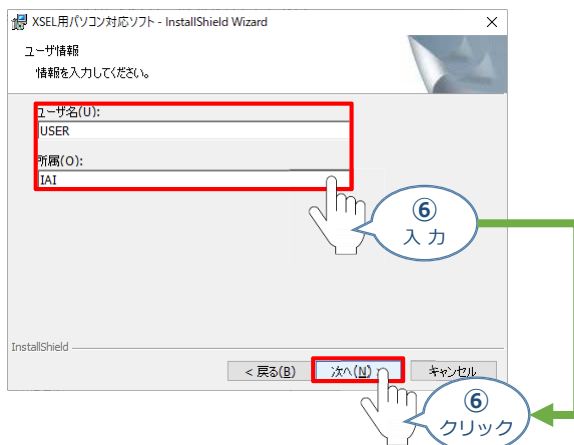
- ⑤  をクリックします。

XSEL用パソコン対応ソフト用の InstallShield ウィザード画面



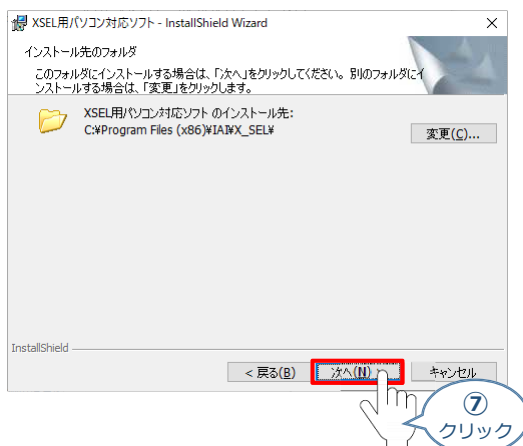
- ⑥ ユーザー情報画面が表示されます。ユーザー情報を入力し、**次へ(N) >** をクリックします。

ユーザー情報画面



- ⑦ インストール先のフォルダ画面が表示されます。**次へ(N) >** をクリックします。

インストール先のフォルダ画面



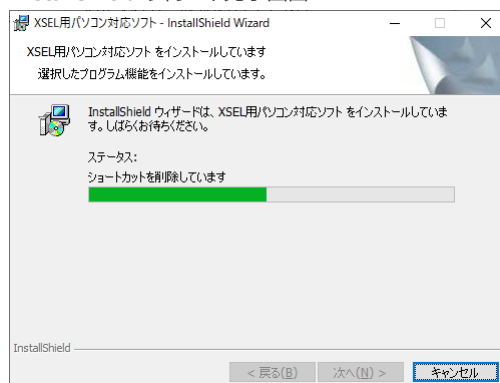
- ⑧ **このコンピュータを使用するすべてのユーザ(A)** をクリックします。

プログラムインストール準備完了画面

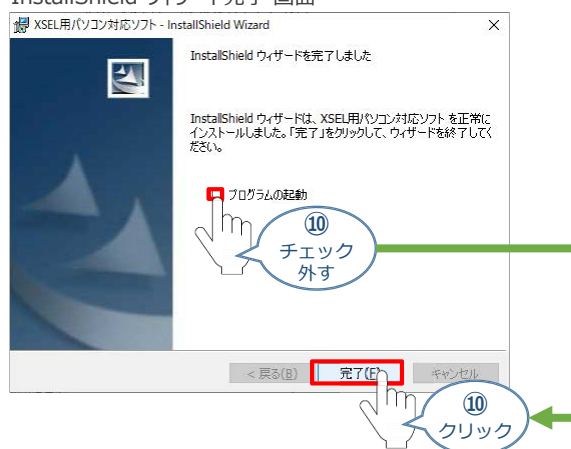


⑨ インストールがはじまります。

InstallShield ウィザード完了画面

⑩ インストール完了後、プログラムの起動のチェックを外し、**完了(F)** をクリックします。

InstallShield ウィザード完了 画面



お客様のパソコンデスクトップ上に、“XSEL用パソコン対応ソフト” のショートカットが表示されているか確認します。



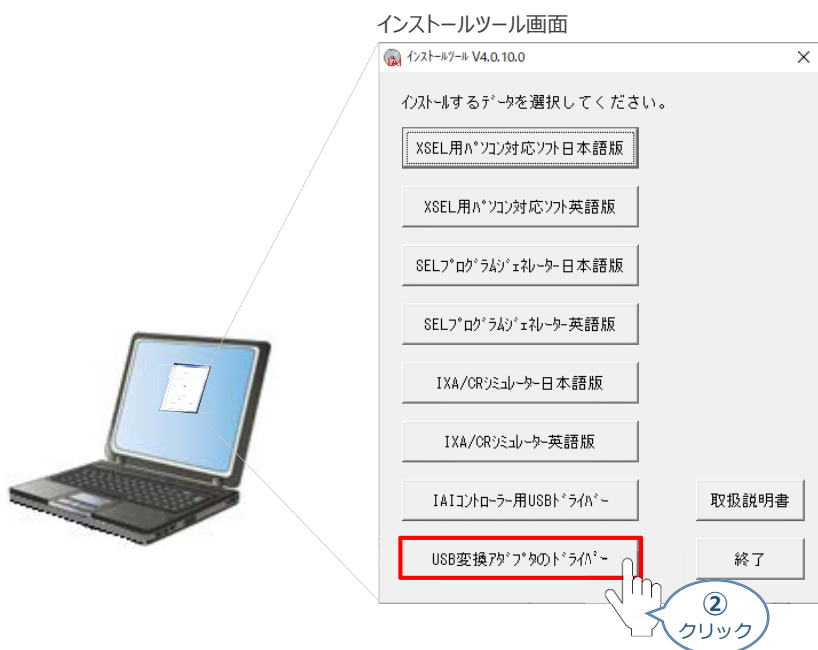
2 USBドライバーのインストール

このUSBドライバーは、USB対応パソコン専用ティーチングソフト（型式：IA-101-X-USBMW）に付属する専用ケーブルを使用する場合にインストールします。



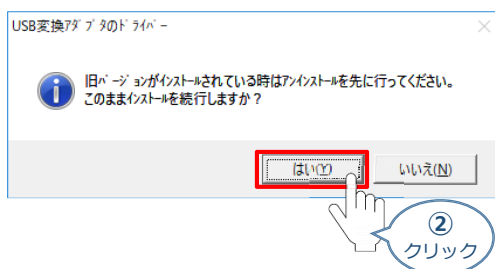
RSELにあるUSBポート（mini B）用ではありません。Windows10の場合、RSELと直接USB接続するためのソフトはOS側でインストールされています。

- ① USB変換アダプタのドライバーをクリックします。



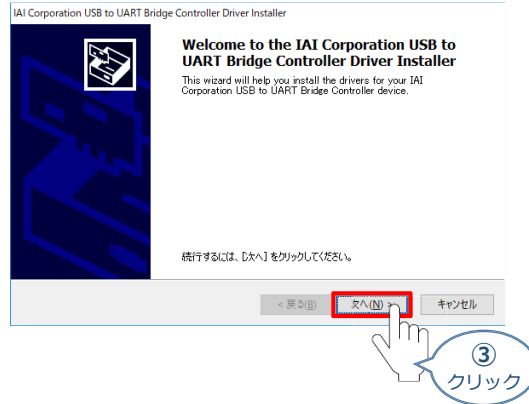
- ② USB変換アダプタのドライバー画面が表示されますので、をクリックします。

USB変換アダプタのドライバー画面



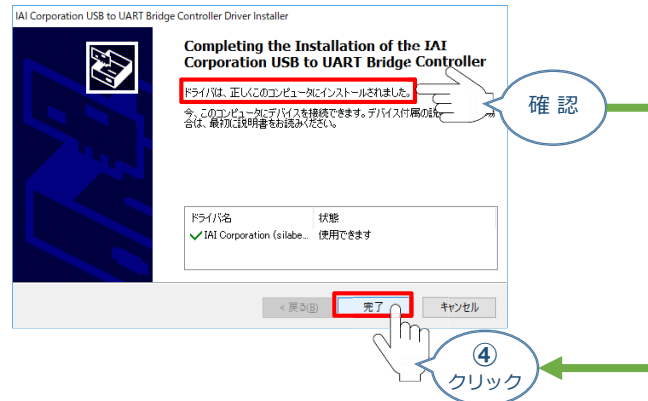
- ③ **次へ(N) >** をクリックします。

IAI Corporation USB to UART Bridge Controller Driver Installer画面



- ④ 同画面上に “ドライバは、正しくこのコンピュータにインストールされました。” が表示されたら **完了** をクリックします。

IAI Corporation USB to UART Bridge Controller Driver Installer 画面



以上でインストール作業は終わりです。

2 SELユニットの設定

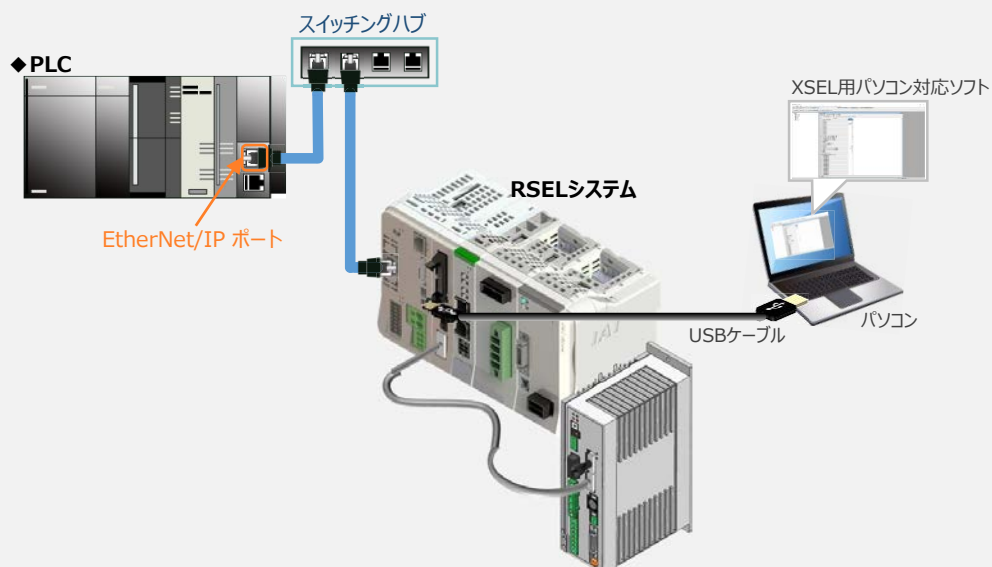
用意するもの

RECシステム／パソコン／通信ケーブル

操作は、ゲートウェイパラメーター設定ツール（パソコンOS環境 Windows 10）にて説明します。

接続例

PLC と RSELシステムの接続



Point !



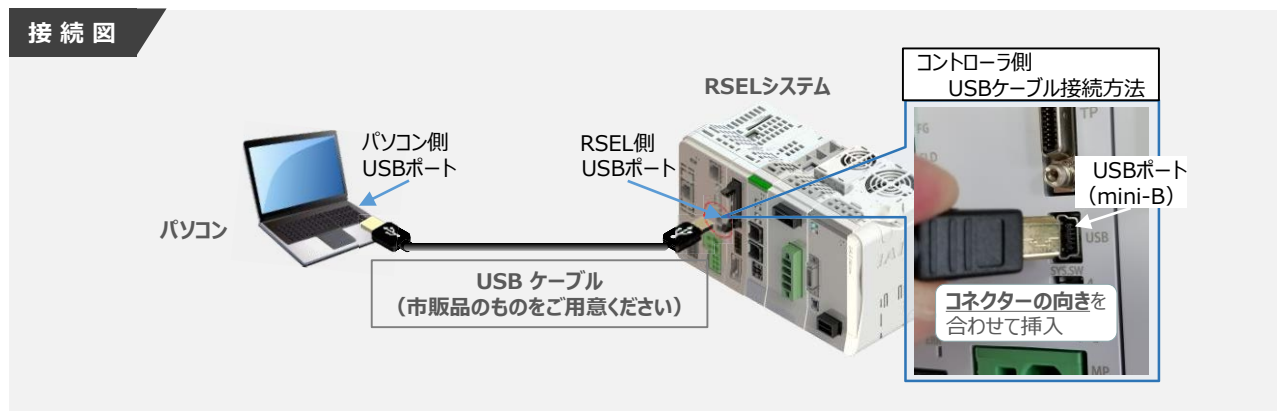
RSELを動かすためには以下の設定が必要です。

- RSEL軸設定：ドライバーユニットの割付け設定を行います。
- RSELネットワーク設定：PLCや外部機器との通信を行うための設定です。

RSEL と XSEL用パソコン対応ソフト通信接続作業

1 パソコン用通信ケーブルの接続と電源投入

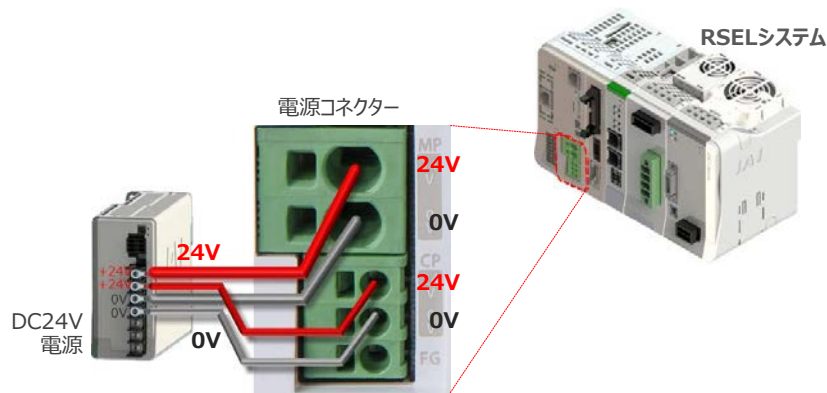
- ① USBケーブルを下図のように接続します。



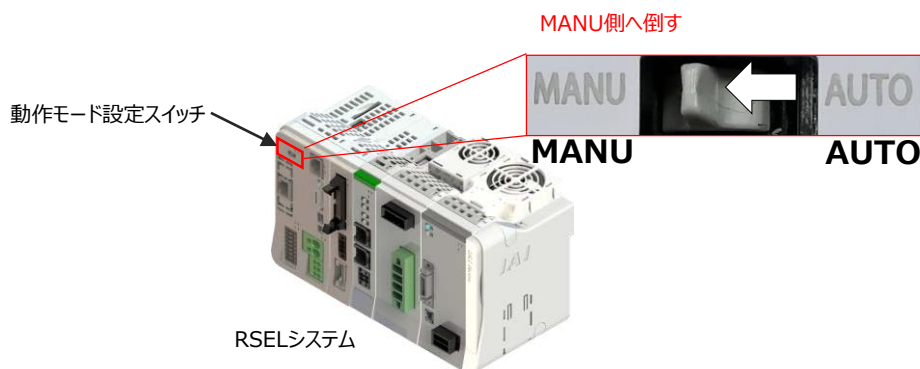
注意

コントローラ『USB』ポートに USBケーブルを接続する際は、上記赤枠内の通りコネクタの向きを合わせた上、挿入してください。行わない場合コネクタを破損させる原因になります。

- ② USBケーブル接続後コントローラ電源コネクタ部にDC24V電源を投入します。



- ③ コントローラの動作モード設定スイッチを『MANU』側に倒します。



2

XSEL用パソコン対応ソフトの起動と通信接続

- ①  をWクリックし、ソフトウェアを起動します。



- ② 接続確認画面が表示されたら、**OK** をクリックします。

接続確認画面

接続確認

通信ポート COM7

波特率(bps) 115,200

コントローラと直接USB接続する場合、波特率(bps)は設定値に関係なく一定になります。

☐ 次回から起動時にこの画面を表示しない。

OK CANCEL

②
クリック

- ③ 複数プログラム同時起動設定画面 が 立上がります。
プルダウンリストから **複数プログラム同時起動許可 (MANU)** を選択します。

複数プログラム同時起動設定画面

複数プログラム同時起動設定

複数プログラム同時起動 (マニュアル時)

複数プログラム同時起動許可 (MANU)

☐ 次回から起動時にこの画面を表示

OK CANCEL

③
クリック

複数プログラム同時起動許可 (MANU) ▼

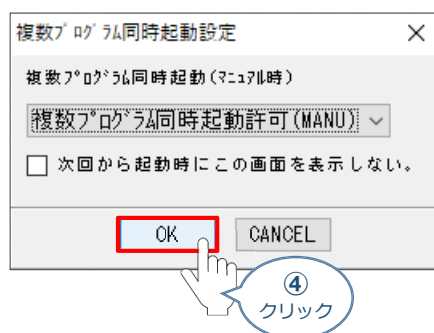
複数プログラム同時起動禁止 (MANU)

複数プログラム同時起動許可 (MANU)

③
選択

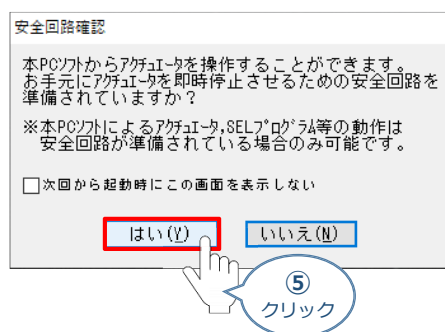
- ④ **OK** をクリックします。

複数プログラム同時起動設定画面



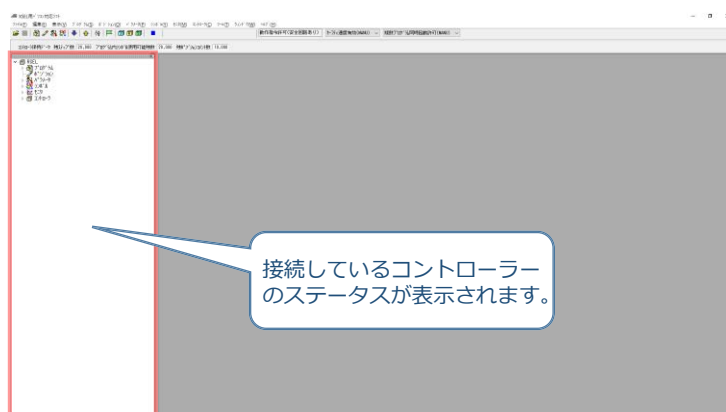
- ⑤ 安全回路確認画面が立上がります。 **はい(Y)** をクリックします。

安全回路確認画面



- ⑥ XSEL用パソコン対応ソフトの メイン画面 が立上がります。

メイン画面



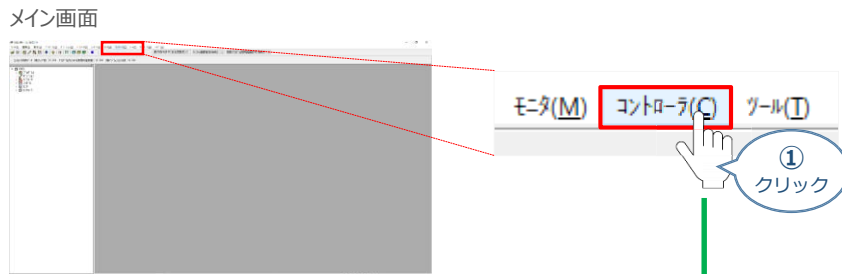
注意

XSEL用パソコン対応ソフトのメイン画面ステータス欄に何も表示されない場合は、通信ができていない状態です。通信できていない場合は、コントローラに接続している通信ケーブルの挿入具合や断線していないかをご確認ください。

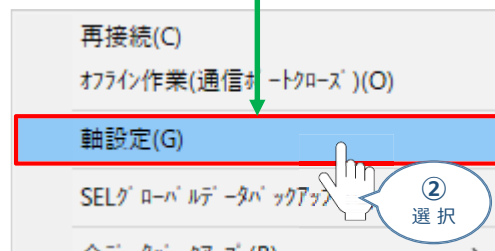
RSEL軸設定

1 RSEL軸設定画面を開く

- ① メイン画面のメニューバーにある **コントローラ(C)** をクリックします。



- ② **軸設定(G)** をクリックします。



- ③ 初回通信時は、以下のRSEL軸設定初回通信時画面が立上ります。

RSEL軸設定初回通信時画面



2

接続軸の割当てとデータ書き込み

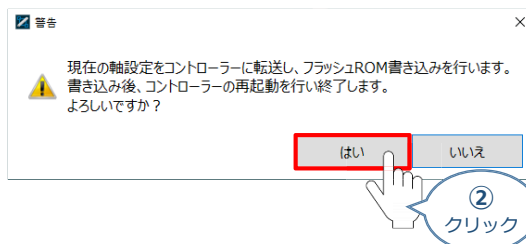
- ① 初回通信時、以下の画面が表示されます。ここでは、 をクリックし軸設定状況の通りの割付とします。

RSEL軸設定初回通信時画面



- ② をクリックします。

警告画面

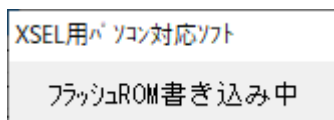


注意

フラッシュROMへ書き込みを行なう際、ポジションデータの初期化も行なわれます。必要に応じてポジションデータバックアップをするようにしてください。

- ③ フラッシュROM書き込み中画面が表示されます。しばらく待ちます。

フラッシュROM書き込み中画面



- ④ コントローラーの再起動がはじまります。
再起動後、“接続確認” ⇒ “データ取得” と進みます。

“コントローラー再起動中” 画面

XSEL用パソコン対応ソフト
コントローラ再起動中



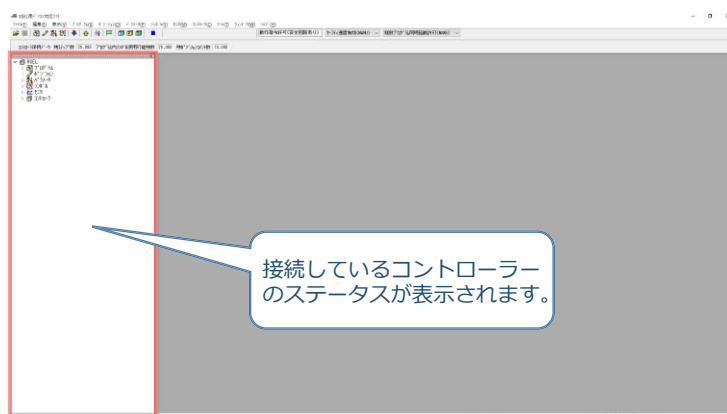
接続確認
COM9 接続確認中
OK CANCEL



接続確認
データ取得中
OK CANCEL

- ⑤ XSEL用パソコン対応ソフトの メイン画面に戻ります。

メイン画面



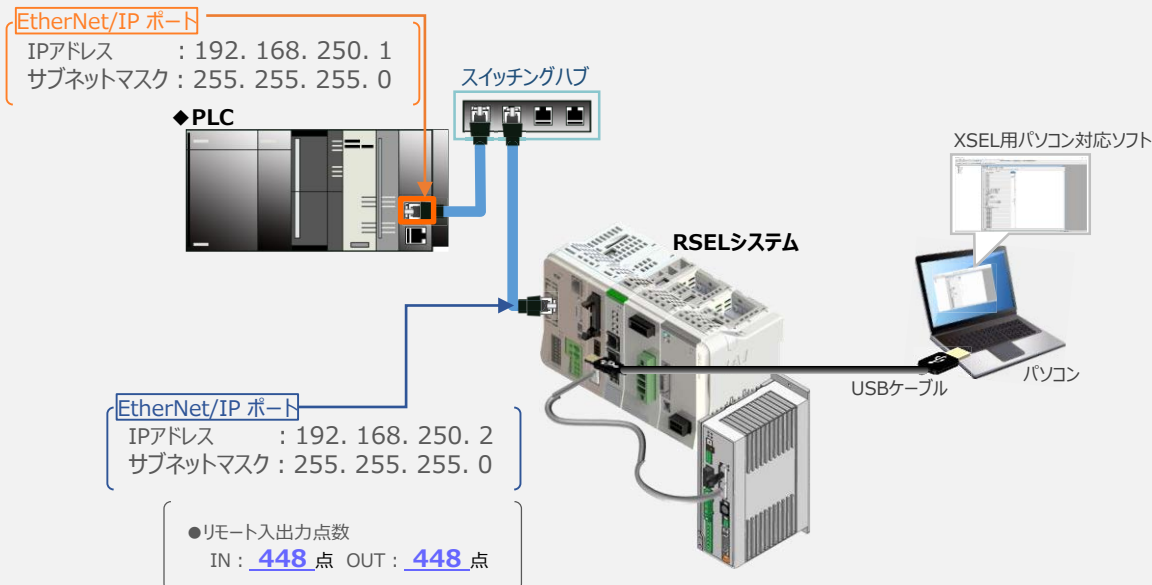
以上で、RSEL軸設定は終わりです。

RSELシステムのパラメーター編集

PLC との通信を行うため、RSELシステムのパラメーター設定を行います。

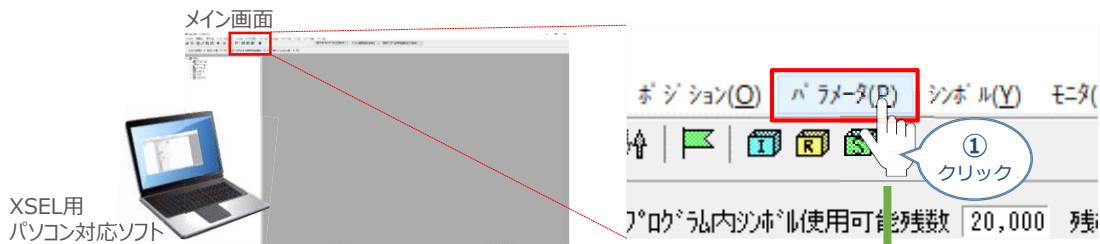
接続例

PLC と RSELシステムの接続

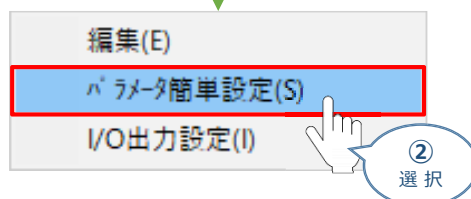


1 パラメーター編集画面を開く

- ① メイン画面のメニューバーにある **パラメータ(P)** をクリックします。

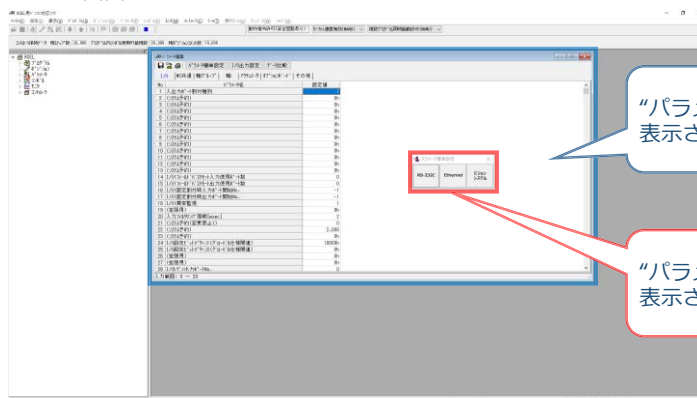


- ② **パラメータ簡単設定(S)** をクリックします。



- ③ メイン画面内に パラメーター編集画面と パラメーター簡単設定画面 が立上がります。

“メイン” 画面

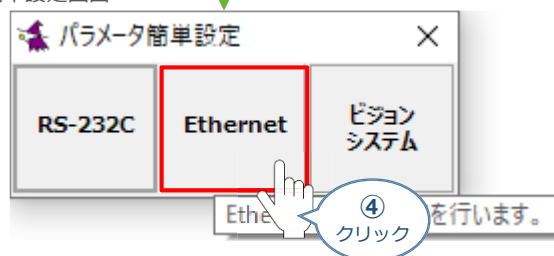


“パラメーター編集” 画面が表示されます。

“パラメーター簡単設定” 画面が表示されます。

- ④ パラメーター簡単設定画面の **CC-Link** をクリックします。

パラメーター簡単設定画面



- ⑤ フィールドバス設定画面が表示されます。

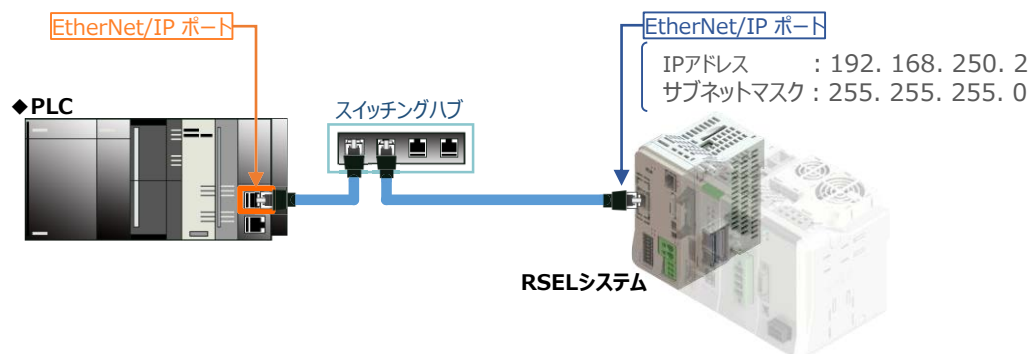
フィールドバス設定画面



パラメーター簡単設定についての詳細は、
パソコン専用ティーチングソフト X-SELパソコン対応ソフト RSEL編 取扱説明書 (MJ0398)
[8.4 パラメーター簡単設定] を参照ください。

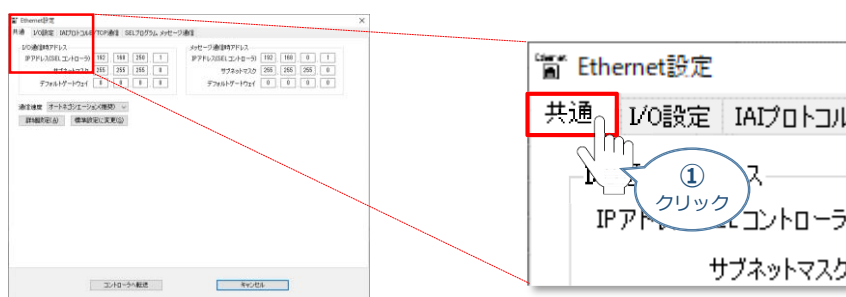
2 IPアドレスの設定

RSELシステムの EtherNet/IP設定 についてパラメーター編集を行ないます。
本事例では、以下図の“設定値”を例に設定をします。



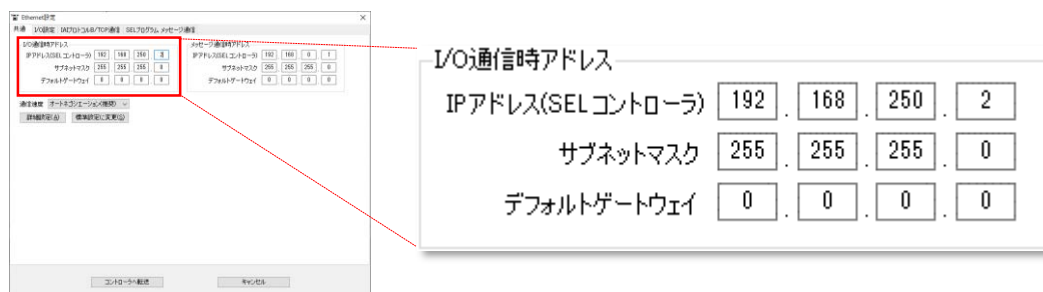
- ① Ethernet設定画面の **共通** タグをクリックします。

Ethernet設定画面



- ② “I/O通信時アドレス” の“IPアドレス(SELコントローラ)”、“サブネットマスク”、“デフォルトゲートウェイ”の設定値を入力します。

Ethernet設定画面



Point !



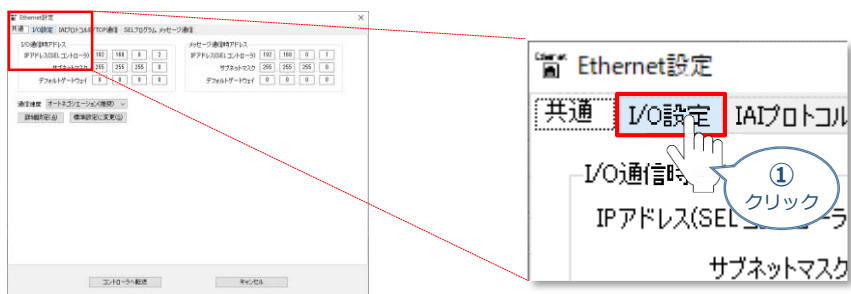
EtherNet/IPポートに複数の機器を接続する場合、RSELシステムのIPアドレスが同じネットワークの他機器と被らないようにする必要があります。

3 フィールドバス 通信設定

フィールドバスの通信設定についてパラメーター編集を行います。

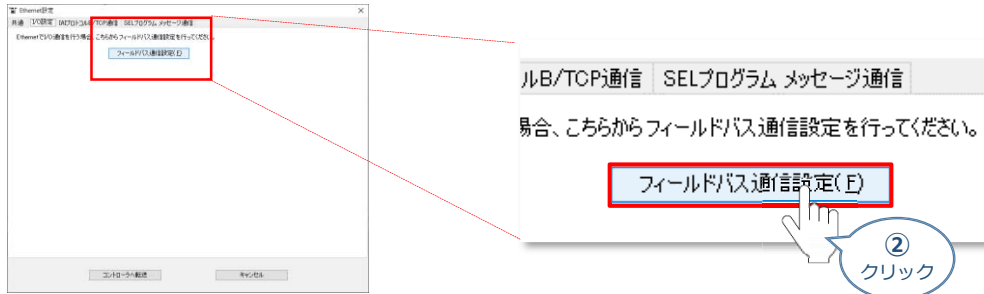
- ① Ethernet設定画面の **I/O設定** タグをクリックします。

Ethernet設定画面



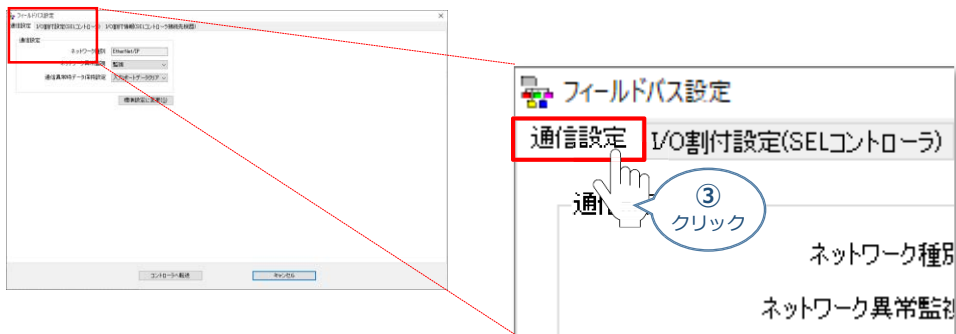
- ② **フィールドバス通信設定(E)** をクリックします。

Ethernet設定画面



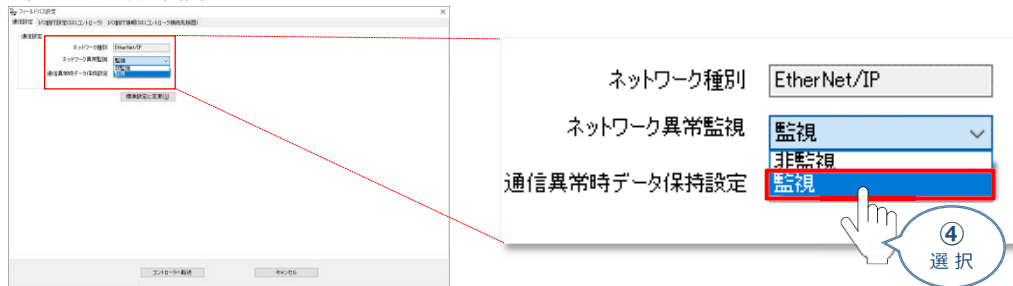
- ③ フィールドバス設定画面は表示されます。 **通信設定** タグをクリックします。

フィールドバス設定画面



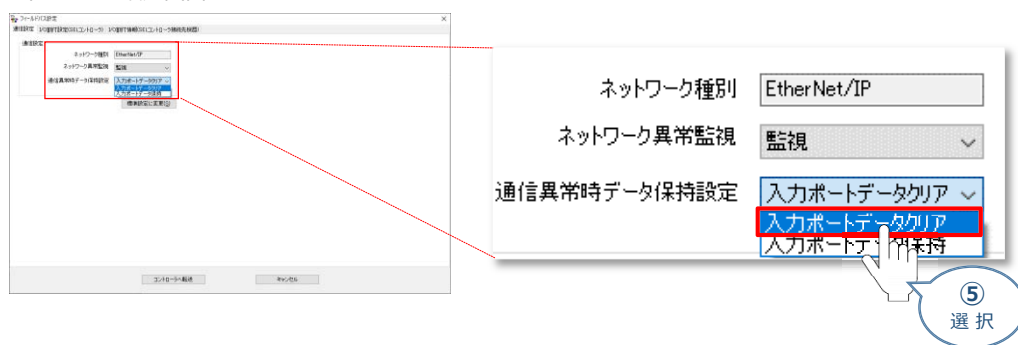
- ④ ネットワーク異常監視 を **監視** にします。

フィールドバス設定画面



- ⑤ “通信異常時データ保持設定”を設定します。ここでは、**入力ポートデータクリア**を選択します。

フィールドバス設定画面



3 フィールドバス I/O割付け設定

フィールドバス入出力についてパラメーター編集を行います。本事例では、以下表の“設定値”を例に設定をします。

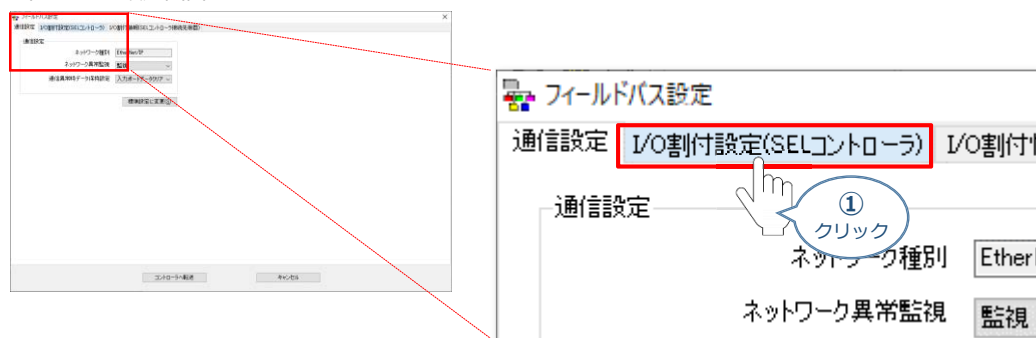


関連するパラメーター（I/Oパラメーター）

No.	パラメーター名称	初期値	入力範囲	設定値	備考
1	入出力ポート割付種別	0	0～20	0	事例では、固定割付を設定します。
14	I/O1フィールドバス リモート入力使用ポート数	コントローラ 構成依存	0～1024	448	事例では、使用する入力ポート数を448とします。
15	I/O1フィールドバス リモート出力使用ポート数	コントローラ 構成依存	0～1024	448	事例では、使用する出力ポート数を448とします。
16	I/O1固定割付時 入力ポート開始No.	0	-1, 0～299, 1000～3999	1000	-1設定時、無効 0+(8の倍数)(0～299) 1000+(8の倍数)(1000～3999) ※ 1000～3999はフィールドバスのみ設定可能
17	I/O1固定割付時 出力ポート開始No.	300	-1, 300～599, 4000～6999	4000	-1設定時、無効 0+(8の倍数)(300～599) 1000+(8の倍数)(4000～6999) ※ 4000～6999はフィールドバスのみ設定可能

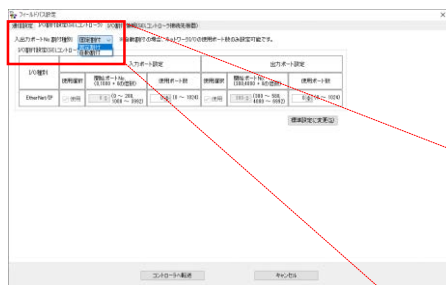
① フィールドバス設定画面の **I/O割付設定(SELコントローラ)** タグをクリックします。

フィールドバス設定画面

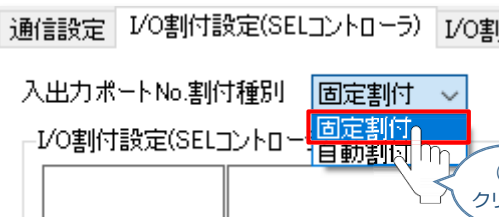


- ② フィールドバス設定画面の **固定割付** タグをクリックします。

フィールドバス設定画面



● 入出力ポート: 固定割付



②
クリック

- ③ “I/O割付設定(SEL)コントローラー” の 入力ポート 設定をします。
使用選択欄に ☒ をつけ、“開始ポートNo.”と“使用ポート数”を入力します。

フィールドバス設定画面



● リモート入出力点数
IN: 448 点
● 入力ポート開始No.
1000

入力ポート設定		
使用選択	開始ポートNo. (0,1000 + 8の倍数)	使用ポート数
☒ 使用	1000 (0 ~ 288, 1000 ~ 3992)	448 (40 ~ 1024)

③ チェック → ③ 入力 → ③ 入力

- ④ “I/O割付設定(SEL)コントローラー” の 出力ポート 設定をします。
使用選択欄に ☒ をつけ、“開始ポートNo.”と“使用ポート数”を入力します。

フィールドバス設定画面



● リモート入出力点数
OUT: 448 点
● 入力ポート開始No.
4000

出力ポート設定		
使用選択	開始ポートNo. (300,4000 + 8の倍数)	使用ポート数
☒ 使用	4000 (300 ~ 588, 4000 ~ 6992)	448 (40 ~ 1024)

④ チェック → ④ 入力 → ④ 入力

補 足

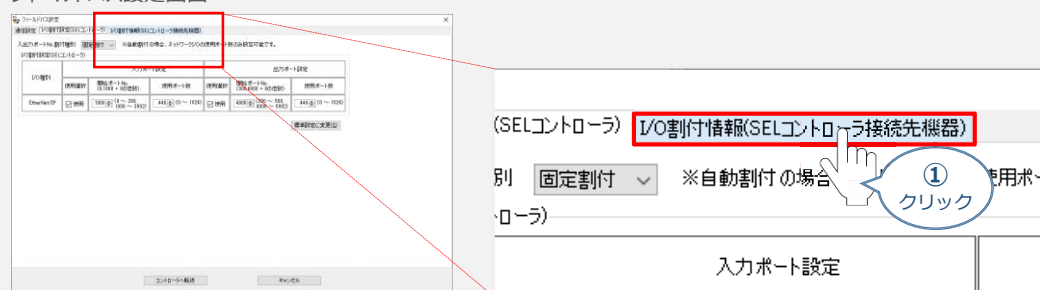
I/O割付情報の確認

I/O 割付設定(SEL コントローラ接続先機器) タブをクリックすることで、SEL コントローラ接続先機器(PLC 等)とSELコントローラのI/O の割付情報を表示します。

「先頭アドレス」にPLC のI/O 割付先頭アドレスを入力すると、SEL コントローラ接続先機器(PLC等)に割付けられるフィールドバスI/O の範囲などが確認できます。

- ① フィールドバス設定画面の **I/O割付情報(SELコントローラ接続先機器)** タブをクリックします。

フィールドバス設定画面



- ② フィールドバス設定画面中に、“I/O割付情報(SELコントローラ接続先機器)”が表示されます。

I/O割付情報(SELコントローラ接続先機器)

ネットワーク種別

PLC側設定

I/Oサイズ設定 In バイト Out バイト

先頭アドレス (ワード単位) In Out 基数

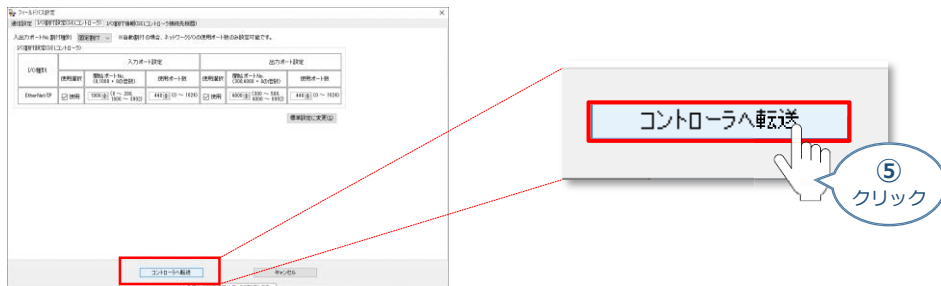
接続先機器入力割付	SEL出力割付	接続先機器出力割付	SEL入力割付
先頭入力ワードアドレス 0	Out 4000 ~ 4015	先頭出力ワードアドレス 0	In 1000 ~ 1015
最終入力ワードアドレス 27	Out 4432 ~ 4447	最終出力ワードアドレス 27	In 1432 ~ 1447

PLCの設定に必要な情報が表示されます。適宜メモしてください。

先頭アドレスを入力すると、下の表に接続先機器の割付位置が表示されます。

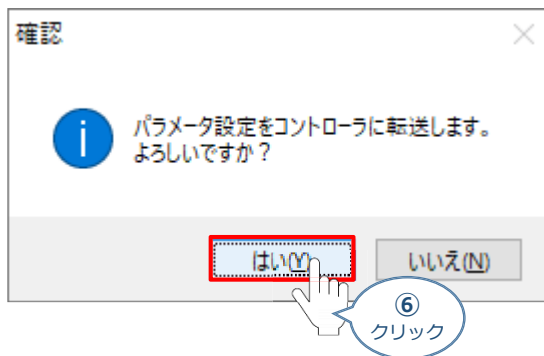
- ⑤ 設定が完了したら、**コントローラへ転送** をクリックします。

フィールドバス設定画面



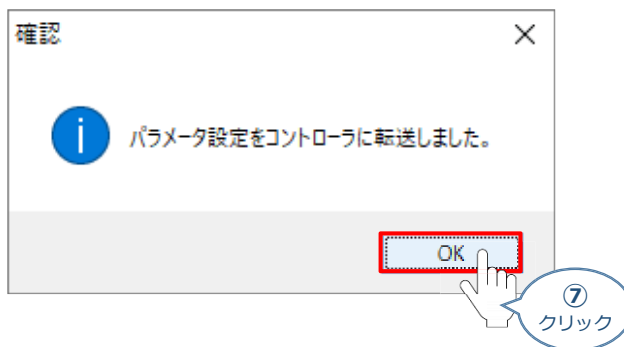
- ⑥ 確認画面が表示されます。**はい(Y)** をクリックします。

確認画面



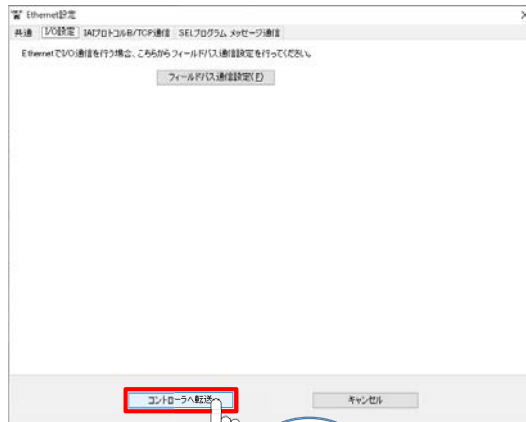
- ⑦ 転送が完了すると、情報画面が表示されます。**OK** をクリックします。

"確認" 画面



- ⑧ 続けて、Ethernet設定画面の **コントローラへ転送** をクリックします。

“Ethernet設定” 画面



注意

上記の時点では、まだ RSELシステムのパラメーターは書替っていません。
パラメーターを有効にする場合は、フラッシュROM書込みならびにコントローラ再起動
(ソフトウェアリセット)が必要です。

3

PIO入出力設定

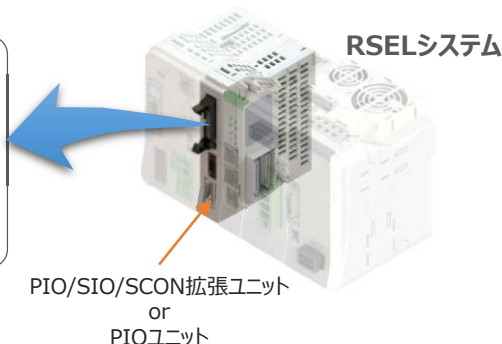
Point !



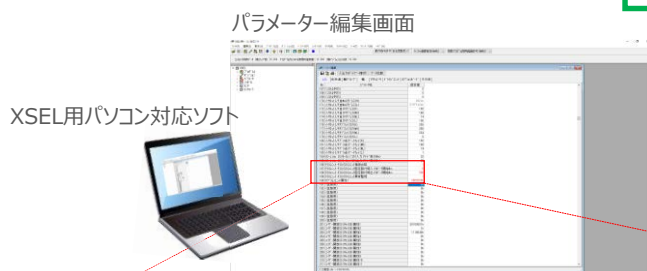
PIOユニットもしくは、PIO/SIO/SCON拡張ユニットをお使いにならない場合は、出荷時の値から変更する必要はありません。

PIO入出力についてのパラメーター編集を行います。本事例では、以下表の“設定値”にならいう設定をします。

- 入出力ポート：固定割付
- ユニット接続台数：1
- 入力ポート開始No.：0
- 出力ポート開始No.：300



No.	パラメーター名称	初期値	入力範囲	設定値	備考
186	PIOユニット・PIO/SIOユニット接続台数	0	0～8	1	入力、出力使用ポート数はそれぞれ接続台数×16です。
187	PIOユニット・PIO/SIOユニット固定割付時入力ポート開始No.	-1	-1, 0～299, 1000～3999	0	-1設定時、無効 0+(8の倍数)(0～299) 1000+(8の倍数)(1000～3999) ※ 1000～3999はフィールドバスのみ設定可能
188	PIOユニット・PIO/SIOユニット固定割付時出力ポート開始No.	-1	-1, 300～599, 4000～6999	300	-1設定時、無効 0+(8の倍数)(300～599) 1000+(8の倍数)(4000～6999) ※ 4000～6999はフィールドバスのみ設定可能
189	PIOユニット・PIO/SIOユニット異常監視	1	0～5	1	0：非監視 1：監視 2：監視(24V I/O電源関連エラー非監視) 3：監視(24V I/O電源関連エラーのみ監視) 4：監視(24V I/O電源関連エラーをメッセージレベルへ)
190	オプションユニット属性1	C800200h	0h～FFFFFFFh	C800200h	任意に設定



186	PIOユニット・PIO/SIOユニット接続台数	1
187	PIOユニット・PIO/SIOユニット固定割付時入力ポート開始No.	0
188	PIOユニット・PIO/SIOユニット固定割付時出力ポート開始No.	300
189	PIOユニット・PIO/SIOユニット異常監視	1
190	オプションユニット属性1	C800200h

入力

パラメーターの転送と書込み

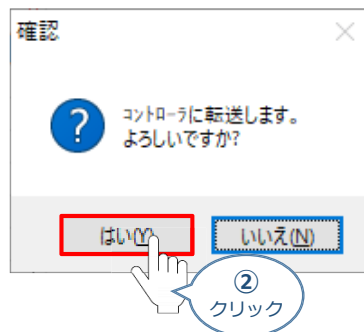
- ① パラメーター簡単設定画面を閉じます。

パラメーター編集画面



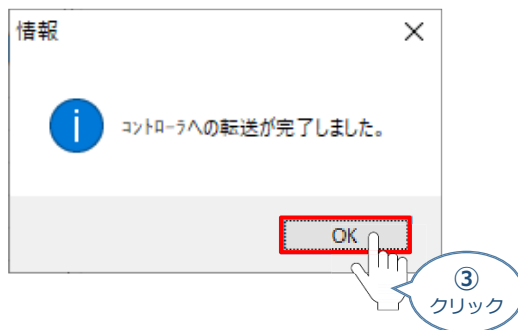
- ② 確認画面が表示されます。 をクリックします。

確認画面

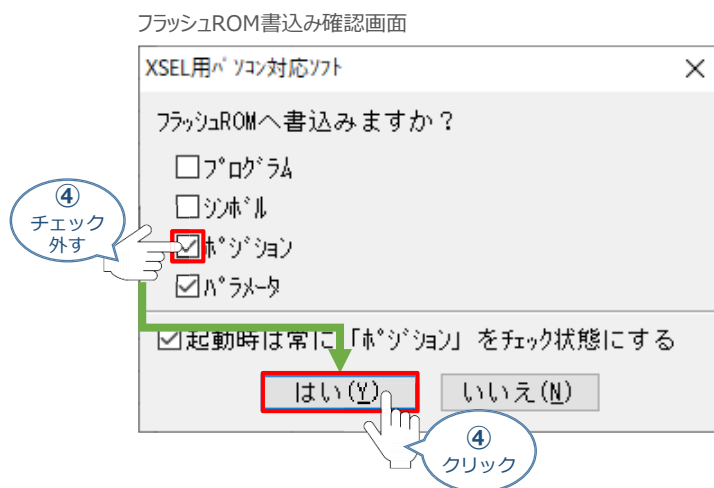


- ③ 情報画面が表示されます。 をクリックします。

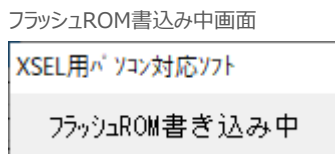
情報画面



- ④ フラッシュROM書き込み確認画面 ポジションの ☒ をクリックしてチェックを外し (☒⇒☐)、
はい(Y) をクリックします。



- ⑤ フラッシュROM書き込み中画面が表示されます。しばらく待ちます。

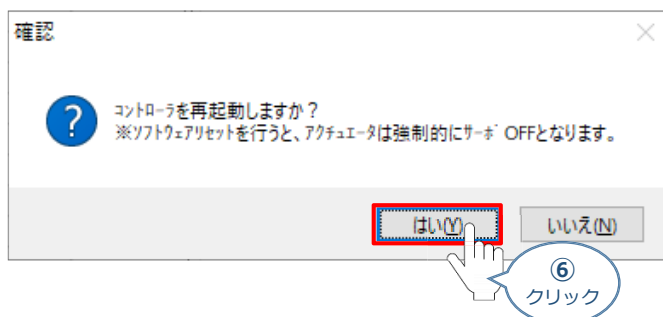


注意

データ転送中及びフラッシュ書き込み中は絶対に主電源をOFFしないでください。
データが失われコントローラが動作できなくなる場合があります。

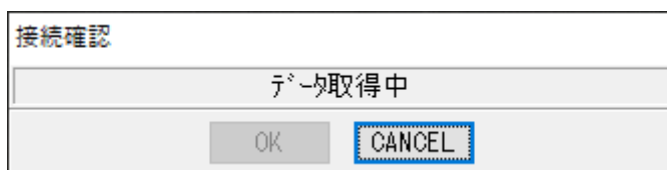
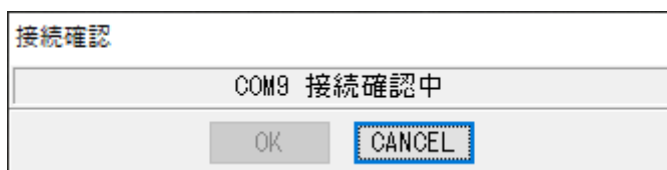
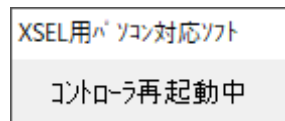
- ⑥ はい(Y) をクリックします。

コントローラ再起動確認画面



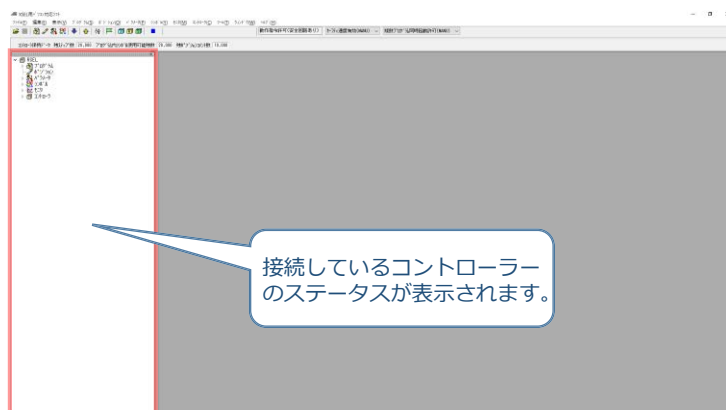
- ⑦ コントローラの再起動がはじまります。
再起動後、“接続確認” ⇒ “データ取得中” と進みます。

コントローラ再起動中画面



- ⑧ XSEL用パソコン対応ソフトのメイン画面に戻ります。

メイン画面



以上で、SELユニットの設定は終わりです。

RSELシステム 各ユニット間の通信状態確認

RSELシステム内の通信状態確認

RSELシステムのSELユニットならびに各ドライバーユニット前面にある LED（T.RUN と SYS）の
状態を見て、正常通信状態であるか確認します。

【LED 状態】
正常に通信
しています

24Vドライバー
ユニット
T.RUN

T.RUN

200Vドライバー
ユニット
T.RUN

【LED 状態】
正常に通信
しています

SELユニット
T.RUN
SYS

【LED 状態】
正常に通信
しています

SCON-RC接続仕様

NS

MS

【LED 状態】
正常に通信
しています

ドライバーユニット側LED表示

パネル表記	表示状態	表示の意味
T RUN	点灯	内部バス正常通信中
	点滅	初期化通信待ち
	点灯	内部バス通信異常発生

SELユニット側LED表示

パネル表記	表示状態	表示の意味
T RUN	点灯	内部バス正常通信中
	点滅	初期化通信待ち
	点灯	内部バス通信異常発生
SYS	点灯	正常運転中
	点灯	ゲートウェイアラーム発生中

SCON側フィールドバスLED表示

パネル表記	表示状態	表示の意味
T RUN	点灯	内部バス正常通信中
	点滅	初期化通信待ち
	点灯	内部バス通信異常発生
SYS	点灯	正常運転中
	点灯	ゲートウェイアラーム発生中

3 PLCの設定

用意するもの

PLC／パソコン／Sysmac Studio／通信用ケーブル

オムロン製オートメーションソフトウェア Sysmac Studio を立上げ、PLCと接続します。
(事例では、オムロン製PLC NJシリーズ を例に説明します)

オンライン状態でのPLC設定

設定の流れ

オフライン状態での PLC 設定



1

EDSファイルのダウンロード

オムロン製PLC（NJシリーズ）と接続する為に必要なEDS（Electronic Data Sheet）ファイルを準備します。



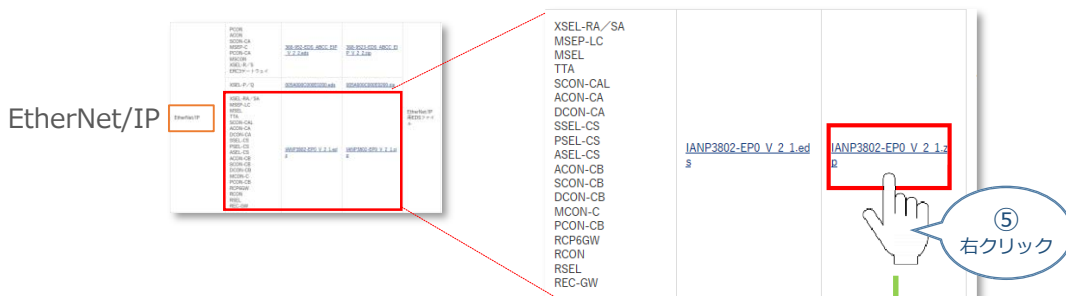
オムロン製PLCとRCONを接続するためには「EDSファイル」が必要です。「EDSファイル」については、弊社ホームページにてダウンロードいただけます。

① アイエイアイホームページへアクセスします。

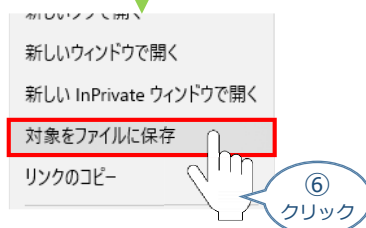


- ⑤ 該当するEDSファイル（IANP3802_EP0_V_2_1.zip）を右クリックします。

“フィールドネットワーク設定用ファイル
PLC用ファンクションブロック” EtherNet/IP部画面



- ⑥ 対象をファイルに保存(A)... をクリックします。



- ⑦ 保存先を確認してきますので、分かりやすい場所（事例では、パソコンのデスクトップ）を選び、
保存(S) をクリックします。

名前をつけて保存画面

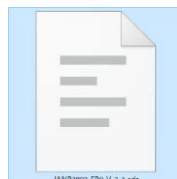
※ ファイルの
保存先は
任意です。



- ⑧ 保存先に ZIP ファイルがダウンロードされますので、フォルダーを解凍します。

フォルダー内のEDSデーターをデスクトップに
コピーすると、右のようなアイコンが、コピー先に
出現します。

EDSファイル アイコン



2

新規プロジェクト作成



“Sysmac Studio” のインストール手順等については、
オムロン株式会社 オートメーションソフトウェア Sysmac Studio Version 1
オペレーションマニュアル [第2章 インストールとアンインストール] を参照してください。

- ①  Sysmac Studioのアイコンをダブルクリックし、ソフトを起動します。



Sysmac Studio 起動

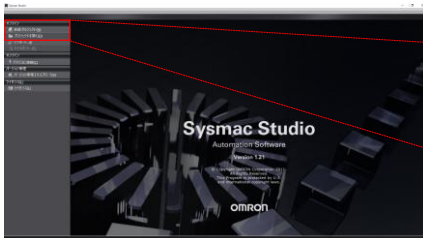


Sysmac Studio 初期画面



- ②  **新規プロジェクト(N)** をクリックします。

Sysmac Studio 初期画面



オフライン

新規プロジェクト(N)

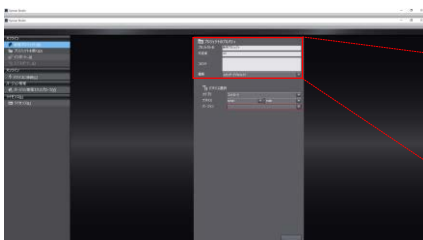
プロジェクトを開く(O)

プロジェクトを保存(S)

②
クリック

- ③ プロジェクトの作成を行います。まず、プロジェクト名を入力します。

Sysmac Studio 初期画面

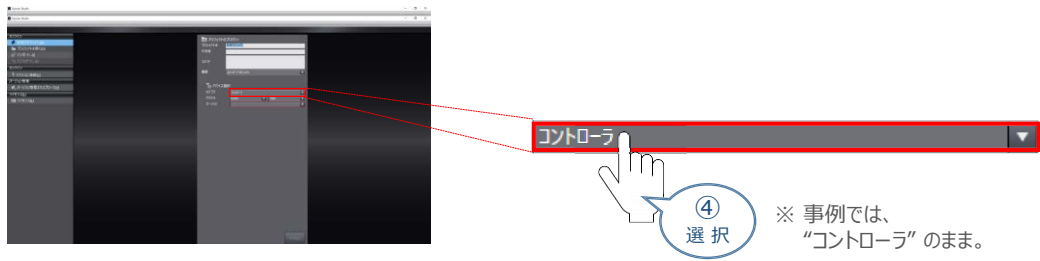


※ 事例では、
“新規プロジェクト” とします。



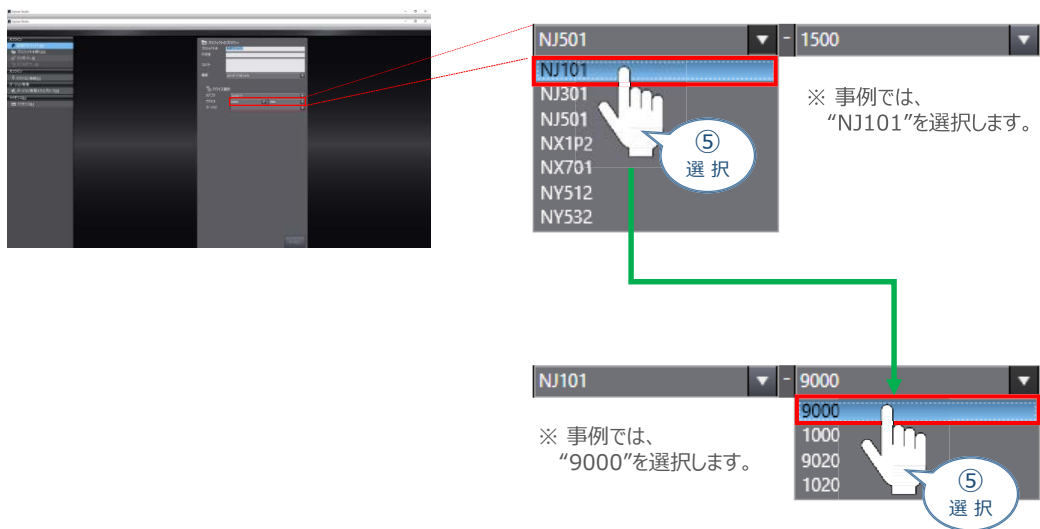
④ “カテゴリ” を選択します。

Sysmac Studio 初期画面



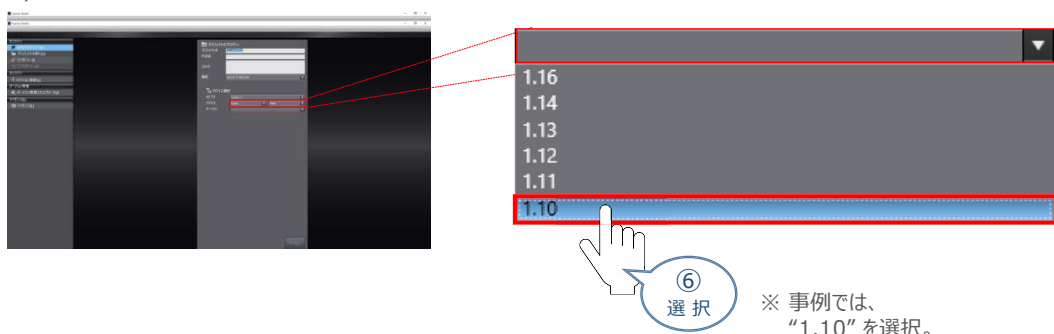
⑤ “デバイス” を使用する機器のタイプ に設定します。

Sysmac Studio 初期画面



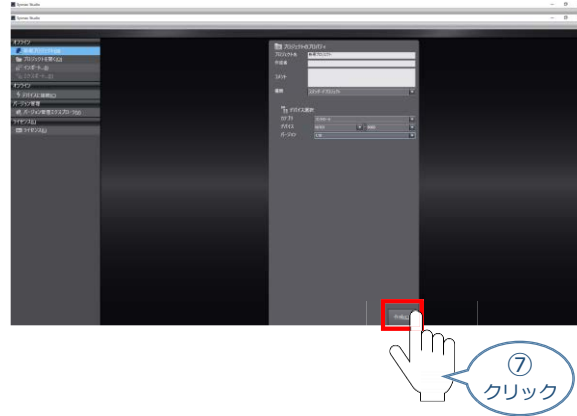
⑥ 使用機器のバージョンを選択します。

Sysmac Studio 初期画面



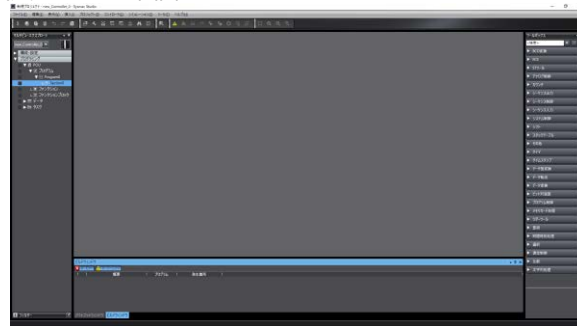
- ⑦ 作成(C) をクリックします。

Sysmac Studio 初期画面



- ⑧ 新規プロジェクト画面が表示されます。

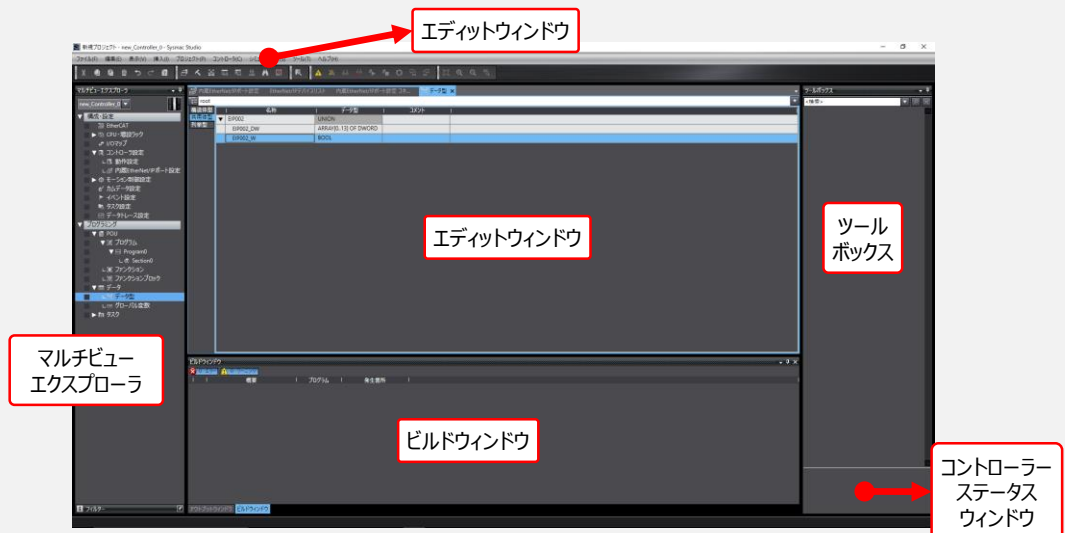
新規プロジェクト画面



補足

プロジェクト画面の説明

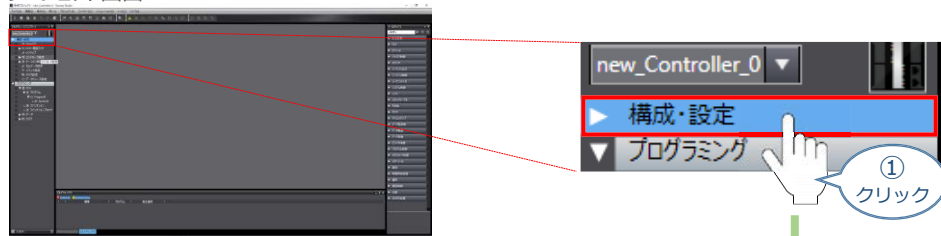
Sysmac Studio プロジェクト画面のレイアウトを以下に示します。



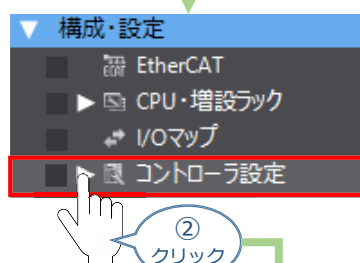
3 PLCの IPアドレス設定

- ① プロジェクト画面左隅にある **構成・設定** をクリックします。

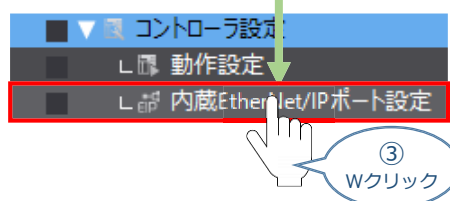
プロジェクト画面



- ② **コントローラ設定** をクリックします。

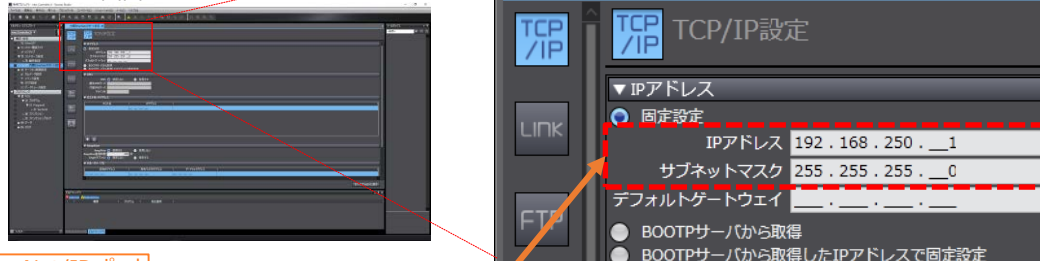


- ③ **内蔵EtherNet/IPポート設定** をWクリックします。



- ④ プロジェクト画面内の エディットウィンドウに、**内蔵EtherNet/IPポート設定** タブが表示されます。必要に応じてアドレスを変更します（事例では以下の通り設定）。

プロジェクト画面



EtherNet/IP ポート

IPアドレス : 192.168.250.1
サブネットマスク : 255.255.255.0

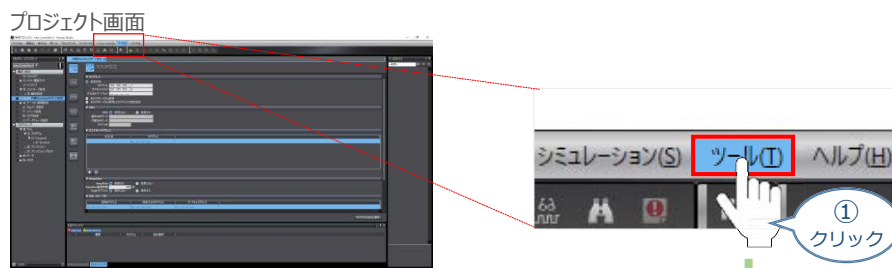
◆ PLC



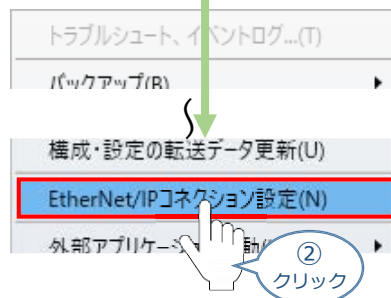
4

EDSファイルのインストール

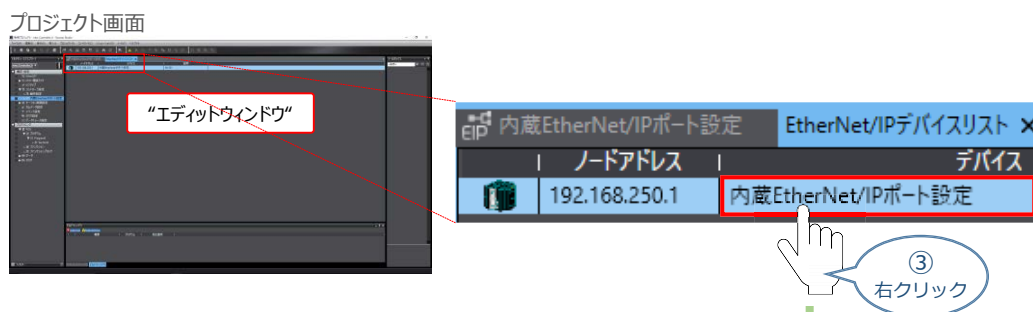
- ① プロジェクト画面のメニューバーにある **ツール(T)** をクリックします。



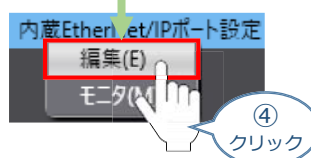
- ② **EtherNet/IPコネクション設定(N)** をクリックします。



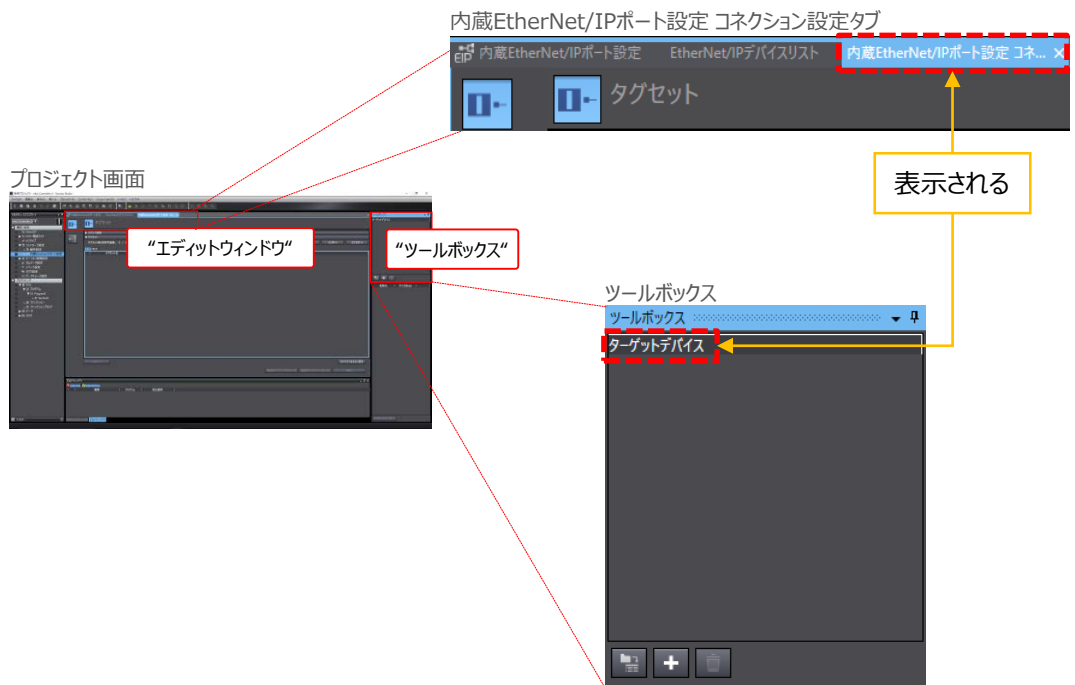
- ③ エディットウィンドウに、**EtherNet/IPデバイスリスト** タブが表示されます。
ここで、**内蔵EtherNet/IPポート設定** を右クリックします。



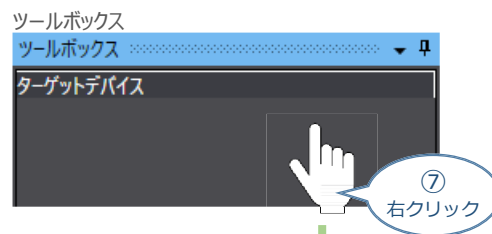
- ④ **編集(E)** をクリックします。



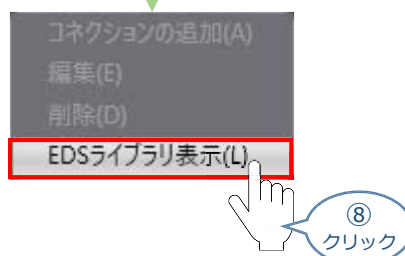
- ⑥ エディットウィンドウに、**内蔵EtherNet/IPポート設定 コネクション設定** タブと、ツールボックスに**ターゲットデバイス**が表示されます。



- ⑦ ターゲットデバイス内の空欄を右クリックします。



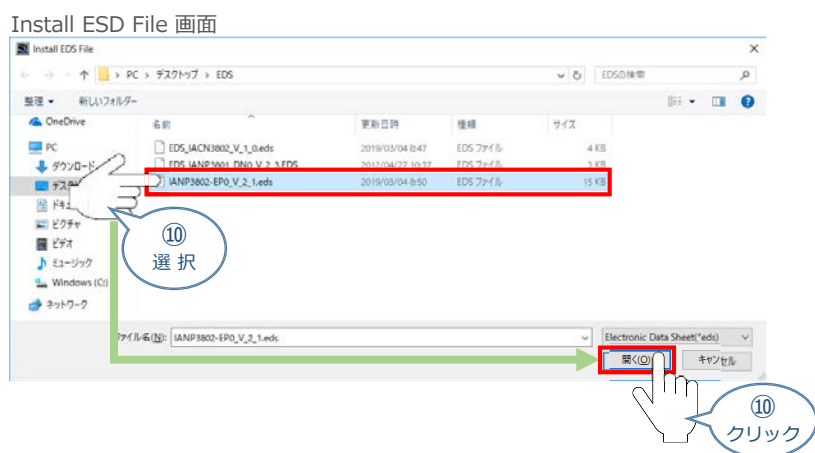
- ⑧ **EDSライブラリ表示(L)** をクリックします。



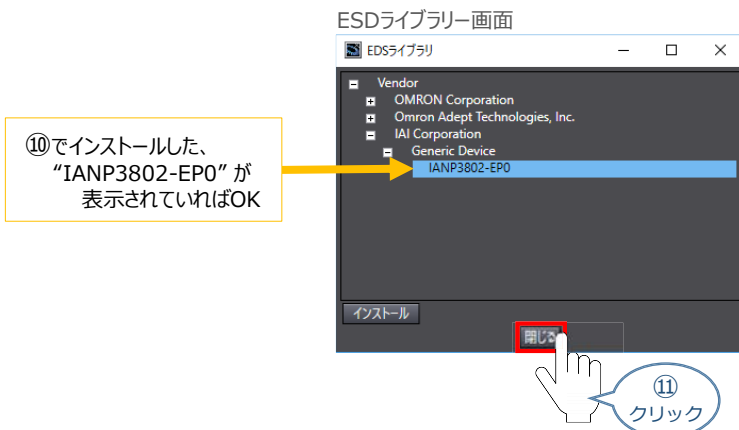
- ⑨ EDSライブラリー画面が表示されますので、**インストール** をクリックします。



- ⑩ インストールするEDSファイル **IANP3802-EP0_V_2_1.eds** を選択し、**開く(O)** をクリックします。



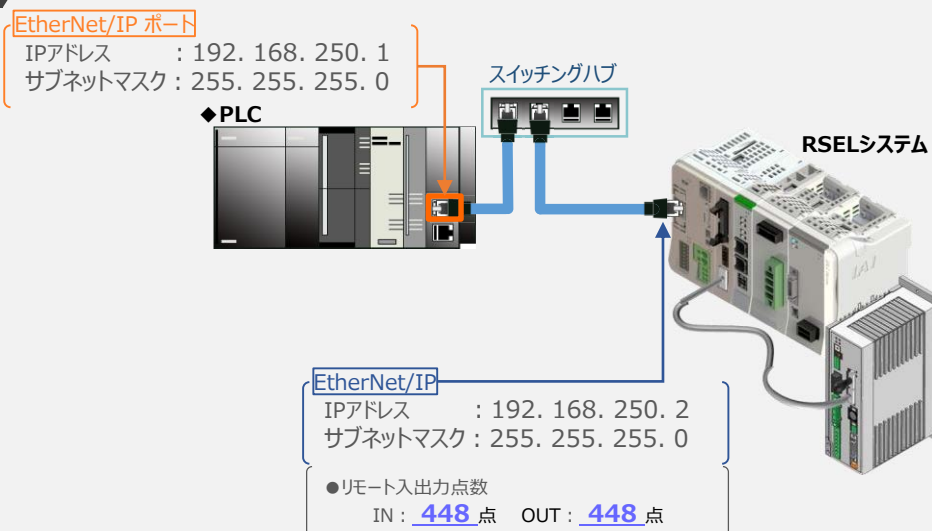
- ⑪ EDSファイルが正常にインストールされると、EDSライブラリーダイアログにデバイスが追加されます。追加されていることを確認し、**閉じる** をクリックします。



ネットワーク構成の設定

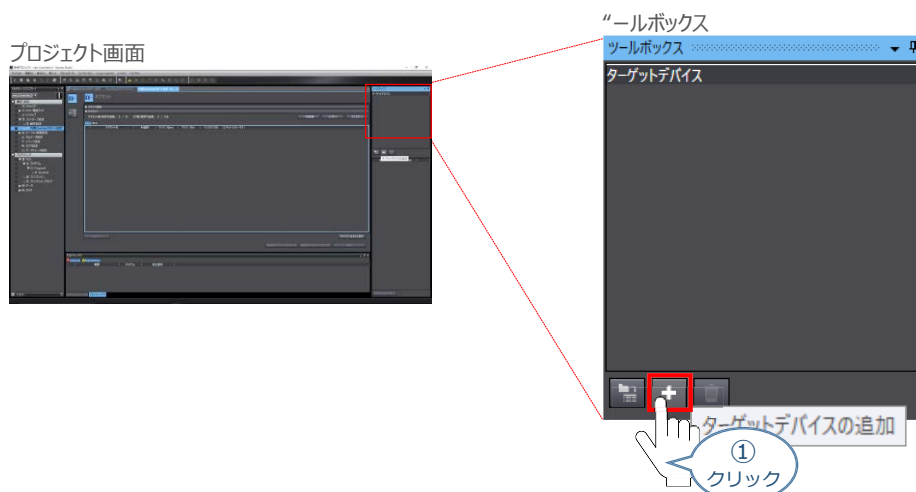
事例として、以下接続例のように PLCのEtherNet/IP ポートにRSELシステムを接続するための設定について説明します。

接続例

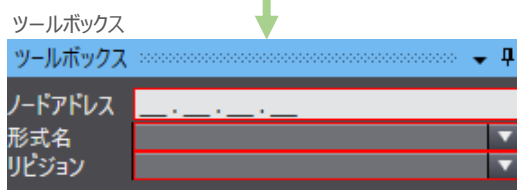


ターゲットデバイスの登録

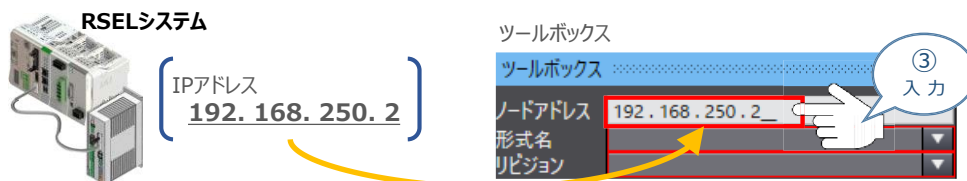
- ① ツールボックス内にある **+** をクリックします。



- ② ツールボックスにターゲットデバイス登録画面表示されます。

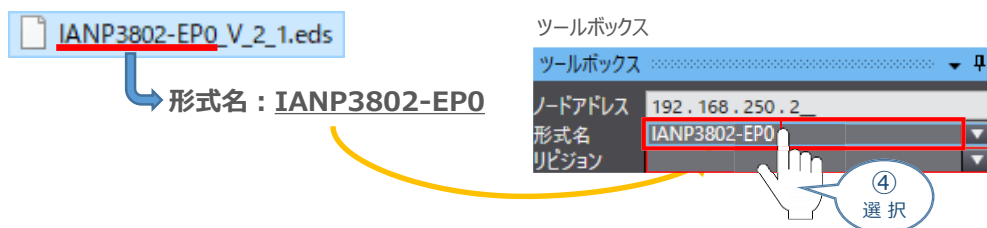


- ③ ノードアドレス欄に、RSELシステムの IPアドレスを入力します。



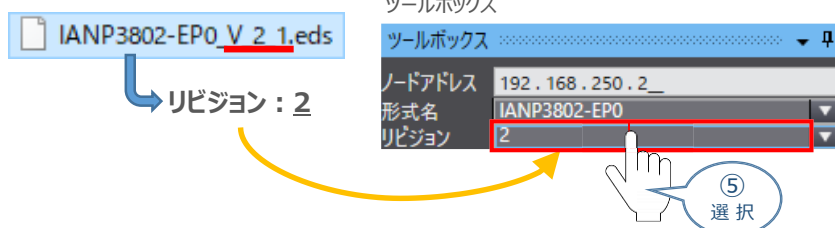
- ④ 形式名 欄のプルダウンリストから、EDSファイルの登録名称を選択します。

登録したEDSファイル



- ⑤ リビジョン欄 のプルダウンメニューから、EDSファイルのリビジョンを選択します。

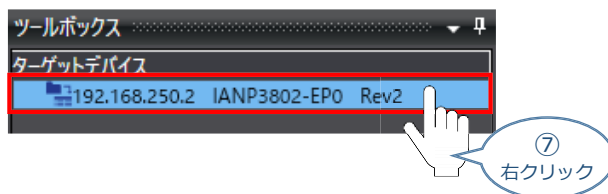
登録したEDSファイル



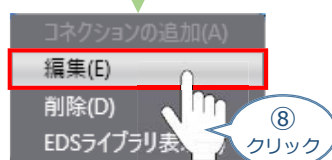
- ⑥ **追加** をクリックします。



- ⑦ ツールボックスに“ターゲットデバイス”が登録されます。
 ここで、**192.168.250.2 IANP3802-EP0 Rev2**を右クリックします。



- ⑧ **編集(E)**をクリックします。



- ⑩ パラメーター画面が表示されます。
 RSELシステムに設定している占有情報を Output Size、Input Size の各欄に入力し、**OK**をクリックします。

パラメーター画面

RSELシステム

- リモート入出力点数

OUT : 448 点 → 56 byte

IN : 448 点 → 56 byte

入出力点数 (bit 単位) を byte単位に変換します

⑩ 入力

⑩ クリック

ツールボックス :
 ノードアドレス 192.168.250._2

▼ パラメータ

パラメータ名	値
0001 Output Size	56
0002 Input Size	56
0003 RPI Range	0000

ヘルプ
 0002 Input Size
 デフォルト値 : 56 最小値 : 0 最大値 : 256

すべてデフォルトに戻す

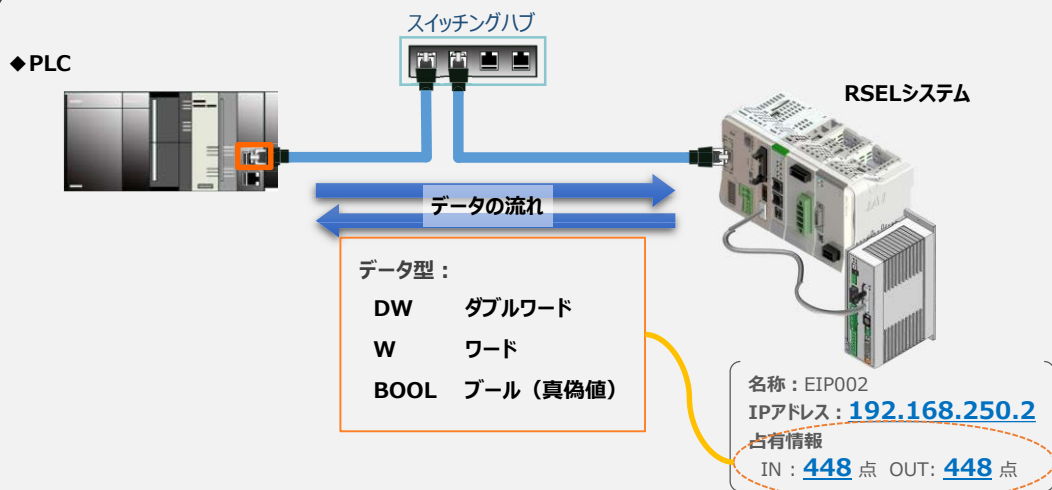
OK キャンセル

データ型の設定

スレーブユニットで取扱いするデータの単位が混在する場合に設定します。

この事例では、DWORD、WORD、BOOL のデータ型 3種類について登録する内容について説明します。

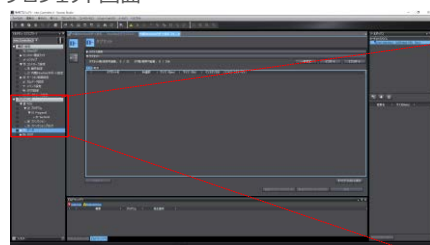
接続例



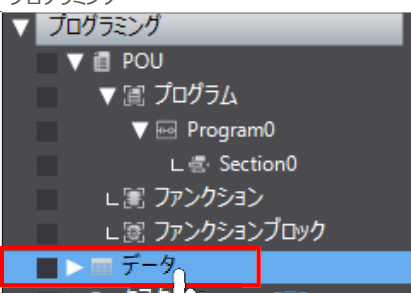
1 データ型の新規作成

- ① プロジェクト画面の プログラミング欄 にある **データ** をダブルクリックします。

プロジェクト画面

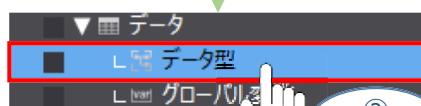


プログラミング



①
Wクリック

- ② **データ型** をWクリックします。

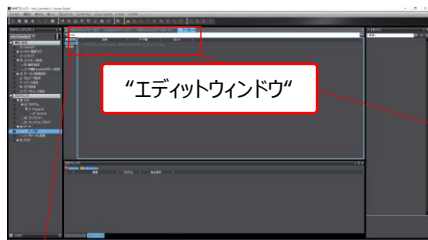


②
Wクリック

- ③ プロジェクト画面のエディットウィンドウ に、**データ型 ×** タブが表示されます。

共用体型 を選択し、名称の下（赤○部）をクリックします。

プロジェクト画面



2 データ型の設定

- ① 名称の欄に、EIP002 を入力します。

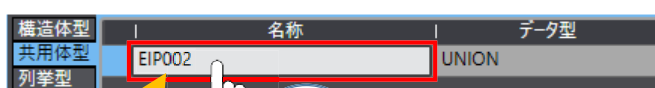
RSELシステム



IPアドレス
192. 168. 250. ②

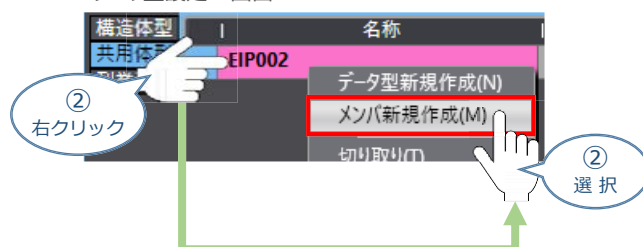
"EIP002"

データ型設定画面

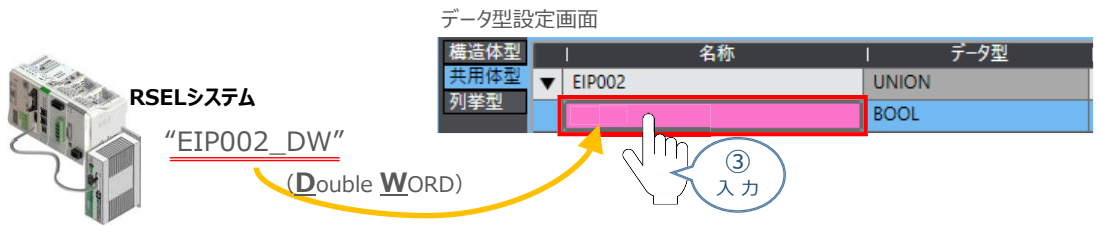


- ② EIP002を右クリックし、**メンバ新規作成(M)** を選択します。

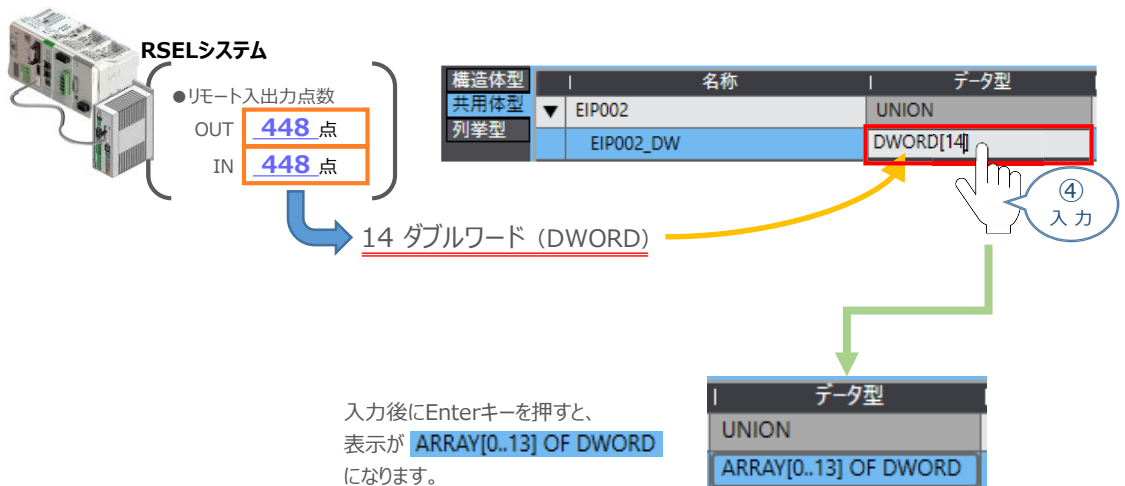
"データ型設定" 画面



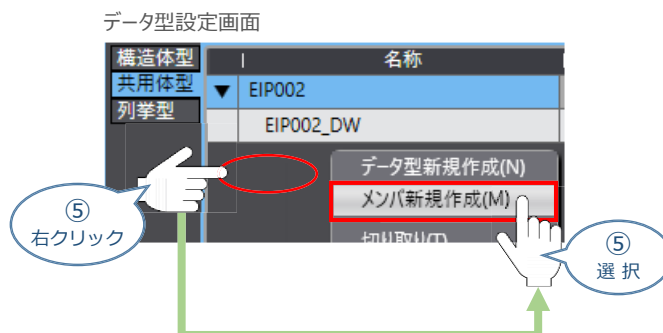
- ③ ダブルワードのデータ型を登録するため、名称 に EIP002_DW を入力します。



- ④ データ型にダブルワードのデータ量を入力します。



- ⑤ 赤○部を右クリックし、メンバー新規作成(M) を選択します。



- ⑥ ワードのデータ型を登録するため、名称 に EIP002_W を入力します。

RSELシステム

"EIP002_W"
(WORD)

データ型設定画面

構造体型	名称	データ型
共用体型	EIP002	UNION
列挙型	EIP002_DW	ARRAY[0..13] OF DWORD
	EIP002_W	BOOL

⑥ 入力

- ⑦ データ型に ワードの データ量を入力します。

RSELシステム

●リモート入出力点数

OUT 448 点

IN 448 点

28 ワード (WORD)

データ型設定画面

構造体型	名称	データ型
共用体型	EIP002	UNION
列挙型	EIP002_DW	ARRAY[0..13] OF DWORD
	EIP002_W	WORD[28]

⑦ 入力

データ型

データ型
UNION
ARRAY[0..13] OF DWORD
ARRAY[0..27] OF WORD

入力後にEnterキーを押すと、
表示が ARRAY[0..27] OF WORD
になります。

- ⑧ 赤○部を右クリックし、 メンバ新規作成(M) を選択します。

データ型設定画面

構造体型	名称
共用体型	EIP002
列挙型	EIP002_DW
	EIP002_W

⑧ 右クリック

データ型新規作成(N)

メンバ新規作成(M)

⑧ 選択

- ⑨ ブールのデータ型を登録するため、名称 に EIP002_B を入力します。

データ型設定画面

RSELシステム

"EIP002_B"
(BOOL)

構造体	名称	データ型
共用体	EIP002	UNION
列挙型	EIP002_DW	ARRAY[0..13] OF DWORD
	EIP002_W	ARRAY[0..27] OF WORD
	EIP002_B	BOOL

⑨ 入力

- ⑩ データ型 に ワードのデータ量を入力します。

RSELシステム

●リモート入出力点数

OUT 448 点

IN 448 点

448 ブール (BOOL)

構造体	名称	データ型
共用体	EIP002	UNION
列挙型	EIP002_DW	ARRAY[0..13] OF DWORD
	EIP002_W	ARRAY[0..27] OF WORD
	EIP002_B	BOOL[448]

⑩ 入力

入力後にEnterキーを押すと、
表示が ARRAY[0..447] OF BOOL
になります。

データ型
UNION
ARRAY[0..13] OF DWORD
ARRAY[0..27] OF WORD
ARRAY[0..447] OF BOOL

以下のように データ型 が設定されます。

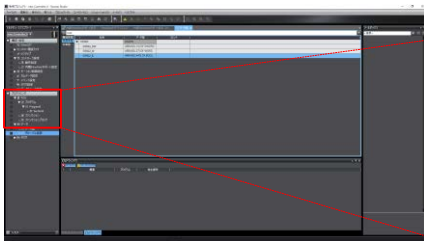
構造体	名称	データ型
共用体	EIP002	UNION
列挙型	EIP002_DW	ARRAY[0..13] OF DWORD
	EIP002_W	ARRAY[0..27] OF WORD
	EIP002_B	ARRAY[0..447] OF BOOL

グローバル変数の設定

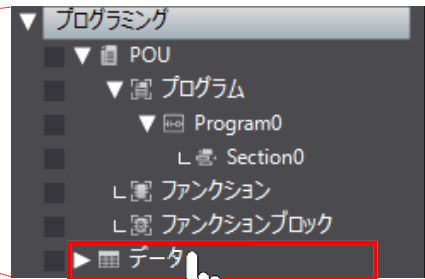
1 グローバル変数の新規作成

- ① プロジェクト画面 のマルチビューエクスプローラーにある、プログラミング欄の **データ** をダブルクリックします。

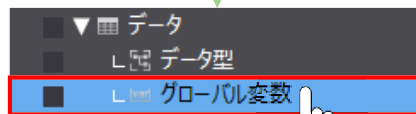
プロジェクト画面



プログラミング

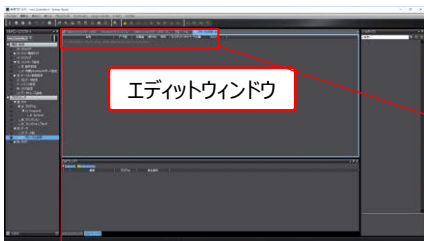


- ② **グローバル変数** をWクリックします。

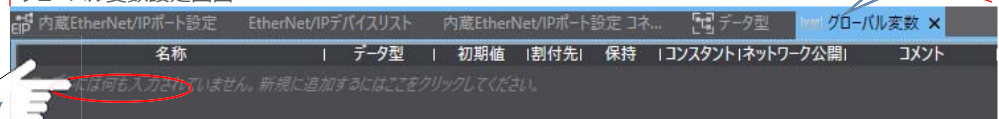


- ③ エディットウィンドウ に、**グローバル変数** タブが表示されます。名称の下をクリックします。

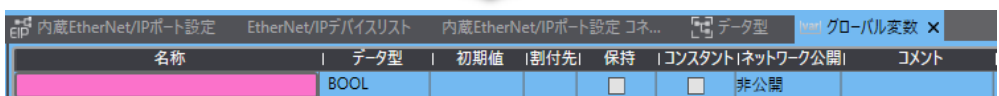
プロジェクト画面



グローバル変数設定画面

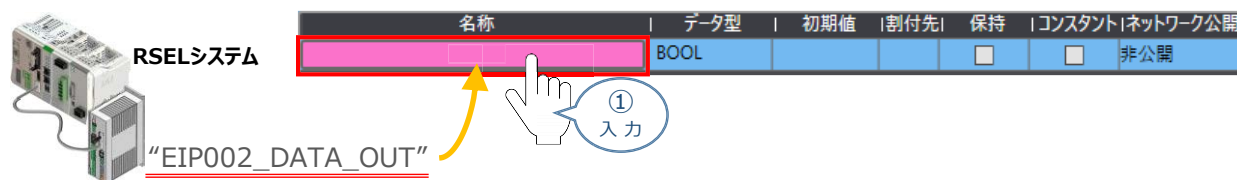


タブ：
グローバル変数

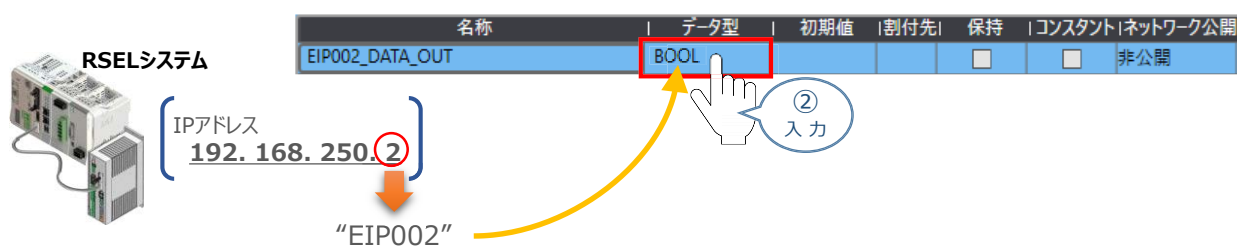


2 グローバル変数の設定作業

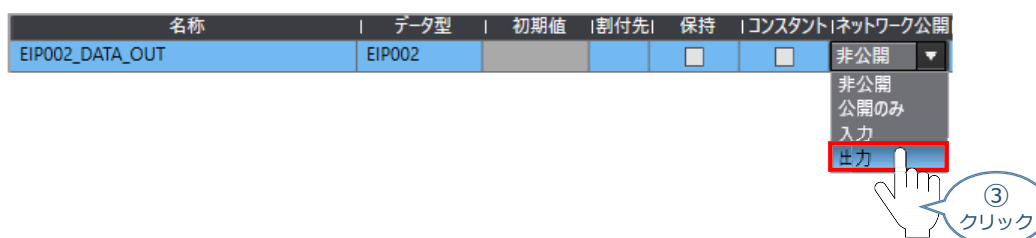
- ① 名称欄に、“EIP002_DATA_OUT”を入力します。



- ② データ型欄をデータ型の名称 EIP002 に変更します。



- ③ ネットワーク公開のプルダウンメニューから 出力 をクリックします。



- ④ 赤○部を右クリックし、新規作成(N) をクリックします。



Point !



データ型は、②で設定した“EIP002”が自動で入力されます。

- ⑤ 名称欄に、“EIP002_DATA_IN” を入力します。



RSELシステム

名称	データ型	初期値	割付先	保持	コネスタント	ネットワーク公開
EIP002_DATA_OUT	EIP002			☐	☐	出力
EIP002_DATA_IN	EIP002			☐	☐	非公開

⑥ 入力

- ⑥ ネットワーク公開を、プルダウンメニューから 入力 に設定します。

名称	データ型	初期値	割付先	保持	コネスタント	ネットワーク公開
EIP002_DATA_OUT	EIP002			☐	☐	出力
EIP002_DATA_IN	EIP002			☐	☐	非公開

プルダウンメニュー: 非公開, 公開のみ, 入力, 出力

⑥ クリック

これでグローバル変数の設定は終了です。

内蔵EtherNet/IPポート設定 EtherNet/IPデバイスリスト 内蔵EtherNet/IPポート設定 コネ... データ型 グローバル変数 ×

名称	データ型	初期値	割付先	保持	コネスタント	ネットワーク公開	コメント
EIP002_DATA_OUT	EIP002			☐	☐	出力	
EIP002_DATA_IN	EIP002			☐	☐	入力	

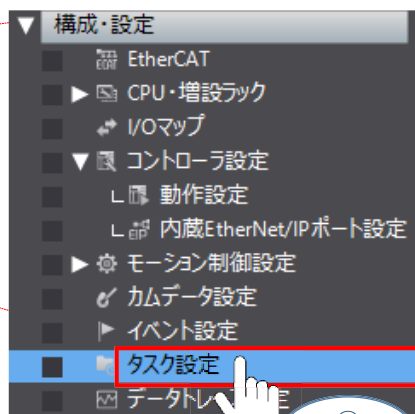
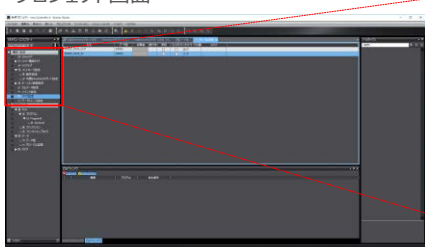
○ タスク設定

変数のタスク間排他制御設定を行います。

1 タスク間インターフェース変数の追加

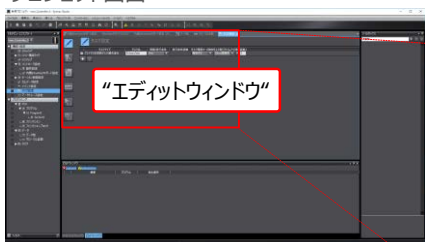
- ① プロジェクト画面のマルチビューエクスプローラーにある 構成・設定内の **タスク設定** をダブルクリックします。

プロジェクト画面



- ② エディットウィンドウに **タスク設定** タブが表示されます。ここで **VAR** をクリックします。

プロジェクト画面

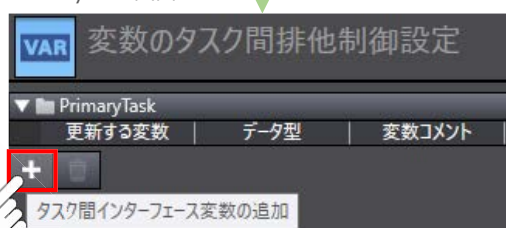


タブ：
タスク設定



- ③ **+** をクリックします。

PrimaryTask画面



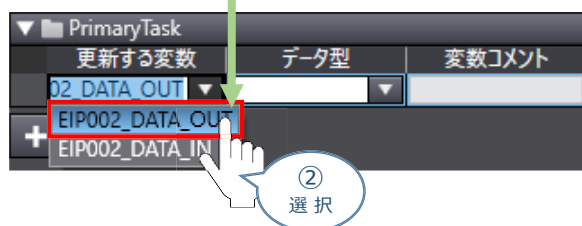
2

タスク間インターフェース変数の設定

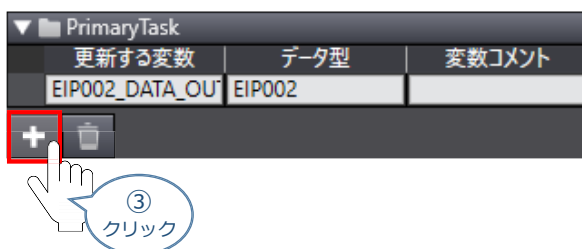
- ① 新規、設定エリアが追加されるので、更新する変数 のプルダウンリストをクリックします。



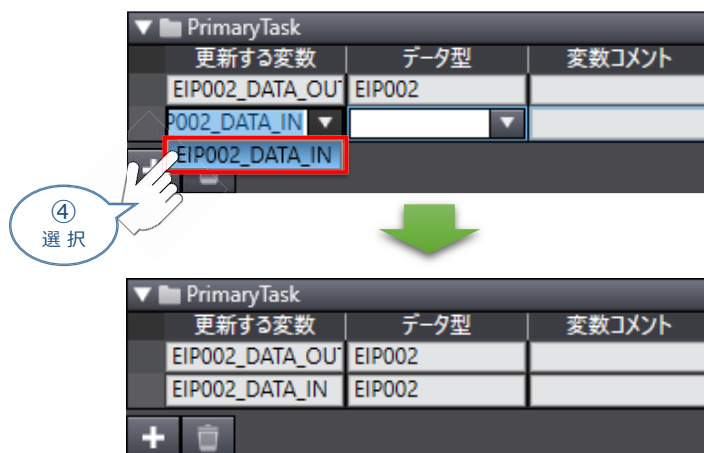
- ② “EIP002_DATA_OUT” を選択します。



- ③  をクリックします。



- ④ 設定エリアが追加されます。①～② の手順で“EIP003_DATA_IN” を選択します。

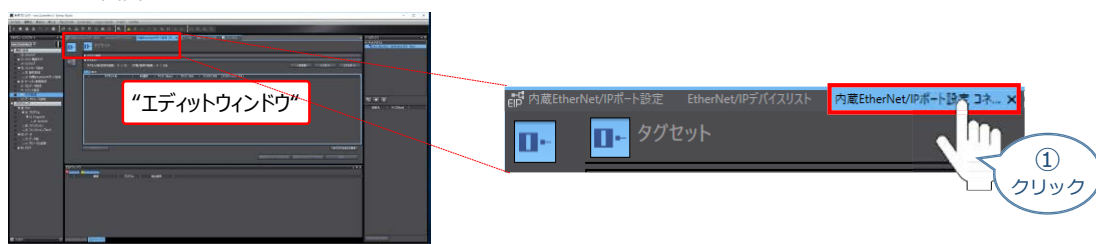


タグの登録

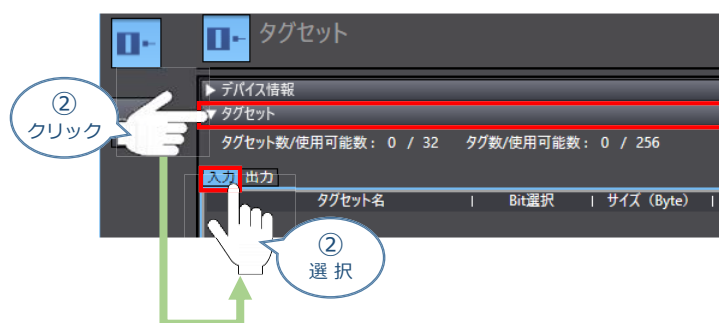
1 入力側の設定

- ① プロジェクト画面内、エディットウィンドウの **内蔵EtherNet/IPポート設定 コネ...** (**内蔵EtherNet/IPポート設定 コネクション設定**) タブをクリックします。

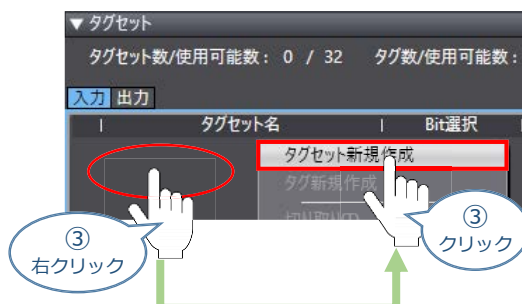
プロジェクト画面



- ② ▶ **タグセット** をクリックし、**入力** タブを選択します。



- ③ 赤○部を右クリックし、**タグセット新規作成** をクリックします。



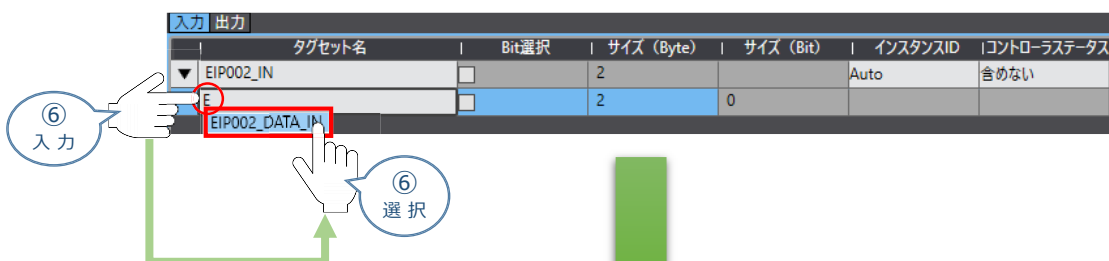
- ④ 新規タグ設定エリアが追加されます。タグセット名に、“EIP002_IN” を入力します。



- ⑤ 赤○部を右クリックし、**タグセット新規作成** をクリックします。



- ⑥ 新規タグ名を入力できるようになります。タグセット名に“E”と入力するとプルダウンリストが現れますので、設定する内容（事例では **EIP002_DATA_IN**）を選択します。



入力	出力	タグセット名	Bit選択	サイズ (Byte)	サイズ (Bit)	インスタンスID	コントロールステータス
▼		EIP002_IN	☐	2		Auto	含めない
		E	☐	2	0		
		EIP002_DATA_IN	☐				

“ネットワークの構成”で設定したデータサイズが反映されます。



RSELシステム

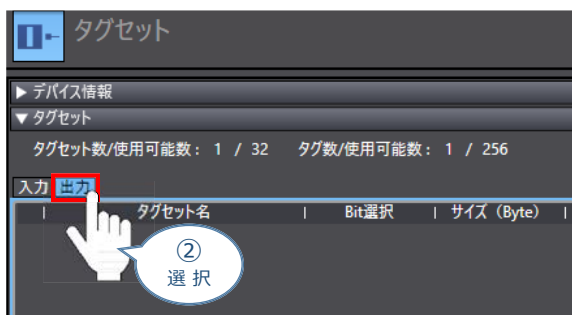
- リモート入出力点数

OUT : 448 点 → 56 byte

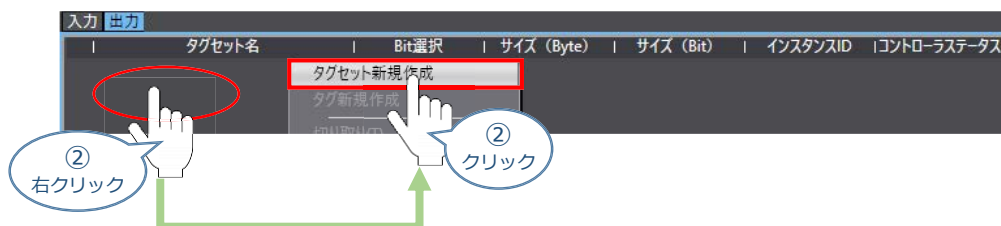
IN : 448 点 → 56 byte

2 出力側の設定

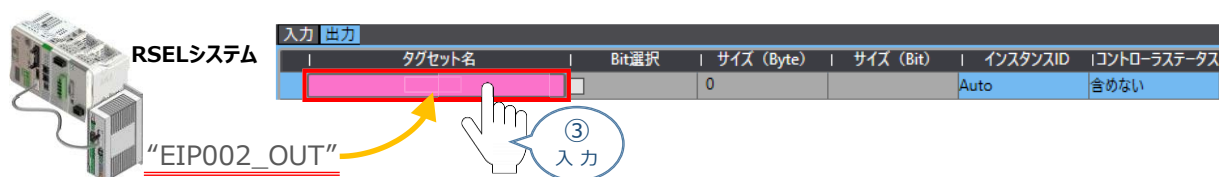
- ① **出力** タブを選択します。



- ② 赤○部を右クリックし、**タグセット新規作成** をクリックします。



- ③ 新規タグ設定エリアが追加されます。タグセット名に、“EIP002_OUT” を入力します。



- ④ 赤○部を右クリックし、**タグセット新規作成** をクリックします。



- ⑤ 新規タグ名を入力できるようになります。タグセット名に“E”と入力するとプルダウンリストが現れますので、設定する内容（事例では **EIP002_DATA_OUT**）を選択します。

⑤ 入力

⑤ 選択

入力	出力	タグセット名	Bit選択	サイズ (Byte)	サイズ (Bit)	インスタンスID	コントロールステータス
▼		EIP002_OUT	☐	2		Auto	含めない
		EIP002_DATA_OUT	☐	2	0		

入力	出力	タグセット名	Bit選択	サイズ (Byte)	サイズ (Bit)	インスタンスID	コントロールステータス
▼		EIP002_OUT	☐	56		Auto	含めない
		EIP002_DATA_OUT	☐	56	0		

“ネットワークの構成”で設定したデータサイズが反映されます。



RSELシステム

- リモート入出力点数

OUT : 448 点 → 56 byte

IN : 448 点 → 56 byte

3

タグセット数、タグ数の確認

“タグセット数” “タグ数” が、グローバル変数の設定数と、同数になっていることを確認します。

入力	出力	タグセット名	Bit選択	サイズ (Byte)
▼		EIP002_IN	☐	56
		EIP002_DATA_IN	☐	56

入力	出力	タグセット名	Bit選択	サイズ (Byte)
▼		EIP002_OUT	☐	56
		EIP002_DATA_OUT	☐	56

※ 事例では、
 入力のタグセット数 = 1, タグ数 = 1
 出力のタグセット数 = 1, タグ数 = 1

→ 設定数の合計

タグセット数 = 2, タグ数 = 2 となります。

▼ タグセット

タグセット数/使用可能数: 2 / 32 タグ数/使用可能数: 2 / 256

同数ならOK

入力 出力

タグセット名	Bit選択	サイズ (Byte)
--------	-------	------------

コネクション設定

ターゲット変数（コネクションを開設される側）およびオリジネータ変数（コネクションを開設する側）を設定し、コネクション（タグデータリンクテーブル）の設定を行います。

- ① プロジェクト画面内、エディットウィンドウの **内蔵EtherNet/IPポート設定 コネ...** **×**（**内蔵EtherNet/IPポート設定 コネクション設定**）タブをクリックします。

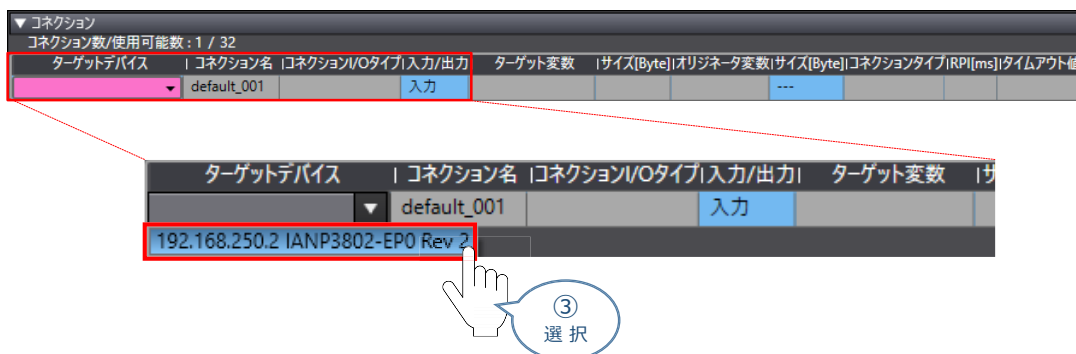
“プロジェクト” 画面



- ② （コネクション）をクリックし、 を選択します。



- ③ 新規 コネクションを入力できるようになります。
ターゲットデバイスのプルダウンリストから **192.168.250.2 IANP3802-EP0 Rev 2** を選択します。



- ④ コネクション **default_001** が生成されるので、コネクションI/Oタイプが、**Exclusive Owner**であることを確認します。

▼ コネクション
コネクション数/使用可能数 : 2 / 32

ターゲットデバイス	コネクション名	コネクションI/Oタイプ	入力/出力	ターゲット変数
192.168.250.2 IANP3802-EP0 Rev 2 ▼	default_001	Exclusive Owner	入力	
			出力	

Exclusive Owner

- ⑤ ターゲット変数を設定します。入力のターゲット変数に“100”を入力します。

ターゲットデバイス	コネクション名	コネクションI/Oタイプ	入力/出力	ターゲット変数	サイズ[Byte]	オリジネータ変数
192.168.250.2 IANP3802-EP0 Rev 2 ▼	default_001	Exclusive Owner	入力	10		
			出力	100		

⑤ 入力

- ⑥ 出力のターゲット変数に“150”を入力します。

ターゲットデバイス	コネクション名	コネクションI/Oタイプ	入力/出力	ターゲット変数	サイズ[Byte]	オリジネータ変数
192.168.250.2 IANP3802-EP0 Rev 2 ▼	default_001	Exclusive Owner	入力	100	56	
			出力	150		

⑥ 入力

Point ! キーボードから “[Ctrl] + [スペース]” を入力すると、使用できるインスタンス番号が表示されます。
※ インスタンス番号の先頭文字 “1” の入力でも一覧は表示されます。

- ⑦ "オリジネータ変数"を設定します。入力 の オリジネーター変数 をクリックし、プルダウンリストから使用するタグセット名を選択します。

ターゲットデバイス	コネクション名	コネクション/Oタイプ	入力/出力	ターゲット変数	サイズ[Byte]	オリジネータ変数	サイズ[Byte]
192.168.250.2 IANP3802-EP0 Rev 2	default_001	Exclusive Owner	入力	100	56	---	---
			出力	150	56	EIP002_IN	---



- ⑧ 同様の操作で、出力 の オリジネーター変数 を選択します。

ターゲットデバイス	コネクション名	コネクション/Oタイプ	入力/出力	ターゲット変数	サイズ[Byte]	オリジネータ変数	サイズ[Byte]
192.168.250.2 IANP3802-EP0 Rev 2	default_001	Exclusive Owner	入力	100	56	EIP002_IN	56
			出力	150	56	---	---



- ⑨ コネクション数を確認します。事例では“2”であることを確認します。

▼ コネクション

コネクション数/使用可能数: 2 / 32

ターゲットデバイス	コネクション名	コネクション/Oタイプ	入力/出力	ターゲット変数	サイズ[Byte]	オリジネータ変数	サイズ[Byte]	コネクションタイプ	RPI[ms]	タイムアウト値
192.168.250.2 IANP3802-EP0 Rev 2 ▼	default_001	Exclusive Owner	入力	100	56	EIP002_IN	56	Multi-cast connection	50.0	RPI x 4
			出力	150	56	EIP002_OUT	56	Point to Point connection		

▼ コネクション
コネクション数/使用可能数: 2 / 32

タグ数、タグセット数と同じ
値になることを確認

Point !



コネクションタイプ および RPI[ms]、タイムアウト値を必要により、設定します。
本事例では、デフォルトの値のまま使用します。

プロジェクトデータの転送

オンライン接続し、コネクション設定およびプロジェクトデータをコントローラに転送します。

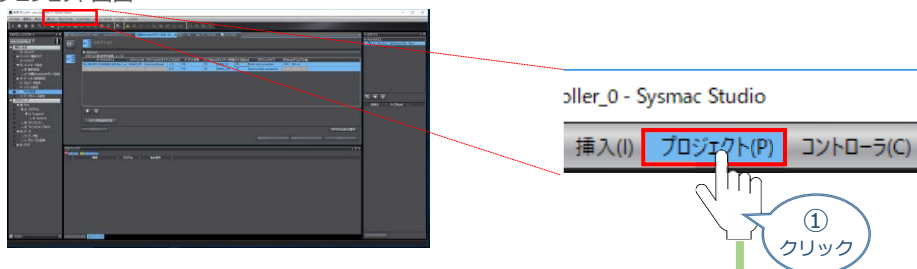


Sysmac Studio からユーザプログラム、構成/設定のデータ、デバイス変数、CJユニット用メモリの値を転送する時は、転送先ノードの安全を確認してから行ってください。
CPUユニットの動作モードにかかわらず、装置や機械が想定外の動作をする恐れがあります。

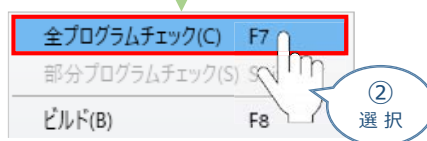
1 全プログラムチェック と リビルド

- ① プロジェクト画面のメニューバーから、**プロジェクト(P)** を選択します。

プロジェクト画面

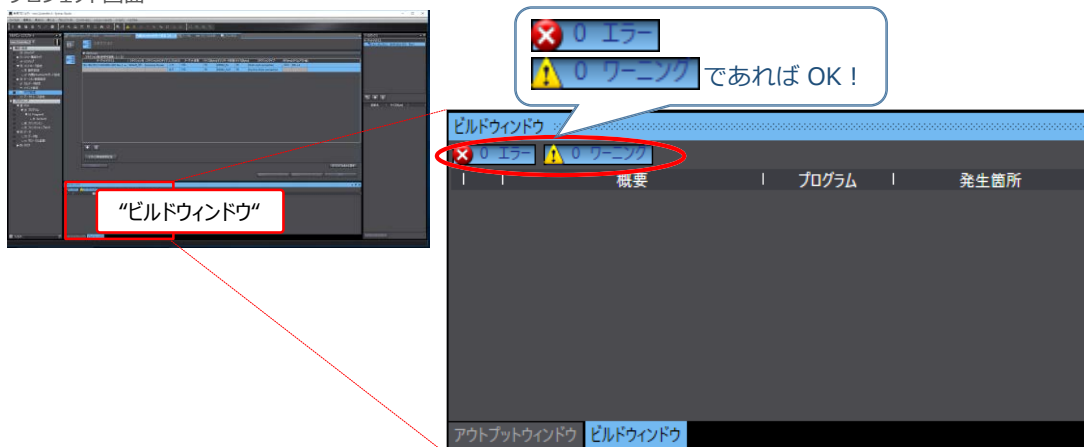


- ② **全プログラムチェック(C) F7** を選択します。



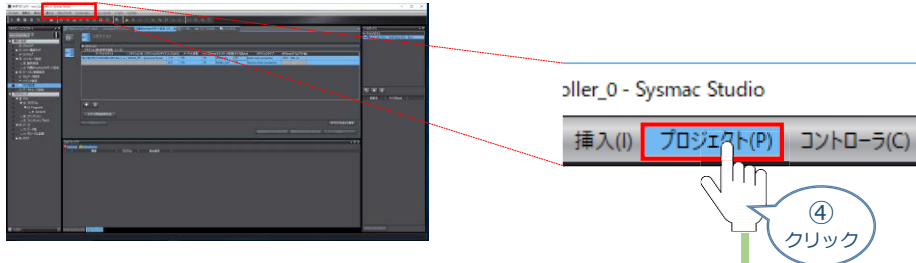
- ③ プログラムチェック後、**ビルドウィンドウ** タブが選択されます。エラーおよびワーニングが、ともに “0” であることを確認します。

プロジェクト画面

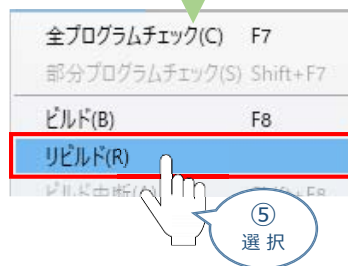


- ④ プロジェクト画面のメニューバーから、**プロジェクト(P)** を選択します。

プロジェクト画面

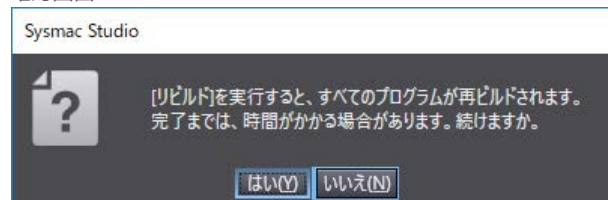


- ⑤ **リビルド(R)** を選択します。



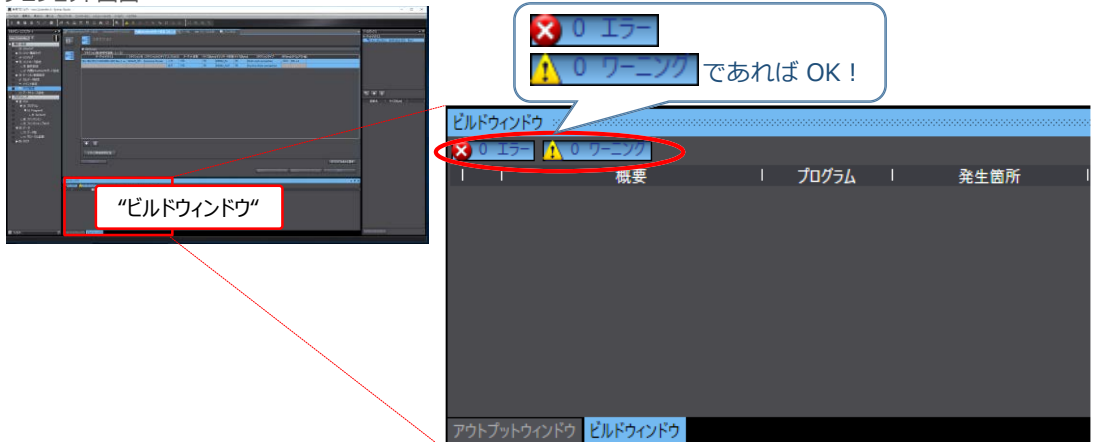
- ⑥ 確認画面 が表示されます。 **はい(Y)** をクリックします。

確認画面



- ⑦ プログラムチェック後、**ビルドウィンドウ** タブが選択されます。エラーおよびワーニングが、ともに “0” であることを確認します。

プロジェクト画面

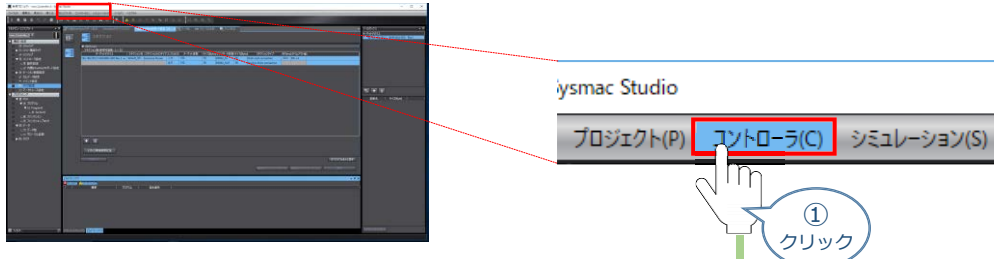


2

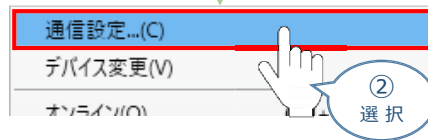
パソコンとPLCの接続

- ① プロジェクト画面のメニューバーから、**コントローラ(C)** を選択します。

プロジェクト画面



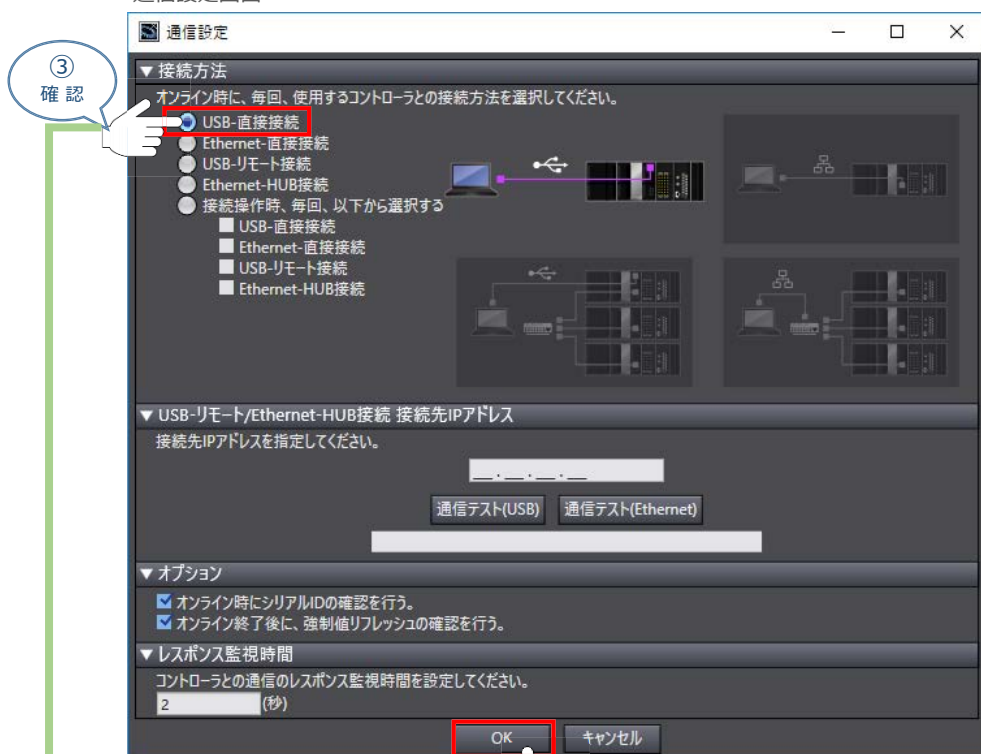
- ② **通信設定...(C)** を選択します。



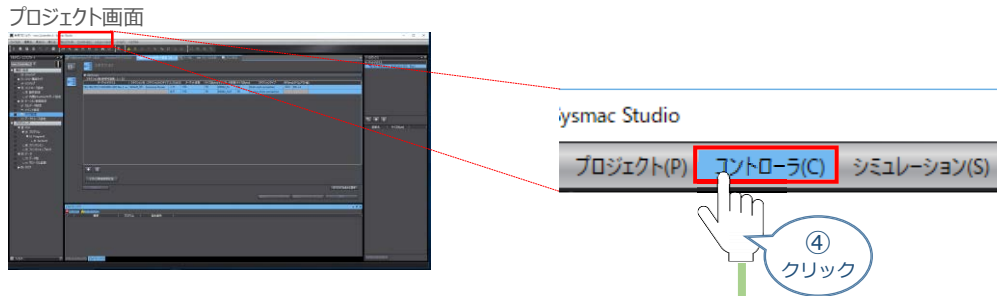
- ③ 通信設定画面が表示されます。

USB-直接接続 が選択されていることを確認し、**OK** をクリックします。

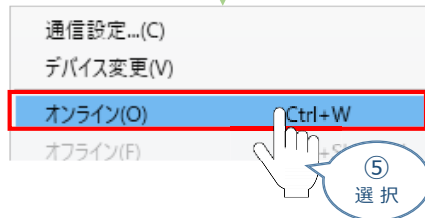
通信設定画面



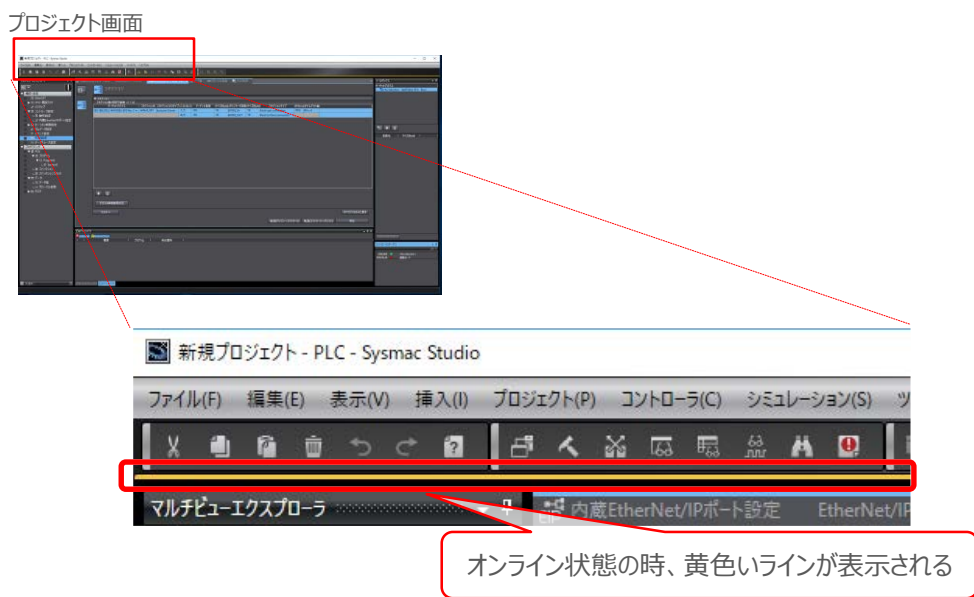
- ④ プロジェクト画面のメニューバーから、“コントローラ(C)”を選択します。



- ⑤ オンライン(O) を選択します。

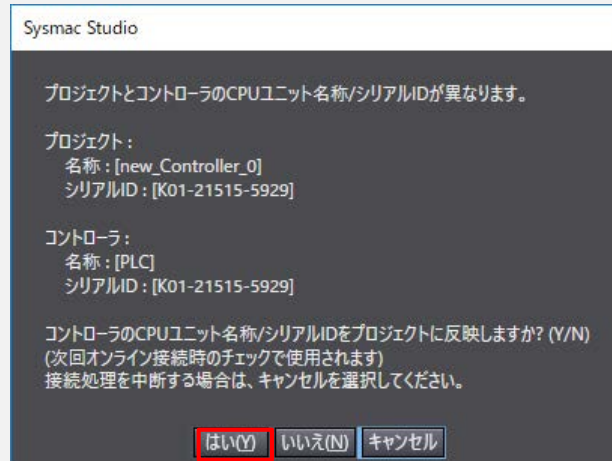


- ⑥ オンライン状態になると、ツールバーの下端に黄色いラインが表示されます。





オンラインへの移行時に確認画面が表示されることがあります。その場合は、内容を確認し、**はい(Y)**をクリックします。
使用するPLCの状態により、表示されるダイアログが異なりますが、内容を確認し、[はい]や[Yes]など処理を進める選択を行ってください。

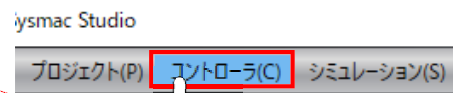
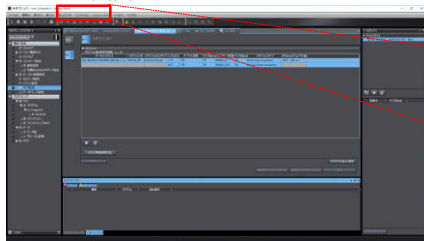


3

データの転送

- ① プロジェクト画面のメニューバーから、**コントローラ(C)**を選択します。

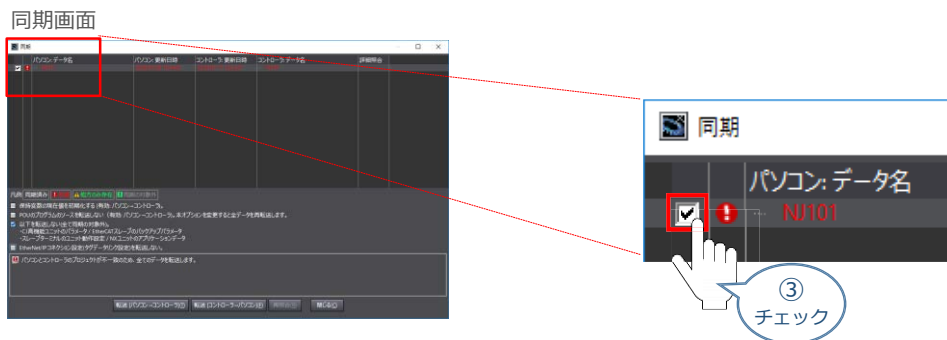
プロジェクト画面



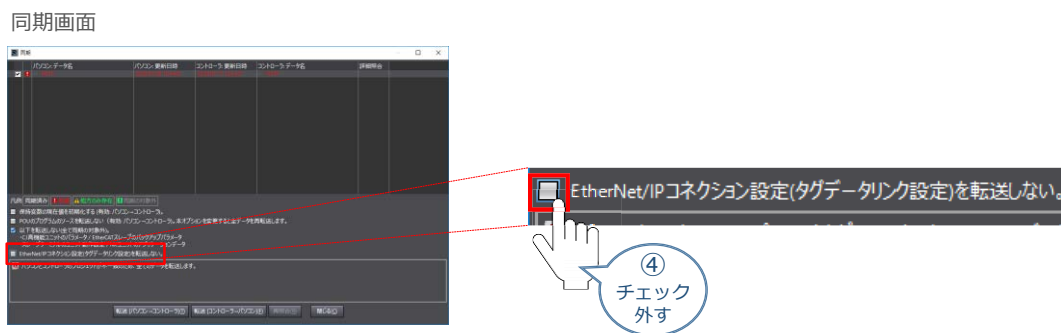
- ② **同期...(Y)** を選択します。



- ③ 同期画面が表示されますので、転送したいデータ（この事例では NJ101）にチェックします。



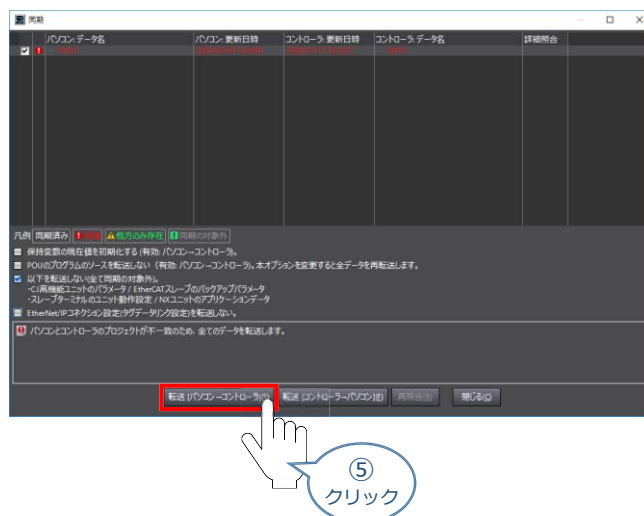
- ④ 「EtherNet/IPコネクション設定(内蔵ポート、ユニット)を転送しない。」のチェックを外します。



- ⑤ 転送 パソコン→コントローラ① をクリックします。

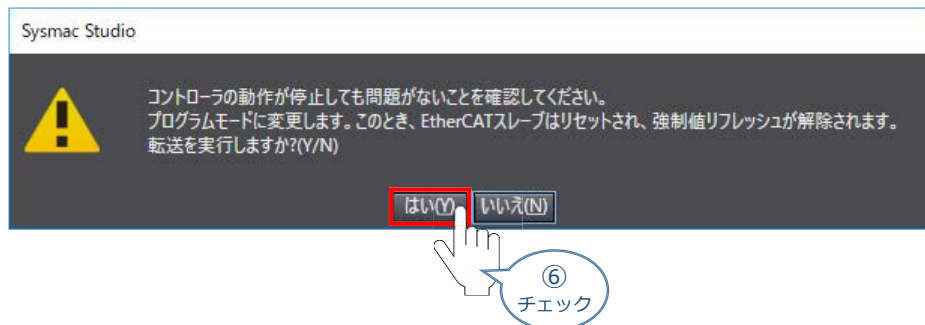
※ 転送 パソコン→コントローラ① を実行するとSysmac Studioのデータをコントローラに転送して、データの照合を行います。

同期画面



- ⑥ 転送実行確認画面が表示されますので、PLCの動作が停止しても問題ないことを確認し、**はい(Y)** をクリックします。

転送実行確認画面



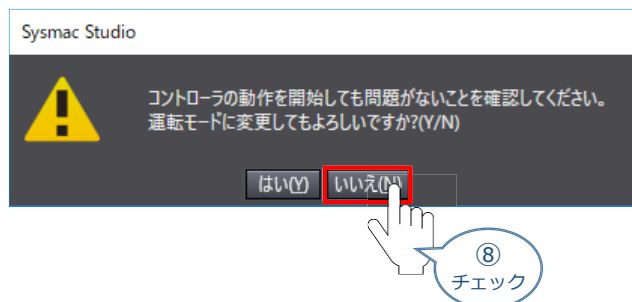
- ⑦ 同期中画面が表示されますのでそのまま待ちます。

同期中画面



- ⑧ 運転モードに変更確認画面が表示されますのでPLCが動作開始しても問題ないことを確認し、**いいえ(N)** をクリックします。

運転モードに変更確認画面

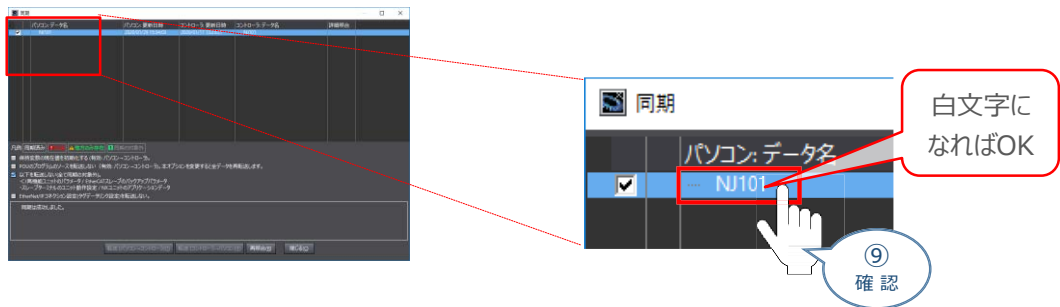


注意

「運転モード」に戻さないようにしてください。

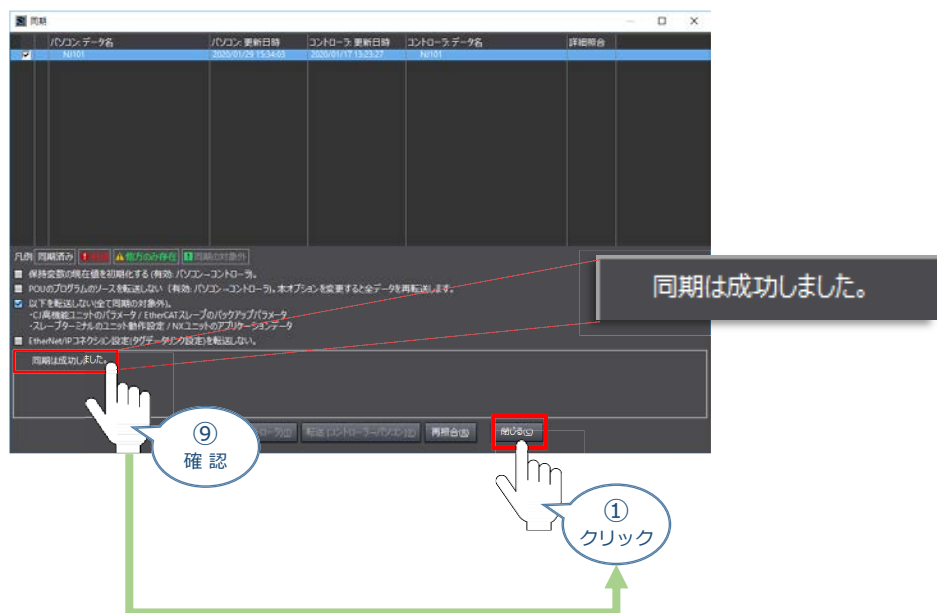
- ⑨ 同期したデータの文字色が凡例と同じ白に変わったことを確認します。

同期画面



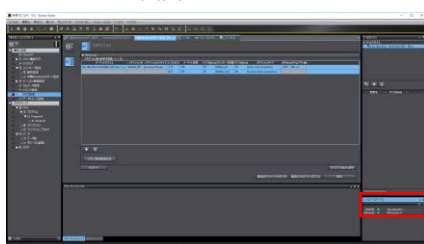
- ⑩ 「同期は成功しました。」と表示されることを確認し、閉じる(ⓧ)をクリックします。

同期画面

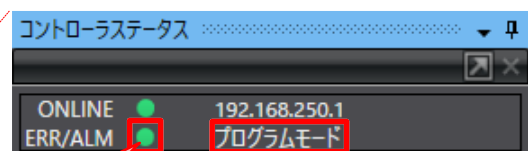


- ⑪ コントローラステータスの ERR/ALM が緑点灯。プログラムモードであることを確認します。

“プロジェクト”画面



“コントローラステータス”



緑点灯で
OK

“プログラムモード”で
OK

4 ネットワークの通信状態確認

用意するもの

PLC/RSELシステム

PLCの EtherNet/IPポート と RSELシステムの通信確認をします。

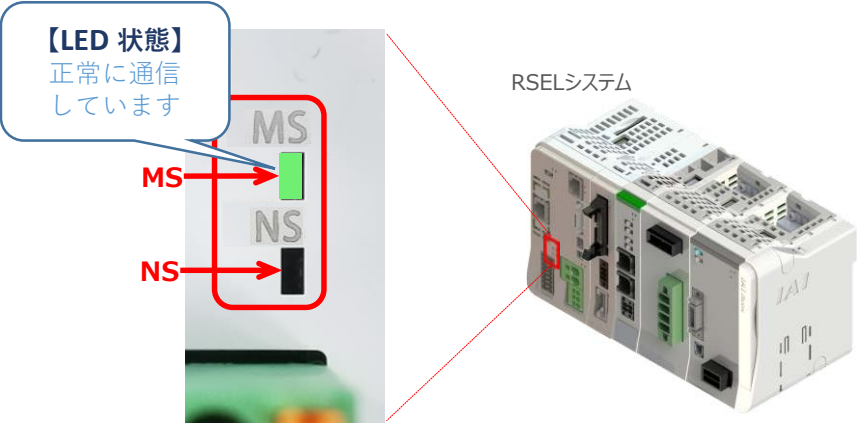


RSELシステムを立ち上げる際は、必ずPLCの電源、PIOの電源を入れた後に電源投入をしてください。先にRSELを立ち上げると、ネットワークやPIOのエラーが発生します。

1

RSELシステム 通信状態確認

SELユニット前面にある LED（MS と NS）の表示状態（色）を見て正常通信状態であるか確認をします。



LEDの表示状態

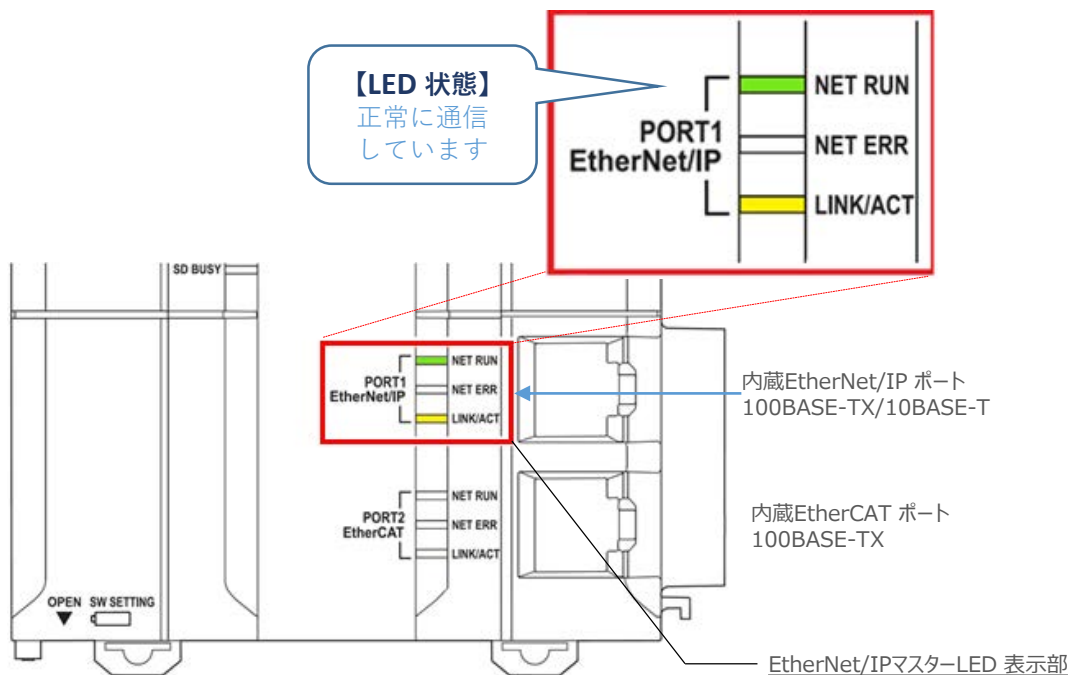
名称	色	表示状態	説明
NS	■ 緑	●	コネクションが確立し、正常に通信中です。
	■ 緑	★	オンライン状態になっているが、コネクションが確立していません。通信停止中(ネットワークは正常)です。マスタユニットの状態を確認してください。
	■ 赤	★	通信異常です。(通信タイムアウトを検出しました)
	■ 赤	●	通信異常です。IPアドレス重複などのエラー検出により通信できません。
	—	×	電源OFF。または、IPアドレス未設定。
MS	■ 緑	●	正常動作中です。 スキャナ(マスタ)のコントロール下にある状態
	■ 緑	★	スキャナ(マスタ)とのコネクションが確立していません。 構成情報の設定を確認してください。 スキャナ(マスタ)がアイドル状態になっていないか確認してください。
	■ 赤	★	ハードウェア異常です。 ボード交換が必要です。当社までお問い合わせください。
	■ 赤	●	コンフィグレーション異常、設定不正などの軽微な異常です。 再設定などで回復可能です。
	—	×	電源OFF

○：点灯、×：消灯、☆点滅

2

PLCの通信状態確認

PLCの前面にある 3つの LED（NET RUN, NET ERR, Link/ACT）の状態を見て通信しているかを判断します。



LEDの表示状態

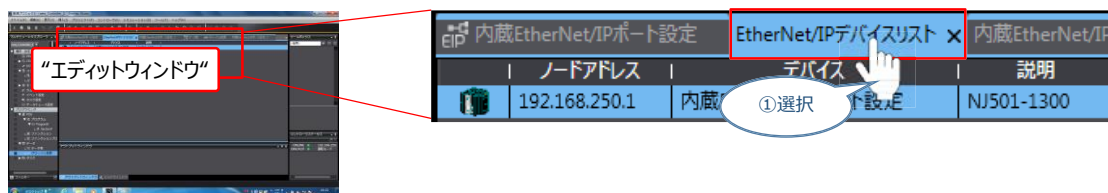
ラベル	色	点灯状態	説明
NET RUN	■ 緑	点灯	Ethernet 通信が行えません。 - 電源 OFF 状態、または、リセット状態 - MAC アドレス異常、通信コントローラ異常が発生中 - IP アドレス重複
		点滅	Ethernet 通信を行っています。 - タグデータリンクコネクション確立中（オリジネータ動作） - BOOTP による IP アドレス獲得中
		消灯	通信停止中 - 電源OFF状態、またはリセット状態 - MACアドレス異常、通信コントローラ故障等が発生中
NET ERR	■ 赤	点灯	ユーザによる対処で復旧できない異常が発生しています。 MAC アドレス異常、通信コントローラ異常が発生中
		点滅	ユーザによる対処で復旧できる異常が発生しています。 - TCP/IP 通信、CIP 通信で異常が発生している状態 - FTP サーバ設定異常、NTP サーバ設定異常など - タグデータリンク設定異常、タグデータリンク照合異常など - IP アドレス重複
		消灯	Ethernet 通信に関する異常は発生していません。 電源 OFF 状態、または、リセット状態
Link/ ACT	■ 黄	点灯	リンクが確立しています。
		点滅	リンクが確立し、データを送受信しています。
		消灯	リンクが確立していません。 - ケーブル未接続の状態 - 電源 OFF 状態、または、リセット状態

3

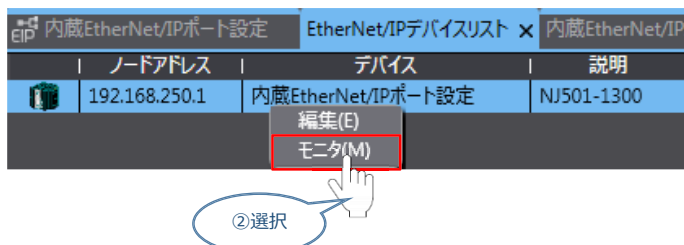
Sysmac Studioからの通信確認

- ① プロジェクト画面、エディットウィンドウにある、“EtherNet/IP デバイスリスト” タブを選択します。

プロジェクト画面

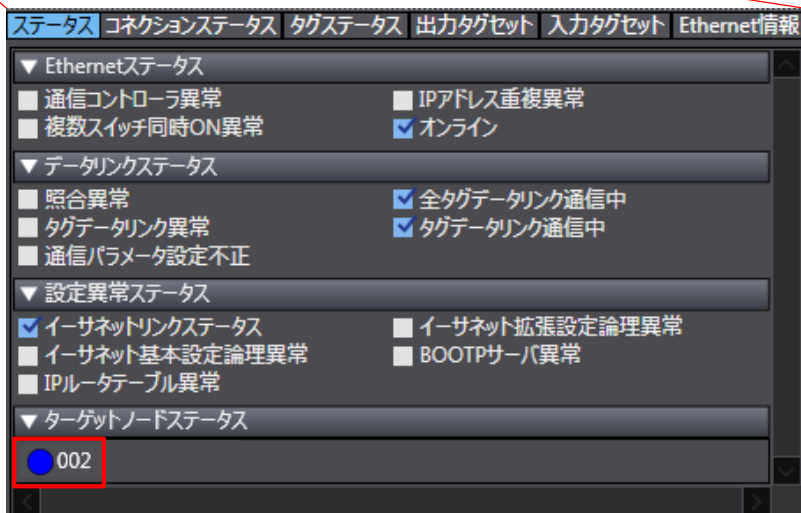
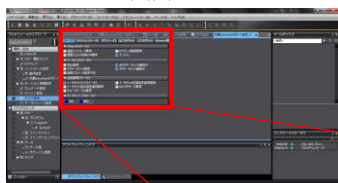


- ② 内蔵EtherNet/IPポート設定 を選択した状態で、マウスの右ボタンをクリックします。
右クリックメニューから、モニタを選択します。



- ③ 内蔵EtherNet/IPポート設定コネクションモニター タブが表示されます。
エディットウィンドウにモニタ画面が表示されます。
ステータスのターゲットノードステータスが青 ● で正常です。

“プロジェクト” 画面



以上で、PLCの設定は完了です。

STEP 3

動作させる

1. パソコン専用ティーチングソフトから動作させる p102

1 パソコン専用ティーチングソフトから動作させる

○ コントローラー立上げとXSEL用パソコン対応ソフトの接続

1 パソコン用通信ケーブルの接続と電源投入

用意する物

RSELシステム/PLC/通信ケーブル/
モーターエンコーダーケーブル

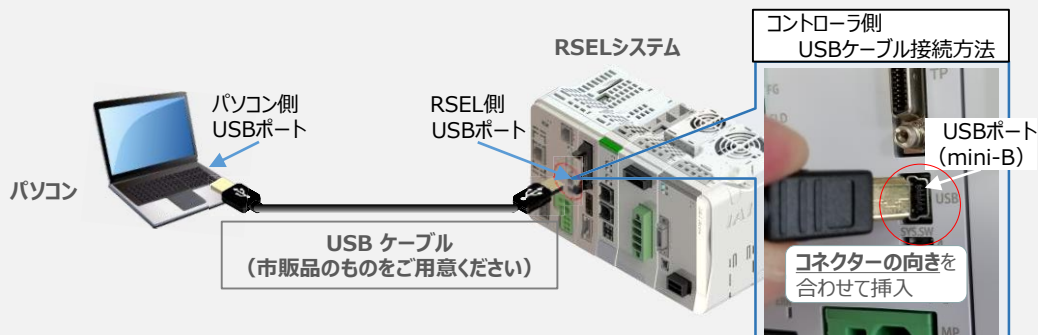


注意

以下の手順から、アクチュエーターの動作を行います。動作をはじめる前に、アクチュエーター可動範囲内に干渉物がないか十分に確認してください。また、アクチュエーター動作時に即時停止を必要とする場合の安全回路が準備されているか確認をお願いします。

- ① USBケーブルを下図のように接続します。

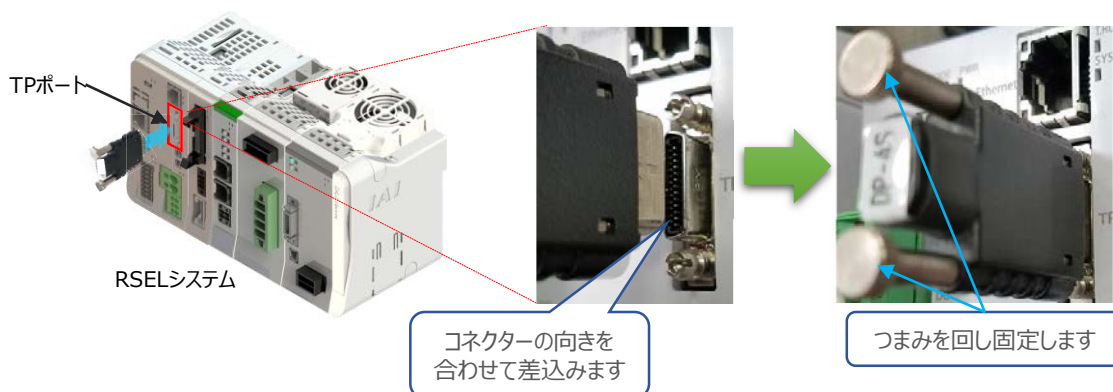
接続図



注意

コントローラ『USB』ポートに USBケーブルを接続する際は、上記赤枠内の通りコネクタの向きを合わせた上、挿入してください。行わない場合コネクタを破損させる原因になります。

- ② TPポートにダミープラグ（型式：DP-4S）を接続します。

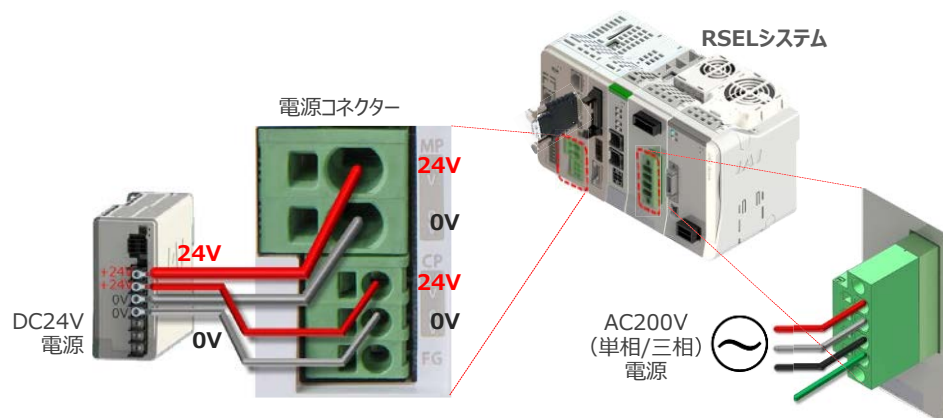




注意

USB コネクタを使用する場合、イネーブル信号検出が働いてしまいます。
SIO コネクタにダミープラグ(DP-4S)またはパソコン対応ソフト付属のケーブルを接続してください。

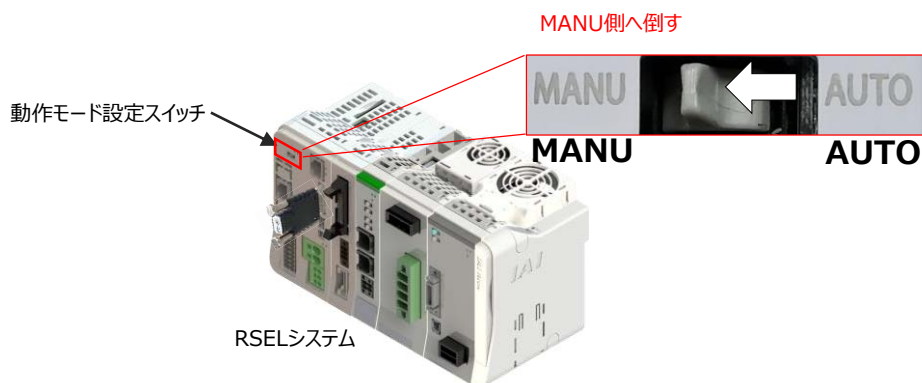
- ② USBケーブル接続後コントローラ-SELユニットの電源コネクター部にDC24V電源を、AC200V電源ユニットにAC200Vを投入します。



注意

RSELシステムを立ち上げる際は、必ず“PLCの電源”、“PIOの電源”を入れた後に電源投入をしてください。先にRSELを立ち上げると、ネットワークやPIOのエラーが発生します。

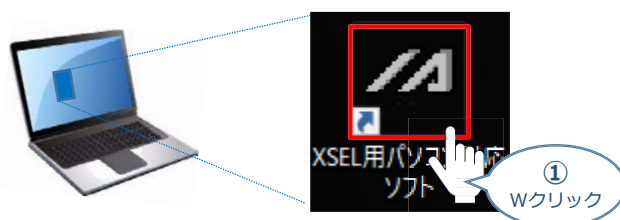
- ③ コントローラの動作モード設定スイッチを『MANU』側に倒します。



2

XSEL用パソコン対応ソフトの起動と通信接続

- ①  をWクリックし、ソフトウェアを起動します。



- ② 接続確認画面が表示されたら、**OK** をクリックします。

接続確認画面

接続確認

通信ポート COM7

波特率(bps) 115,200

コントローラと直接USB接続する場合、波特率(bps)は設定値に関係なく一定になります。

☐ 次回から起動時にこの画面を表示しない。

OK CANCEL



注意

同一のパソコンで複数の機器に接続している場合、“通信ポート”の欄から、対象のCOM番号を選択してください。

- ③ 複数プログラム同時起動設定画面が立上がります。

プルダウンリストから **複数プログラム同時起動許可 (MANU)** を選択します。

複数プログラム同時起動設定画面

複数プログラム同時起動設定

複数プログラム同時起動 (マニュアル時)

複数プログラム同時起動許可 (MANU)

☐ 次回から起動時にこの画面を表示

OK CANCEL



複数プログラム同時起動許可 (MANU)

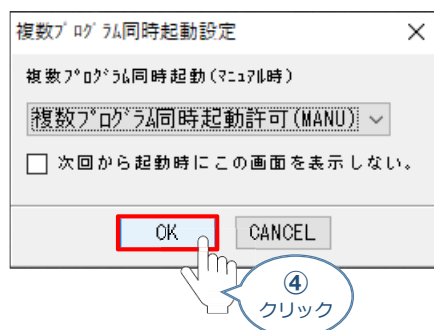
複数プログラム同時起動禁止 (MANU)

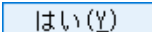
複数プログラム同時起動許可 (MANU)



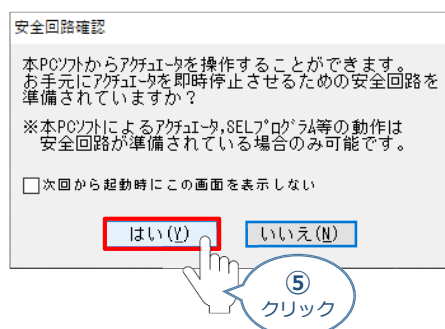
- ④  をクリックします。

複数プログラム同時起動設定画面



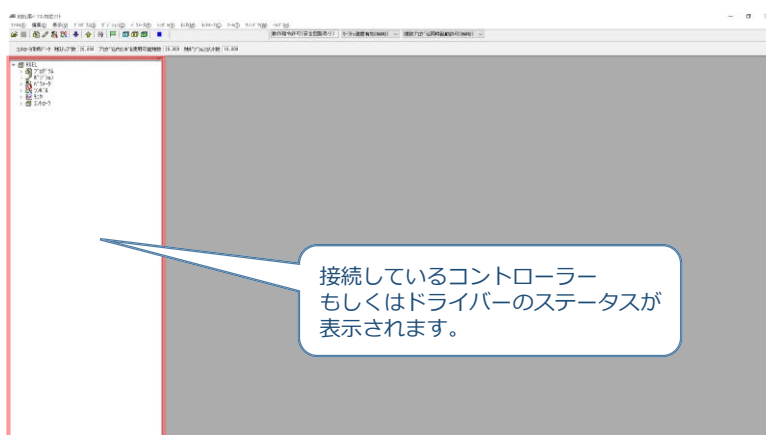
- ⑤ 安全回路確認画面が立上がります。  をクリックします。

"安全回路確認" 画面



- ⑥ XSEL用パソコン対応ソフトのメイン画面が立上がります。

"メイン" 画面



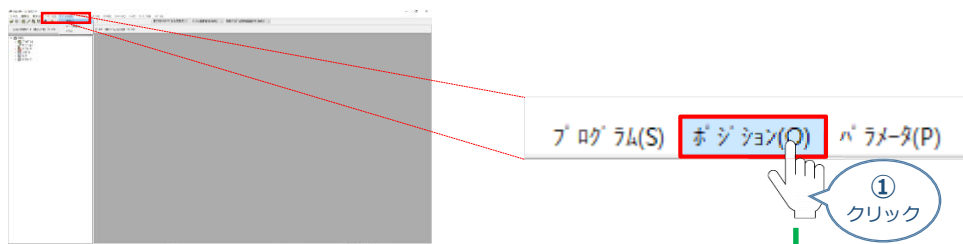
注意

XSEL用パソコン対応ソフトの“メイン”画面ステータス欄に何も表示されない場合は、通信ができていない状態です。通信できていない場合は、コントローラに接続している通信ケーブルの挿入具合や断線していないかをご確認ください。

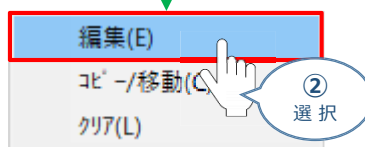
3 ポジションデータ編集画面を開く

- ① メイン画面 上部メニューバーにある **ポジション(O)** をクリックします。

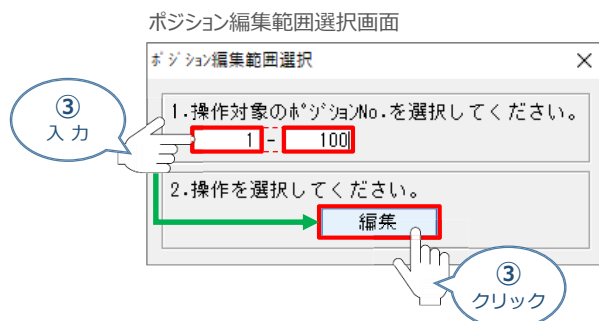
メイン画面



- ② **編集(E)** をクリックします。

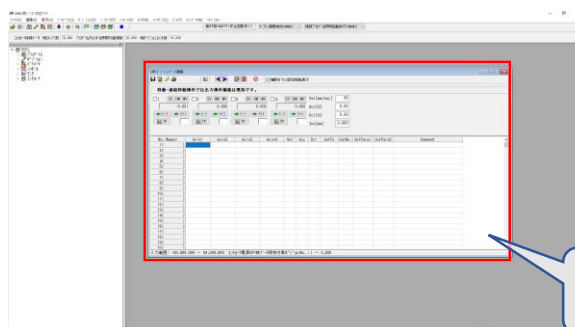


- ③ ポジション編集範囲選択画面が表示されます。
操作対象のポジションNo.を入力し、**編集** をクリックします。



- ④ ポジションデータ編集画面 が表示されます。

メイン画面



アクチュエーターの動作確認

アクチュエーターの動作確認については、AXIS 1 を例に説明をします。



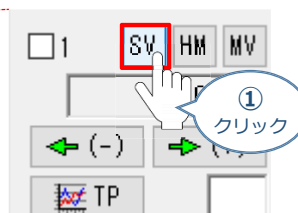
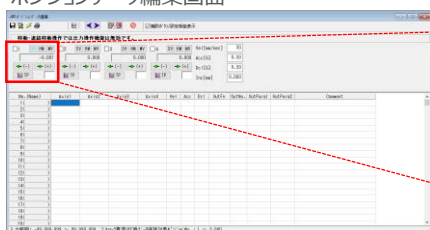
以下の手順から、アクチュエーターの動作を行います。動作をはじめる前に、アクチュエーター可動範囲内に干渉物がないか十分に確認してください。また、アクチュエーター動作時に即時停止を必要とする場合の安全回路が準備されているか確認をお願いします。

1

アクチュエーターのモーターに電源を入れる（サーボON）

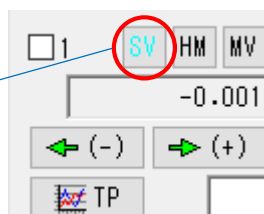
- ① **SV** **サーボ ON/OFF切替え** をクリックします。

ポジションデータ編集画面



- ② 正常にサーボオンすると **SV** ⇒ **SV** に変化します。

水色点灯
サーボON !

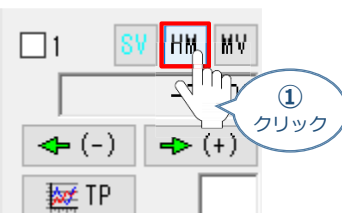
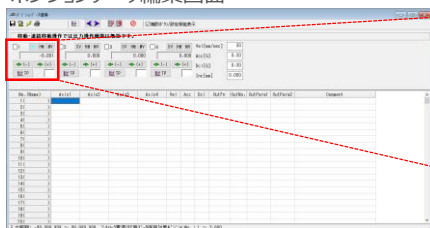


2

アクチュエーターを原点復帰させる

- ① **HM** **原点復帰実行** をクリックします。クリック後、原点復帰が始まります。

ポジションデータ編集画面



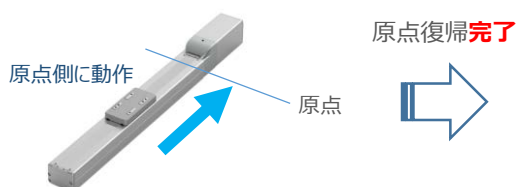
原点復帰開始

原点側に動作

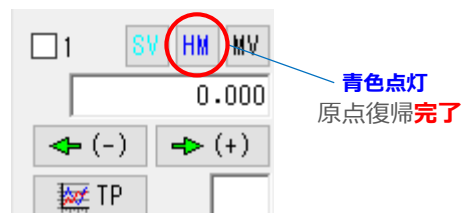
原点



- ② 原点復帰完了すると **HM** ⇒ **HM** に変化します。



原点復帰完了



注意

原点復帰速度の変更はお控えください。

速度を大きくすると、アクチュエーター動作部がメカエンドに当たる際の衝撃が大きくなります。長期的にアクチュエーター機構に悪影響を及ぼし、原点位置の誤差量が大きくなる等の不具合が生じる可能性があります。

補 足

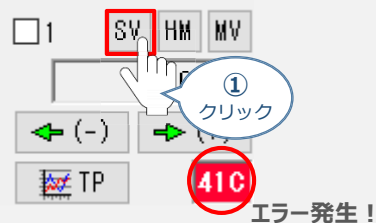
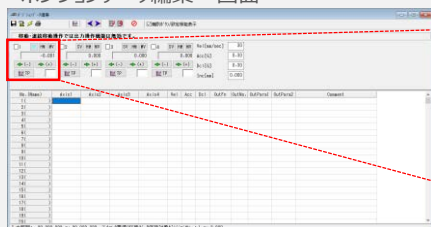
アブソリュートエンコーダー異常検出が出ている場合

アブソリュートエンコーダー異常検出エラー（コード：41C）が発生した場合には、アブソリュートリセットを行う必要があります。手順を以下に記します。



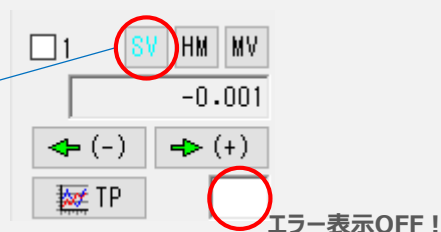
- ① **SV** サーマ ON/OFF切替え をクリックします。

“ポジションデータ編集”画面



- ② エラーがリセットされ、**SV** ⇒ **SV** に変化します。
あわせて、エラー表示が消えます。

水色点灯
サーボON！

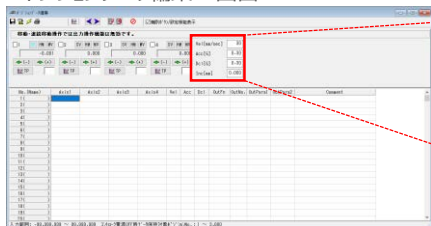


- ③ 原点復帰操作を行います。

3 アクチュエーターをJOG（ジョグ）動作させる

- ① ジョグ速度を設定します。（事例では、初期値の30mm/sとします）

“ポジションデータ編集”画面



Vel [mm/sec] **30**

Acc [G] 0

Dcl [G] 0.30

Inc [mm] 0.000

①
設定

Point !

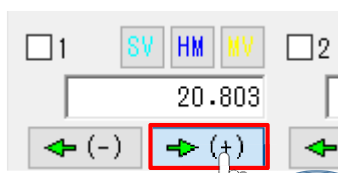


Vel(速度)、Acc(加速度)、Dcl(減速度) の最大設定値は、以下の通りです。

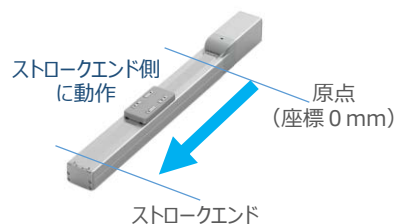
- ・速度：250mm/sec
- ・加速度：MC共通パラメーターNo.11
- ・減速度：MC共通パラメーターNo.12

- ② ➡ (+) をクリックしている間、アクチュエーターがストロークエンド側に動作します。

- (+)方向をクリックしている間、ストロークエンド方向に移動します。

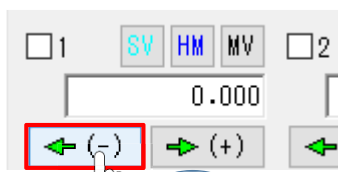


②
クリック

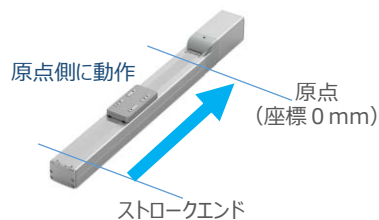


- ③ ← (-) をクリックしている間、アクチュエーターが原点側に動作します。

- (-)方向後退をクリックしている間、原点方向に移動します。



③
クリック

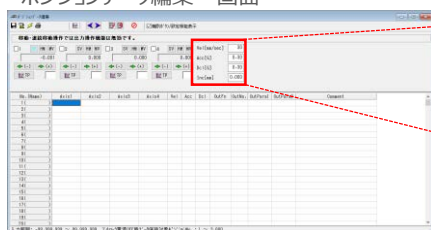


4

アクチュエーターを インチング動作させる

- ① インチング動作での移動量を設定します。（事例では、1.000mm とします）

“ポジションデータ編集” 画面



Vel [mm/sec] 30
Acc [G] 0.30
Dec [G] 0.30
Inc [mm] 1.000

①
設定



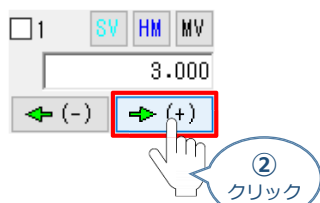
注意

インチング距離は、0.001mm ～ 1.000mm まで入力可能です。値が入力されることでインチング動作が有効になります。

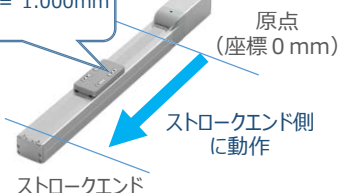
0.000mm 設定の場合はJOG動作が有効になります。（Default値）

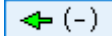
- ②  をクリックすると、設定した距離分アクチュエーターがストロークエンド方向に移動します。

- (+)方向を1回クリックすると、設定した距離分ストロークエンド方向に移動します。

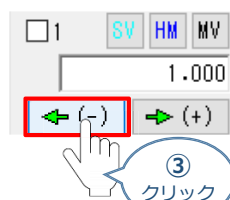


事例では、
1クリック = 1.000mm
進みます

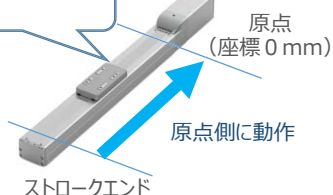


- ③  をクリックすると、設定した距離分アクチュエーターが原点方向に移動します。

- (-)方向を1回クリックすると、設定した距離分原点方向に移動します。



事例では、
1クリック = 1.000mm
進みます



Point !



インチング用ボタンを押し続けるとジョグ動作に変わります。インチング用ボタンを押してから約1.6秒後にジョグ動作に変わります。さらに押し続けるとジョグ動作が約1秒毎に【1→10→30→50→100(mm/s)】と変化します。

ポジション（目標位置）データの登録

1

位置の取込み

アクチュエーターが現在いる位置（座標）のデータを取込み、ポジションデータとして登録します。
事例では、Axis1のアクチュエーターを例に説明します。

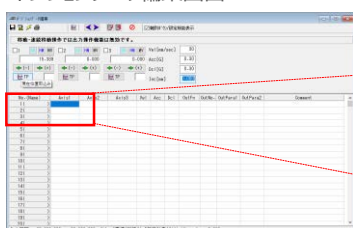
- ① ジョグやインチング動作等で、ポジションデータとして取込みたい位置にアクチュエーターを動かします。

登録ポジション No.1
(座標 : 15.389mm)

ジョグやインチングなど
任意の動かし方で位置を決めます。

- ② 登録したいポジションNo.を選択します。（事例ではポジションNo.1 に設定）

ポジションデータ編集画面

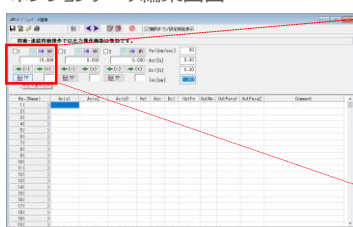


No. (Name)	Axis1	Axis2
1 ()		
2 ()		
3 ()		

②
選択

- ③ 登録したいポジションNo.を選択し、 **現在位置取込み** をクリックします。

ポジションデータ編集画面



現在位置表示

15.389

← (-) → (+)

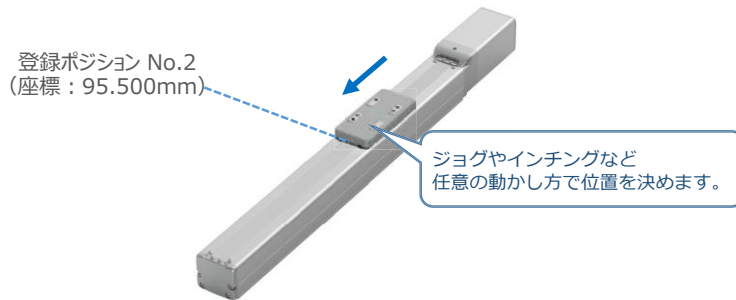
 **位置取込み**

③
クリック

現在位置が
取込まれます

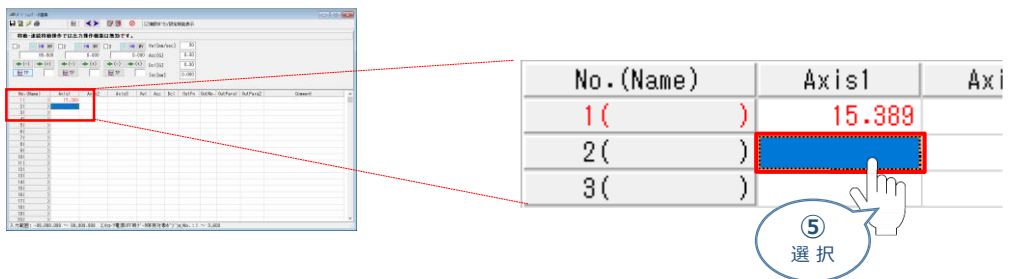
No. (Name)	Axis1	Axis2
1 ()	15.389	
2 ()		
3 ()		

- ④ ジョグやイン칭ング動作等で、ポジションデータとして取込みたい位置にアクチュエーターを動かします。



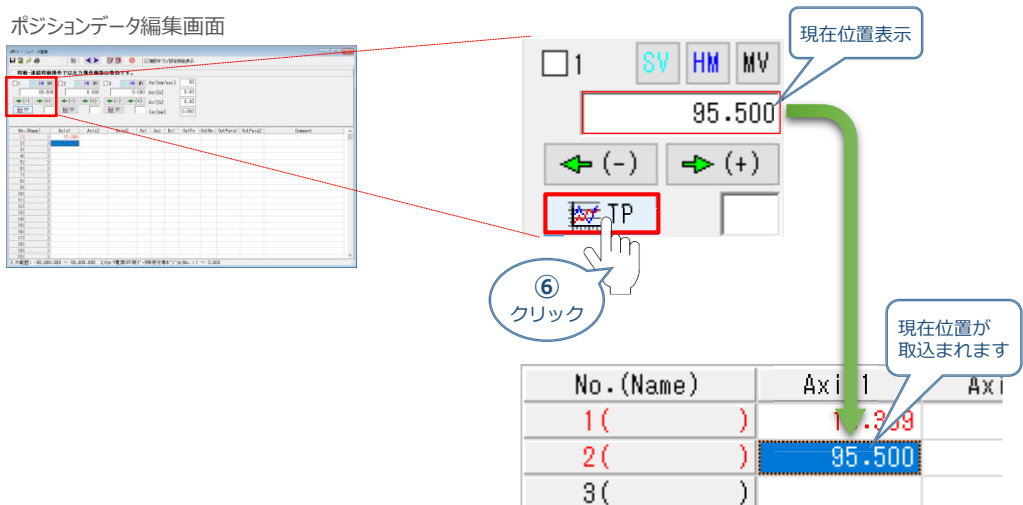
- ⑤ 登録したいポジションNo.を選択します。(事例ではポジションNo.2 に設定)

ポジションデータ編集画面



- ⑥ 登録したいポジションNo.を選択し、 TP 現在位置取込み をクリックします。

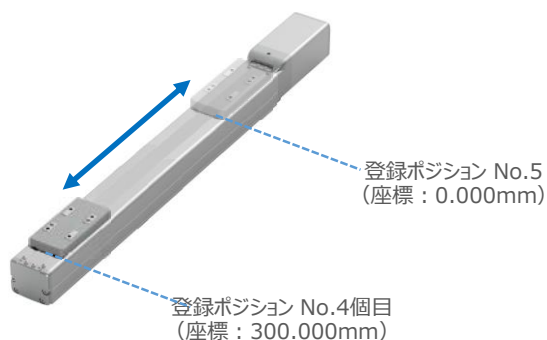
ポジションデータ編集画面



2

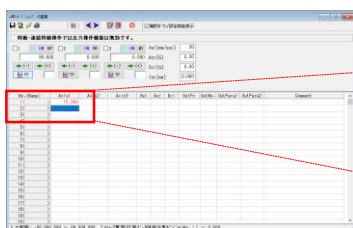
目標位置の直接入力

ポジションデータを直接入力して設定をします。



- ① ポジションテーブル入力部の 入力したいポジションNo. 位地にカーソルを合わせます。

ポジションデータ編集画面



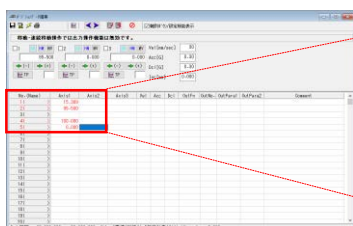
No. (Name)	Axis1	Axis2
1 ()	15.389	
2 ()	95.500	
3 ()		
4 ()		
5 ()		

①
選択

- ② アクチュエーターのストローク内で任意の座標値を入力し、お使いのパソコンの **[Enter]** キーを押します。

(下記事例ではポジションNo.4に 300〔mm〕、ポジションNo.5に 0〔mm〕を入力します。)

ポジションデータ編集画面



No. (Name)	Axis1	Axis2
1 ()	15.389	
2 ()	95.500	
3 ()		
4 ()	300.000	
5 ()	0.000	

位置 + **[Enter]** 入力するとポジションデータが入力されます。
変更をする場合は、再度カーソルを移動させて数値を入力してください。

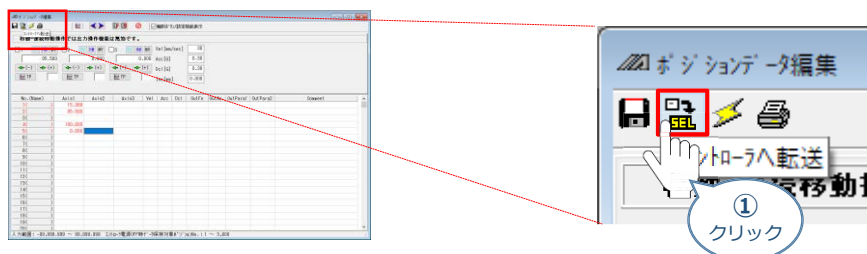
②
位置入力
+
[Enter]

3

ポジションデータの転送と書込み

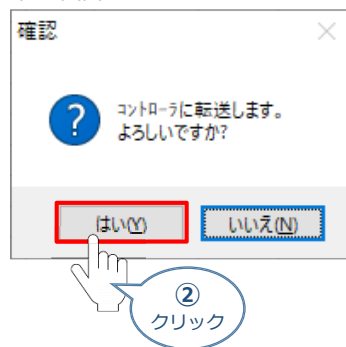
- ① ポジションデータ編集画面の上部にある  **コントローラへ転送** をクリックします。

ポジションデータ編集画面



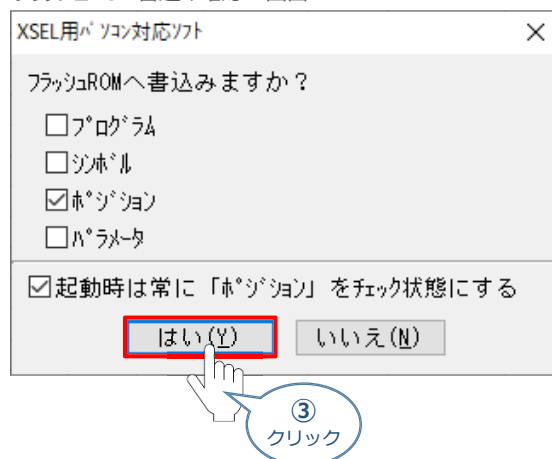
- ② 確認画面が表示されますので、 **はい(Y)** をクリックします。

確認画面



- ③ 「ポジション」にチェックマークを付け、 **はい(Y)** をクリックします。

"フラッシュROM書き込み確認"画面



- ④ フラッシュROM書き込み中画面が表示されますので、書き込みが終わるまで待ちます。

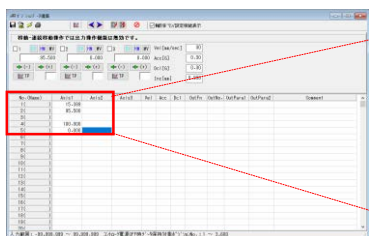
フラッシュROM書き込み中画面

XSEL用パソコン対応ソフト

フラッシュROM書き込み中

- ⑤ フラッシュROM書き込みが完了したら、ポジションデータが書込まれていることを確認します。

"ポジションデータ編集" 画面



No. (Name)	Axis1	Axis2
1 ()	15.389	
2 ()	95.500	
3 ()		
4 ()	300.000	
5 ()	0.000	

転送・書き込みが完了すると、
入力した値が赤色から黒色
に変化します。

※ 正常に書込めました。

補 足

ポジションデータ編集画面詳細

ポジションデータに登録できる内容を以下に記します。

● Vel : 速度 (単位 : mm/s)

● Acc : 加速度 (単位 : G)

● Dcl : 減速度 (単位 : G)

● Comment : ポジションにコメント
を入力できます

No. (Name)	Axis1	Axis2	Axis3	Vel	Acc	Dcl	OutFn	OutNo.	OutPara1	OutPara2	Comment
1 ()	15.389										
2 ()	95.500										
3 ()											
4 ()	100.000			500	0.50	0.50					
5 ()	0.000			250	0.30	0.30					

● ポジション出力操作データ

- ・ Out Fn : 出力ファンクションコードを選択します
- ・ Out No. : 操作対象の出力ポート・フラグを設定します。
- ・ OutPara1 : 各出力ファンクション毎に定義されたパラメータを設定します。
- ・ OutPara2 : 出力パルスタイマー時間を設定すると、1 ショットパルス出力します。



各項目の詳細説明につきましては、XSELパソコン対応ソフト取扱説明書（管理番号：MJ-0154-22J）以降）を参照願います。

登録したポジション（目標位置）への移動



注意

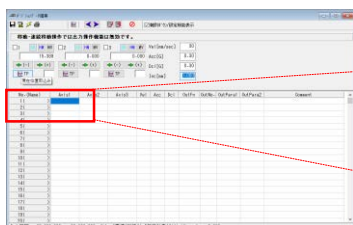
運転中の非常事態に対し、直ちに停止することができるよう非常停止回路を必ず設けてください。

1

指定位置移動

- ① 移動させたいポジションNo. 欄をクリックして選択します。

ポジションデータ編集画面

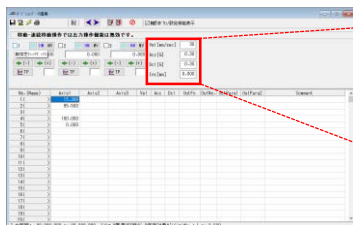


No. (Name)	Axis1	Axis2
1 ()	15.389	
2 ()	95.500	
3 ()		

①
選択

- ② 動作速度、加速度、減速度を設定します。
(事例では、Vel 30mm/s, Acc 0.30G, Dcl 0.30G とします)

ポジションデータ編集画面



Vel [mm/sec]	30
Acc [G]	0.30
Dcl [G]	0.30
Inc [mm]	0.000

②
設定※ 1G ≒ 9800mm/s²

Point !

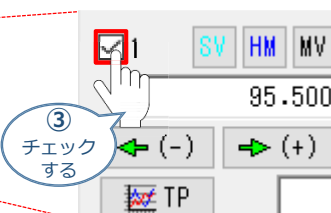
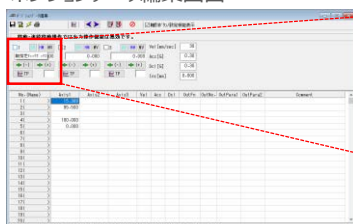


Vel(速度), Acc(加速度), Dcl(減速度) の最大設定値は、以下の通りです。

- ・ 速度 : 250mm/sec
- ・ 加速度 : MC共通パラメータNo.11
- ・ 減速度 : MC共通パラメータNo.12

- ③ 軸No.横の **軸指定チェックボックス** をチェックします。

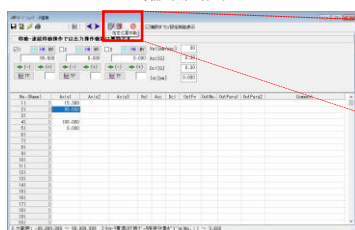
ポジションデータ編集画面

③
チェック
する

④ 指定位置に移動させます。

ポジションデータ編集画面上部にある  **指定位置移動** をクリックします。

ポジションデータ編集画面

④
クリック

指定したポジションに
向かいアクチュエーター
が動作します。

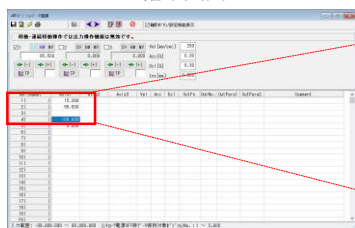
登録ポジション No.1
(座標：15.389mm)

2

指定位置連続移動

① 移動させたいポジションNo. 欄をクリックして選択します。

ポジションデータ編集画面



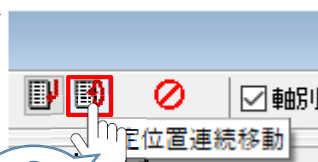
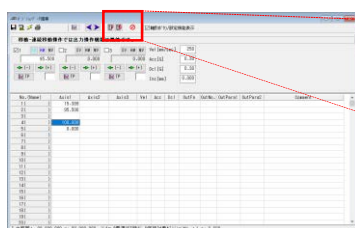
No. (Name)	Axis1	Axis2
1 ()	15.389	
2 ()	95.500	
3 ()		
4 ()	300.000	
5 ()		

①
選択

② 指定位置の連続移動をさせます。

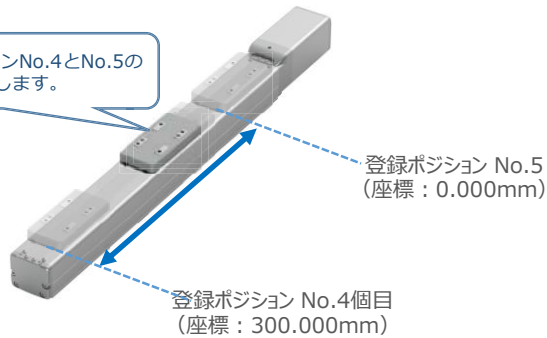
ポジションデータ編集画面上部にある  **指定位置連続移動** をクリックします。

"ポジションデータ編集" 画面

②
クリック

- ③ 指定したポジションデータから連続移動をはじめます。

本事例の場合、ポジションNo.4とNo.5の2点間を往復する動きをします。



注意

“指定位置連続運転”を行う場合の注意

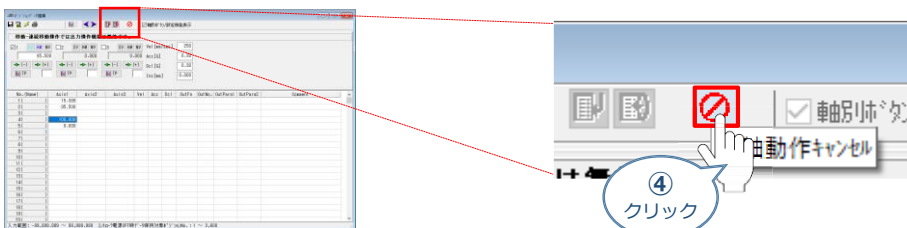
ポジションデータ編集画面から連続移動を行う場合、ポジションデータのセルに連続して入力している部分のみ動きます。

2 (	95.500
3 (	)
4 (	300.000
5 (	0.000
6 (	)

ポジションNo.4とNo.5の2点間を往復する動きになります。

ポジションNo.3やNo.6に入力データが無い場合、ポジションNo.5からNo.4に戻ります。

- ④ 動作を止めたい場合は、 **全軸動作キャンセル** をクリックします。



補 足

試運転動作時の速度について

試運転を行う場合には、ステータスバーにある“セーフティー速度”機能の 有効 / 無効をご確認ください。

MANU動作時、セーフティー速度機能が有効になっている場合は、**パラメーターNo.35「セーフティー速度」に設定された速度**で制限がかかります。この場合、プログラムやポジションデーターに設定された速度通りに動作しない可能性があります。

設定をした速度で試運転を行いたい場合は、以下の手順でセーフティー速度機能を無効化します。

- ① メイン画面 のメニューバーにある **セーフティ速度有効(MANU)** をクリックします。

メイン画面

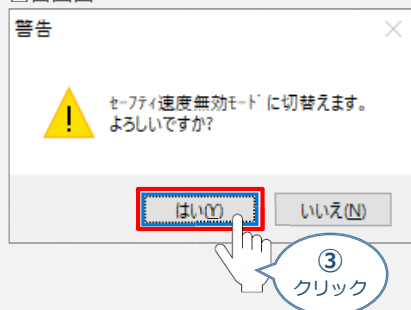


- ② **セーフティ速度無効(MANU)** を選択します。



- ③ 警告画面 が現れますので、**はい(Y)** をクリックします。

警告画面



- ④ セーフティー速度が“無効”に切替わります。

改版履歴

- | | |
|----------------|--|
| 2020.3 | 1A 初版発行 |
| 2020.8 | 1B ● [RSELシステムのパラメーター編集] について、内容変更 |
| 2020.12 | 1C ● STEP2-2 IPアドレス設定の誤りを修正
● ホームページ更新に伴うESDファイルのダウンロードページの更新 |
| 2023.4 | 1D ● [RSELシステムのパラメーター編集] について、内容変更 |
| 2023.6 | 1E ● パラメーター初期値の修正 |



株式会社アイエイアイ

本社・工場	〒424-0103 静岡県静岡市清水区尾羽577-1	TEL 054-364-5105 FAX 054-364-2589
東京営業所	〒105-0014 東京都港区芝3-24-7 芝エッセージビルディング 4F	TEL 03-5419-1601 FAX 03-3455-5707
大阪営業所	〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島6-2-40 中之島インテス14F	TEL 06-6479-0331 FAX 06-6479-0236
名古屋支店		
名古屋営業所	〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5-28-12 名古屋若宮ビル 8F	TEL 052-269-2931 FAX 052-269-2933
小牧営業所	〒485-0029 愛知県小牧市中央1-271 大垣共立銀行 小牧支店ビル 6F	TEL 0568-73-5209 FAX 0568-73-5219
四日市営業所	〒510-0086 三重県四日市市諏訪栄町1-12 朝日生命四日市ビル 6F	TEL 059-356-2246 FAX 059-356-2248
豊田支店		
新豊田営業所	〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町1-5-3 朝日生命新豊田ビル 4F	TEL 0565-36-5115 FAX 0565-36-5116
安城営業所	〒446-0058 愛知県安城市三河安城南町1-15-8 サンテラス三河安城 4F	TEL 0566-71-1888 FAX 0566-71-1877
盛岡営業所		
盛岡営業所	〒020-0062 岩手県盛岡市長田町6-7クエ21ビル7F	TEL 019-623-9700 FAX 019-623-9701
秋田出張所	〒018-0402 秋田県にかほ市平沢字行ヒ森2-4	TEL 0184-37-3011 FAX 0184-37-3012
仙台営業所	〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-6-6イースタンビル 7F	TEL 022-723-2031 FAX 022-723-2032
新潟営業所	〒940-0082 新潟県長岡市千歳3-5-17 センザビル2F	TEL 0258-31-8320 FAX 0258-31-8321
宇都宮営業所	〒321-0953 栃木県宇都宮市東宿郷5-1-16ルーセントビル3F	TEL 028-614-3651 FAX 028-614-3653
熊谷営業所	〒360-0847 埼玉県熊谷市籠原南1-312あかりビル 5F	TEL 048-530-6555 FAX 048-530-6556
茨城営業所	〒300-1207 茨城県牛久市ひたち野東5-3-2 ひたち野うしく池田ビル 2F	TEL 029-830-8312 FAX 029-830-8313
多摩営業所	〒190-0023 東京都立川市柴崎町3-14-2 BOSENビル 2F	TEL 042-522-9881 FAX 042-522-9882
甲府営業所	〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-12-1ミサビル3 F	TEL 055-230-2626 FAX 055-230-2636
厚木営業所	〒243-0014 神奈川県厚木市旭町1-10-6シャンロック石井ビル 3F	TEL 046-226-7131 FAX 046-226-7133
長野営業所	〒390-0852 長野県松本市島立943 ハーモネットビル401	TEL 0263-40-3710 FAX 0263-40-3715
静岡営業所	〒424-0103 静岡県静岡市清水区尾羽577-1	TEL 054-364-6293 FAX 054-364-2589
浜松営業所	〒430-0936 静岡県浜松市中区大工町125 シャンソンビル浜松7F	TEL 053-459-1780 FAX 053-458-1318
金沢営業所	〒920-0024 石川県金沢市西念3-1-32 西清ビルA棟2F	TEL 076-234-3116 FAX 076-234-3107
滋賀営業所	〒524-0033 滋賀県守山市浮気町300-21第2小島ビル2F	TEL 077-514-2777 FAX 077-514-2778
京都営業所	〒612-8418 京都府京都市伏見区竹田向代町559番地	TEL 075-693-8211 FAX 075-693-8233
兵庫営業所	〒673-0898 兵庫県明石市櫛屋町8-34甲南アセット明石第二ビル8F	TEL 078-913-6333 FAX 078-913-6339
岡山営業所	〒700-0973 岡山県岡山市北区下中野311-114 OMOTO-ROOT BLD.101	TEL 086-805-2611 FAX 086-244-6767
広島営業所	〒730-0051 広島県広島市中区大手町3-1-9 広島鯉城通ビル 5F	TEL 082-544-1750 FAX 082-544-1751
徳島営業所	〒770-0905 徳島県徳島市東大工町1-9-1 徳島ファーストビル5F-B	TEL 088-624-8061 FAX 088-624-8062
松山営業所	〒790-0905 愛媛県松山市榊味4-9-22フォーレスト 21 1F	TEL 089-986-8562 FAX 089-986-8563
福岡営業所	〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東3-13-21エフビルWING 7F	TEL 092-415-4466 FAX 092-415-4467
大分出張所	〒870-0823 大分県大分市東大道1-11-1タンネンバウム Ⅲ 2F	TEL 097-543-7745 FAX 097-543-7746
熊本営業所	〒862-0910 熊本県熊本市東区健軍本町1-1 拓洋ビル4F	TEL 096-214-2800 FAX 096-214-2801

お問い合わせ先

アイエイアイお客様センター エイト

(受付時間) 月～金24時間 (月7：00AM～金 翌朝7：00AM) 土、日、祝日8：00AM～5：00PM (年末年始を除く)	
フリー ダイヤル	0800-888-0088
FAX:	0800-888-0099 (通話料無料)

ホームページアドレス <http://www.iai-robot.co.jp>